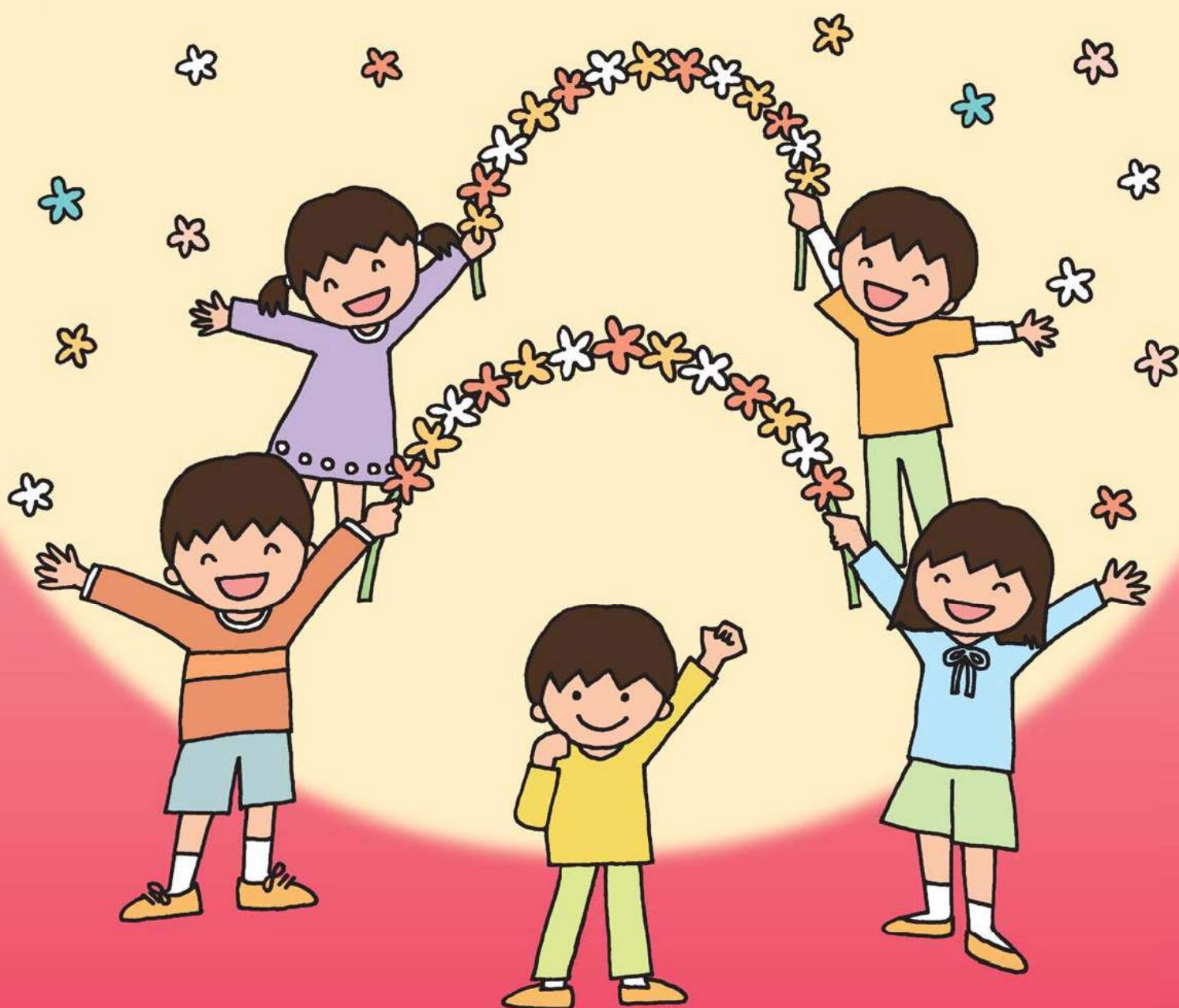


接続期における 教育・保育実践の手引き



八 尾 市
八尾市教育委員会

目 次

第1章 手引き作成にあたって	1
1. 趣旨	1
2. 位置づけ	2
3. 作成体制	3
第2章 接続期の考え方	4
1. 子どもの育ち、発達と幼保小連携の関係性	4
2. 4つの育みたい力の連続性と一貫性	6
3. 就学前教育・保育と小学校教育の特徴や違い	8
4. 接続期に大切にしたい4つの視点	9
5. 接続期のカリキュラム設定	11
第3章 アプローチカリキュラム	12
5歳児 9・10月	14
5歳児 11月	20
5歳児 12月	26
5歳児 1月	32
5歳児 2月	38
5歳児 3月	44
第4章 スタートカリキュラム	50
小学校1年生 4月第1週	56
小学校1年生 4月第2週	62
小学校1年生 4月第3週	68
小学校1年生 4月第4週	74
小学校1年生 5月	80
小学校1年生 6月	81
小学校1年生 7月	82
小学校1年生 4月の週案モデル	84
第5章 配慮や支援が必要な子どもの就学支援	88
第6章 幼稚園・保育所、小学校の連携(交流)	91
第7章 保護者支援(連携)・保護者啓発	96
資料編	99
1. 接続期における教育・保育実践の手引き作成経過	99
2. 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議設置要綱	100
3. 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議及び作業部会委員名簿	102

第1章 手引き作成にあたって

1. 趣旨

●接続期における教育・保育の重要性

平成 20 年3月の幼稚園教育要領（改訂）、保育所保育指針（改定）、小学校学校指導要領（改訂）により、幼保小の連携の必要性や就学前教育・保育と小学校教育の連続性と学びの基礎力の育成が重要視されるようになりました。

その中で、幼稚園・保育所の就学前教育・保育を小学校教育の先取り教育としてとらえるのではなく、小学校以降の教育の基礎を培うものと考え、特に幼稚園・保育所から小学校への接続期に関しては、連続性と一貫性をもった円滑な就学前教育・保育の実践につなげていくことが必要です。

●八尾市の状況

本市では、幼稚園や保育所がそれぞれの方針や特色を活かした教育・保育を実践するとともに、平成 22 年度から幼保小連携の強化を目的として、公立、私立の幼稚園・保育所の保育者、小学校の教師を対象とした合同研修会を実施しています。

平成 24 年度には、「就学前教育・保育実践の手引き」を作成し、市内の幼稚園・保育所に通う0～5歳児を対象にした連続性と一貫性のある教育・保育内容の作成や各園（所）での子どもの成長に関するエピソードをまとめました。

また、平成 24 年度には「幼保一体化の推進について」をまとめ、市内の幼稚園・保育所を就学前施設としてとらえ、そのあり方など質の高い教育・保育の提供について検討を進めています。

●手引き作成の目的

幼稚園・保育所と小学校が求められている役割や目的を踏まえ、発達と学びの連続性・一貫性を確保した体系的な教育・保育を円滑に行うことを目的として、「接続期における教育・保育実践の手引き」を作成しました。

なお、本手引きの特長としては、①「4つの育みたい力」に基づく「接続期に大切にしたい4つの視点」を定め、時期別でその教育・保育内容などを示していること、②接続期を「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」にわけ、幼保小にて実践できるカリキュラムとして提示していること、③幼保小での取り組み事例を多く紹介していることです。

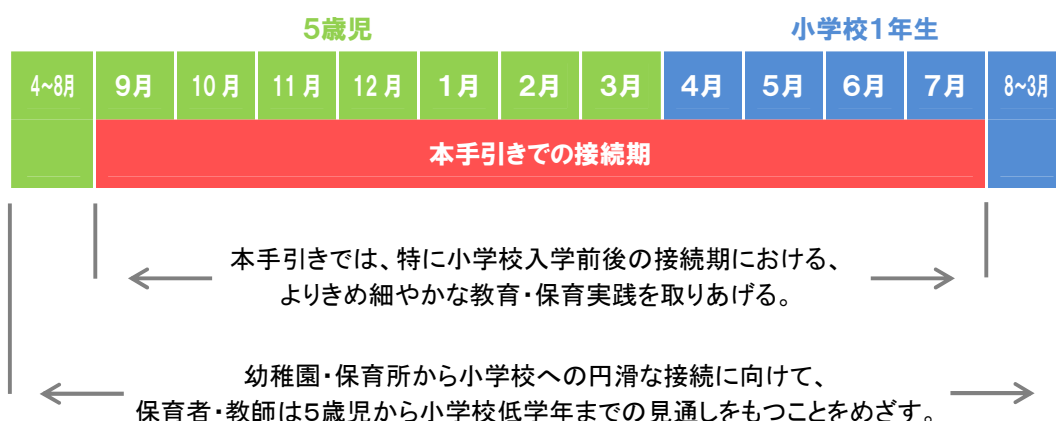
本手引きの活用の際には、この特長を活かすことで発達と学びの連続性・一貫性の確保に向けた、各幼稚園・保育所での教育・保育実践の充実や小学校での教育実践の充実、幼保小の連携強化につながると考えます。

2. 位置づけ

本手引きは、八尾市の幼児教育・保育、また小学校教育の現状や課題を踏まえ、5歳児の2学期ごろから小学校1年生の1学期ごろまでを対象に、幼稚園・保育所と小学校においてそれぞれが大切にすべき視点や内容、取組みについて示したものです。各幼稚園・保育所、小学校が日頃の就学前教育・保育や学校教育の実践で参考にするほか、指導計画・教育課程を作成する際の参考にするための手引きです。

本手引きにおける接続期のとらえ方

幼稚園・保育所から小学校への円滑な接続に向けては、5歳児から小学校低学年を見通す中で、本手引きでは特に小学校入学前後の接続期における、より細かな教育・保育内容を提示する観点から、接続期を5歳児9月～3月、小学校1年生4月～7月とします。



また、平成24年度に作成した「就学前教育・保育実践の手引き」を踏まえつつ、八尾市教育振興計画における～未来を切り拓く チャレンジする『八尾っ子』～へと成長する姿を見通しながら、その基礎となる力を育むための手引きとして作成しています。

なお、本手引き内の表記統一として、幼稚園・保育所の簡略した表記を「園（所）」、保育所（園）を「保育所」、幼稚園・保育所の園児や小学校児童を「子ども」として統一しています。

■八尾市がめざす子ども像（八尾市教育振興計画）



- ①知識を活用する子ども
- ②学習意欲あふれる子ども
- ③ねばり強い子ども
- ④健やかで心豊かな子ども
- ⑤生命を大切にする子ども
- ⑥人とのつながりを大切にする子ども
- ⑦マナーやルールを守る子ども
- ⑧わが国と郷土を愛する子ども

■ 4つの育みたい力（就学前教育・保育実践の手引き）

●大切にする力

自分に自信をもち、相手を思いやる力。人やもの（自然、動植物、事物等）に興味や関心をもってかかり、大切にする力。

●元気に生活する力

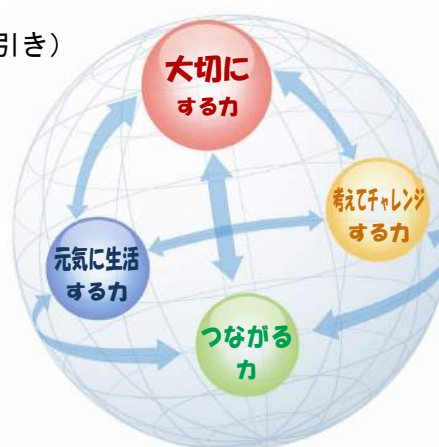
運動や食事を楽しみ、心身ともに元気で安全に生活する力。自分で身の回りを始末し、生活の場を整えるなど、一日の見通しをもって自立的に生活する力。

●つながる力

自分の思いや考えを言葉などの表現を通じて相手に伝えたり、相手の思いや話をきいて理解したりする力。友だちとのトラブルなどで気持ちの折り合いをつけたり、目的に向かって友だちと協力したりする力。

●考えてチャレンジする力

遊びの中で、ものの性質やしくみなどに好奇心をもってかかわって試したり、文字や数に興味をもって使ったりするなど工夫し探究する力。困難なことに出会っても挑戦したり、最後までやり遂げたりする力。



3. 作成体制

本手引きの作成にあたっては、平成24年度に「就学前教育・保育実践の手引き」の作成にかかるアンケート調査により、保育者や教師、保護者の就学前教育・保育や接続期に対する意見・要望を把握しました。また、「接続期における教育・保育実践にかかる事例」及び「幼稚園・保育所と小学校との連携・交流事例」に関する事例調査を行い、各幼稚園・保育所と小学校において実践している教育・保育内容や連携・交流の内容を事例として収集しました。

内容の検討にあたっては、「八尾市教育・保育実践の手引き検討会議」で審議を行い、「八尾市教育・保育実践の手引き検討会議作業部会」で内容の意見交換及び検討を行いました。

なお、「八尾市教育・保育実践の手引き検討会議作業部会」では、市内の幼稚園・保育所の保育者、小学校の教師が集まり、接続期の現状や課題、実践すべき教育・保育内容などについて意見交換を行い、八尾市が定める接続期のカリキュラムとして手引きにまとめました。

第2章 接続期の考え方

1. 子どもの育ち、発達と幼保小連携の関係性

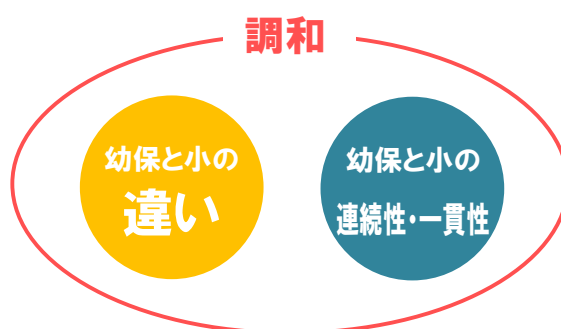
●円滑な接続を考えるために

幼稚園・保育所と小学校の円滑な接続に向けては、就学前教育・保育と小学校教育における“違い”を理解することが大切です。子どもの発達段階の違いから、教育課程の構成原理や指導方法など、さまざまな違いが見られます。

一方で、子ども一人ひとりの育ちと学びは、就学前と小学校とではっきりとわかれるものではなくつながっているため、就学前教育・保育と小学校教育との連続性・一貫性を確保することが必要です。

これらを踏まえ、幼稚園・保育所と小学校の接続を円滑に行うためには、就学前教育・保育と小学校教育の違いと連続性・一貫性を調和させることが必要です。

保育者・教師などが、この違いと連続性・一貫性を理解し、調和をはかることを意識する中で、何をどのように接続させていくのかを考えることが大切です。



●何を接続させるのか

接続期における教育・保育を考える際には、その目的・目標は連続性・一貫性のあるものとしてとらえることが大切です。すなわち、就学前教育・保育、小学校教育、また接続期における教育・保育では、その教育課程や教育活動が発達段階に応じて違いがあるものの、生きる力を育むことや本市のめざす「未来を切り拓く チャレンジする『八尾っ子』」を育てることにつながるものと考えます。

このことは、幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領、学校教育法で示されている教育の目的にあたる部分であり、その理念などは連続性・一貫性をもって構成されています。

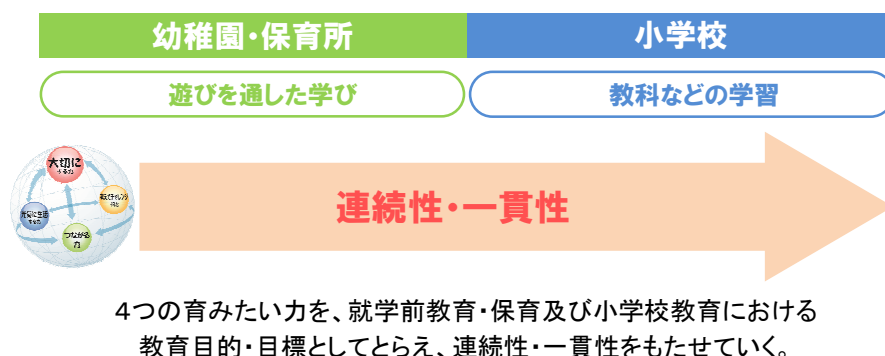
教育目的・目標

幼稚園	人格形成の基礎	(幼稚園教育要領)
保育所	人間形成の基礎	(保育所保育指針)
小学校	人間として調和のとれた育成 生涯にわたり学習する基盤を培う	(小学校学習指導要領) (学校教育法 第4章小学校)

その中で、本市では「就学前教育・保育実践の手引き」を作成し、八尾市のめざす「未来を切り拓く チャレンジする『八尾っ子』」や生きる力を育てることを見通して、4つの育みたい力を設定しています。

この4つの育みたい力は、就学前教育・保育が小学校以降の教育の基礎となる考えに基づき、就学前教育・保育及び小学校教育の教育目的・目標としてとらえることができます。

したがって、生涯にわたる人格形成の基礎や学びの基礎力を育てていくとともに、この4つの育みたい力の連続性・一貫性を確保していくことが大切です。



また、就学前教育・保育から小学校教育にかけては、発達段階を考慮し、幼児期の教育が遊びを通じた総合的な指導を行うのに対し、児童期の教育は各教科などの授業から構成されるという大きな違いがあります。

しかし、教育活動としては、ともに直接的・具体的な対象とのかかわりを重視している点で共通しています。具体的には、「人とのかかわり」と「ものとのかかわり」として整理されます。

「人とのかかわり」……自分とのかかわりや他の人・集団とのかかわり

「ものとのかかわり」……自然とのかかわりや身の回りのものとのかかわり

これらを踏まえ、特に接続期において、就学前教育・保育は今の学びが小学生になる時にどのように育っていくのかを見通すことが大切であり、小学校教育はこれまでの学びがどのように培われてきたのかを確認することが大切です。幼保小連携を通して、保育者と教師が子どもの育ちや学びの見通し・確認を共有することで、円滑な接続につながると考えられます。

参考文献：幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」平成22年11月

2. 4つの育みたい力の連続性と一貫性

幼稚園・保育所(おおむね5歳児)		
	要素	内容
大切に する力	自尊心・自信・安心	・身近な大人との信頼関係を築いて安心して生活し、自分や他の人を認める。 ・さまざまなことに自信をもって積極的に取り組む。 ・何かができた時に喜んだり、自分を褒めたりする気持ちをもつ。
	興味・関心・気づき・ 親しみ	・身近な環境にかかわり、さまざまなものや出来事に興味・関心をもつ。 ・身近な動植物に親しみ、生命の尊さに気づいて大切にする。 ・自然を見たりふれたりして、その美しさ・不思議さに気づく。 ・身近なものを大切にする。
	道徳性・思いやり・ 感謝	・家族や身近な大人からの愛情を受け、親しみをもってかかわる。 ・家族や友だちの大切さに気づき、感謝の気持ちや思いやりをもってかかわる。
元気に 生活する力	自立・自主性	・基本的な生活習慣を身につけ、自分で考えて行動する。 ・落ち着いて生活する中で、身の回りのことを自分でする。
	生活習慣・生活リズム	・早寝・早起き・朝ご飯など、健康な生活リズムを身につける。 ・一日の生活の流れを理解し、意識して行動する。
	規範意識・ルール・ 安全	・友だちと楽しく遊ぶためのルールがわかり、守ろうとする。 ・良いことと悪いことに気づき、自分で判断して行動する。 ・危険な場所や遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気をつけて行動する。
	発達・運動・遊び	・体を動かす心地良さを感じる。 ・友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わい、積極的に戸外へ出て体を動かす。 ・主体的に遊びを見つけて取り組み、遊び込む。
	食事・食育	・食べ物に興味・関心をもち、自分から進んで食べる。 ・食べ物のおいしさや食べる喜びを知り、楽しんで食事をする。 ・食べ物や食べることの大切さに気づき、残さず食べようとする。
つな がる力	話す・伝えあう・言葉	・自分の経験したことや感じたこと、思い、考えなどを自分なりの言葉で表現する。 ・わからないことや困ったこと、嫌なことを、身近な大人や友だちにはっきり伝える。 ・言葉を交わす喜びを味わい、言葉による伝えあいをする。 ・あいさつを交わしたり、返事をしたりする心地良さと大切さを知る。
	きく・理解する・くみ取る	・人の話を落ち着いて最後まできく。 ・人の話を集中してきき、理解しようとする。 ・表情や動きから、相手の思いをくみ取ろうとする。 ・絵本や物語などに親しみ、興味をもってきく。
	共感・折りあう・協同性	・友だちと積極的にかかわる中で、喜びや悲しみを共感しあう。 ・相手の考えを理解し、相手の気持ちに共感する。 ・トラブルや葛藤する体験を通して、相手の気持ちを理解し、自分の気持ちを調整することで、折りあいをつける。 ・友だちと楽しく活動する中で、共通の目的に向かって工夫したり協力したりする。
考 えて チ ャ レ ン ジ する力	挑戦・達成・ねばり強さ	・初めてのことや苦手なことにも、積極的に挑戦しようとする。 ・失敗してもあきらめずに、最後までやり遂げようとする。
	意欲・好奇心・ 探究心・活用	・さまざまなことに好奇心をもって意欲的に取り組み、その性質やしぐみに興味をもって探究しようとする。 ・日常生活の中で、文字や数量・図形などに関心をもち、遊びに取り入れようとする。
	感性・表現・工夫	・日常生活の中で、美しいものや心を動かすことに出会い、イメージを豊かにする。 ・感じたことやイメージしたことを自分なりに工夫して、かいたりつくったりすることを楽しんだり、音や動きなどで表現したりする。

就学前で定めた
4つの育みたい力が、
就学後にはどのように
発展しているか。

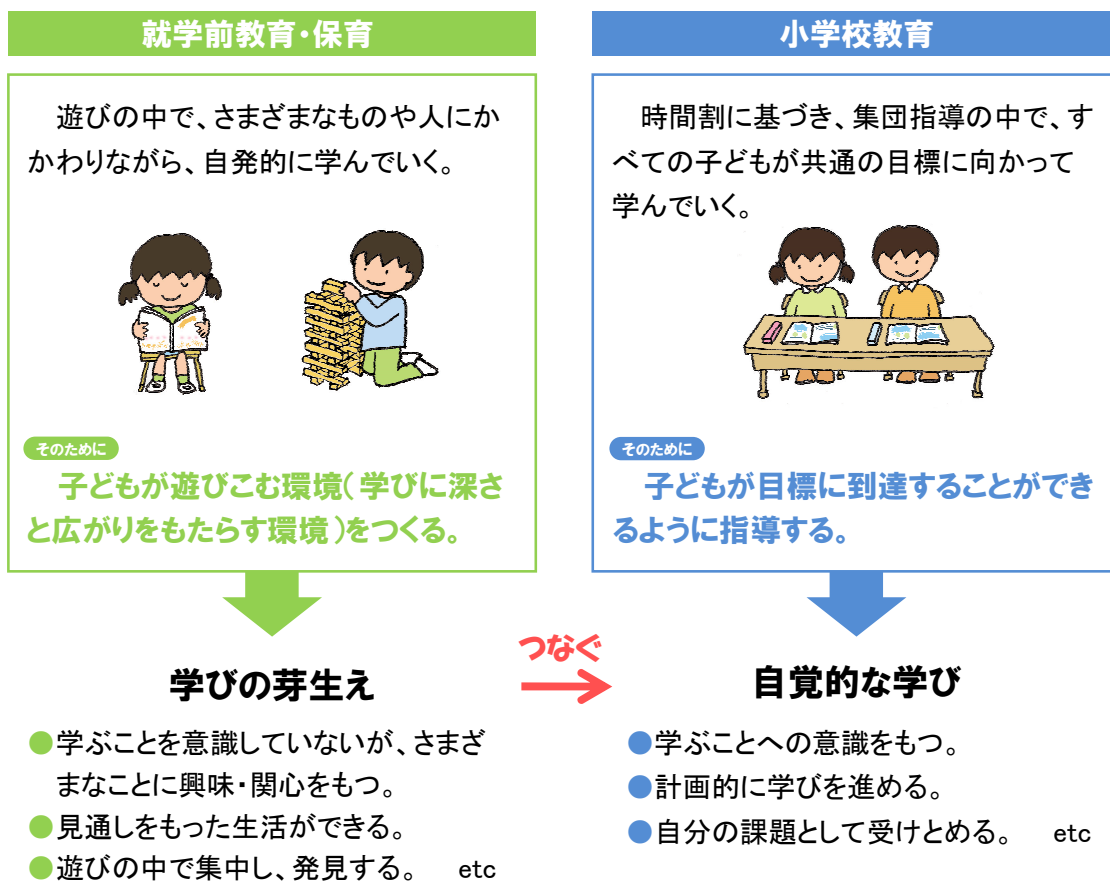
小学校1年生(おおむね1学期)

内容	要素	
・クラスの一員としての意識をもち、友だちと過ごすことを楽しむ。 ・教師との信頼関係を築き、安心して登校する。 ・新しい環境に慣れ、主体的に行動する。 ・学校生活の中で、何かができた時に認められたり、達成感を味わったりする。	自尊心・自信・安心	大切に する力
・学校探検や地域散策を通して、学校や地域に愛着をもつ。 ・学習活動に興味・関心をもって、意欲的に取り組む。 ・世話をしたり、観察したりして、身近な動植物に親しみ、生命の尊さに気づいて大切に ・学校内外の自然にふれ、季節を感じる。 ・公共のものの使い方を知り、大切に ・学習教材や教室、身近なものを大切に	興味・関心・気づき・ 親しみ	
・身近な人たちに親しみや思いやり、感謝の気持ちをもってかかわる。 ・あいさつの意味を知り、正しく使う。 ・自分から進んで身近な人たちにあいさつをする。	道徳性・思いやり・ 感謝	
・時間割やチャイムによる区切りが定着し、次の授業を意識しながら行動する。 ・机の中の整理整頓をする。 ・着替えや準備を自分でしようとする。	自立・自主性	元気に 生活する力
・規則正しい生活を知り、自分から進んでしようとする。 ・時間割を見て、準備したり、次の行動に移ったりする。 ・休み時間と授業時間の切り替えができ、集中して授業を受ける。	生活習慣・生活リズム	
・遊びのルールや遊びの楽しさがわかり、自分たちでも遊びが進められる。 ・新しい友達と自分からかわり、友だち関係を広げる。 ・良いことと悪いことがわかり、友だち同士で声をかけあいながら、注意することや約束事を守る。 ・登下校時の危険な場所を知り、安全に気をつけて行動する。 ・避難訓練を通して、安全に避難することを知る。	規範意識・ルール・ 安全	
・体育のルール(並び方、準備体操、道具の片づけ)を守って、体を動かす。 ・全身を使って遊ぶ楽しさを味わう。 ・休み時間は友だちと声をかけあい、運動場で体を動かして遊ぶ。 ・係の子が中心となって遊びを考え、他の友だちに伝えて一緒に楽しむ。	発達・運動・遊び	
・献立に興味や関心をもち、給食を残さずに食べる。 ・クラスの友だちと一緒に、楽しい雰囲気の中で食べる。 ・食材やそれを育てた人に感謝の気持ちをもち、好き嫌いをなく食べようとする。	食事・食育	
・時(いつ)・場(どこで)・人(誰と)など、話す内容をわかりやすく順序立てて話す。 ・困ったことを具体的に伝え、解決の糸口を考えようとする。 ・友だちを意識しながら、文字や言葉で伝えようとし、一緒に考えたりしようとする。 ・係や当番活動の中で適切な言葉を用いて、返事をしたり会話を進めたりする。	話す・伝えあう・言葉	つながる 力
・人の話を意欲的にきこうとする。 ・人の話を集中してきき、話の要点を理解する。 ・互いの個性を認めあいながら、相手の思いや考えをきこうとする。 ・教科書に興味をもち、その内容を読み取ろうとする。	きく・理解する・くみ取る	
・クラスの友だちなどと学ぶ楽しさを共有し、協同的に活動する。 ・相手の考えを理解し、相手の立場になって物事を考えようとする。 ・自分の納得いかないことがあっても、自分で気持ちを調整し、前向きに物事を進めようとする。 ・遊びや学習の中で、友だちと励ましあいながら進める心地良さを感じる。	共感・折りあう・協同性	
・新しく学習する内容を積極的に理解して習得しようとする。 ・間違えたことやわからないことも、あきらめずに最後までやり遂げようとする。	挑戦・達成・ねばり強さ	考えて チャレンジする力
・教師や友だちの話すことをしっかりと聞いて理解しようとし、自分の考えを伝えたい時には積極的に手をあげて発表する。 ・学習の中で文字や数字を使ったゲームなどを通して、ひらがなや数の正しい読みかき ・興味・関心をもって意欲的に学習や活動に取り組み、驚きや疑問、気づきなどから学びを深めようとする。	意欲・好奇心・ 探究心・活用	
・春探しや地域の散策を通して、草木や花、昆虫、日光、風などのさまざまな自然環境にふれ、そこで感じた美しさや不思議さ、気づきを表現する。 ・自分がイメージしたり、感じたり、考えたりしたことを、文字や数、図形、絵画、音楽などを用いて工夫して表現し、丁寧に最後まで仕上げる。	感性・表現・工夫	

3. 就学前教育・保育と小学校教育の特徴や違い

●「学びの芽生え」と「自覚的な学び」

就学前教育・保育は小学校教育の先取りではなく、基礎を築くものです。就学前教育・保育では、遊びの楽しさからくる意欲や集中、気づきなどの「学びの芽生え」を育むことが大切です。この学びの芽生えが、小学校教育において、各教科などの授業によって計画的に学習を進める「自覚的な学び」へとつながっていきます。



●主な教育・保育内容の違い

就学前教育・保育と小学校教育との主な教育・保育内容の違いを以下に示します。

就学前教育・保育	小学校教育
● 「～を味わう」「～を感じる」などの方向づけを重視した『方向目標』。 ● 一人ひとりの生活や経験を重視した『経験カリキュラム』に基づく。 ● 環境、遊びを通した総合的な指導。 ● 楽しいことや好きなことを通して、さまざまなことを学ぶ。 ● 育ちの方向への近づきをみる「個人内評価」。	● 「～ができるようにする」などの具体的な目標への到達を重視した『到達目標』。 ● 学問体系を重視した『教科カリキュラム』に基づく。 ● 教科などから構成される集団指導。 ● 学ぶ意識のもと、時間割にそって計画的に学習を進める。 ● 目標への到達水準をはかる「目標準拠評価」。

4. 接続期に大切にしたい4つの視点

本手引きにおいては、接続期において大切にしたい視点を「就学前教育・保育実践の手引き」における小学校入学までに育みたい4つの力ごとにまとめています。それは、この4つの育みたい力が、接続期においても連続性と一貫性のある教育・保育実践に向けた重要な要素としてとらえられるためです。

「就学前教育・保育実践の手引き」では、4つの育みたい力の中でも、特に重要な力として位置づけたのが「大切にする力」です。乳幼児期に、自分も相手も周囲の人々やものも大切にする力を育むことは、その後健やかでたくましく心豊かに成長していくための基盤となると考えたためです。

一方で、小学校入学により、新しい生活環境や人間関係になり、また教科学習へ移行する中で、自分に自信をもって、何事にも積極的・意欲的に取り組んでいくためには、接続期や小学校入学後においても、それら「大切にする力」を特に重要な力として伸ばしていくことが必要だと考えます。

そこで、自己肯定感や相手などを認め、興味・関心をもってかかわっていくことの大切さを含めた「自分も相手も好きになろう！」を、接続期において特に大切にしたい視点として位置づけます。

また、この視点を基盤として、「自分で元気な生活をつくろう！」「きいて話して友だちをつくろう！」「学びを楽しもう！」とともに育てていくとともに、それら4つの大切にしたい視点をつながりのあるものとしてとらえることで、本市のめざす「未来を切り拓く チャレンジする『八尾っ子』」や生きる力を育てることにつながっていきます。

大切にする力

特に
大切

自分も相手も好きになろう！

自分や他人の良さを認め、何事（人・もの・こと）にも興味・関心をもってかかわる。

つながる力

きいて話して友だちをつくろう！

人の話を良くきき、相手に自分の思いや考えを話すことができる。友だちや保育者・教師とかかわり、協同して活動しようとする。

元気に生活する力

自分で元気な生活をつくろう！

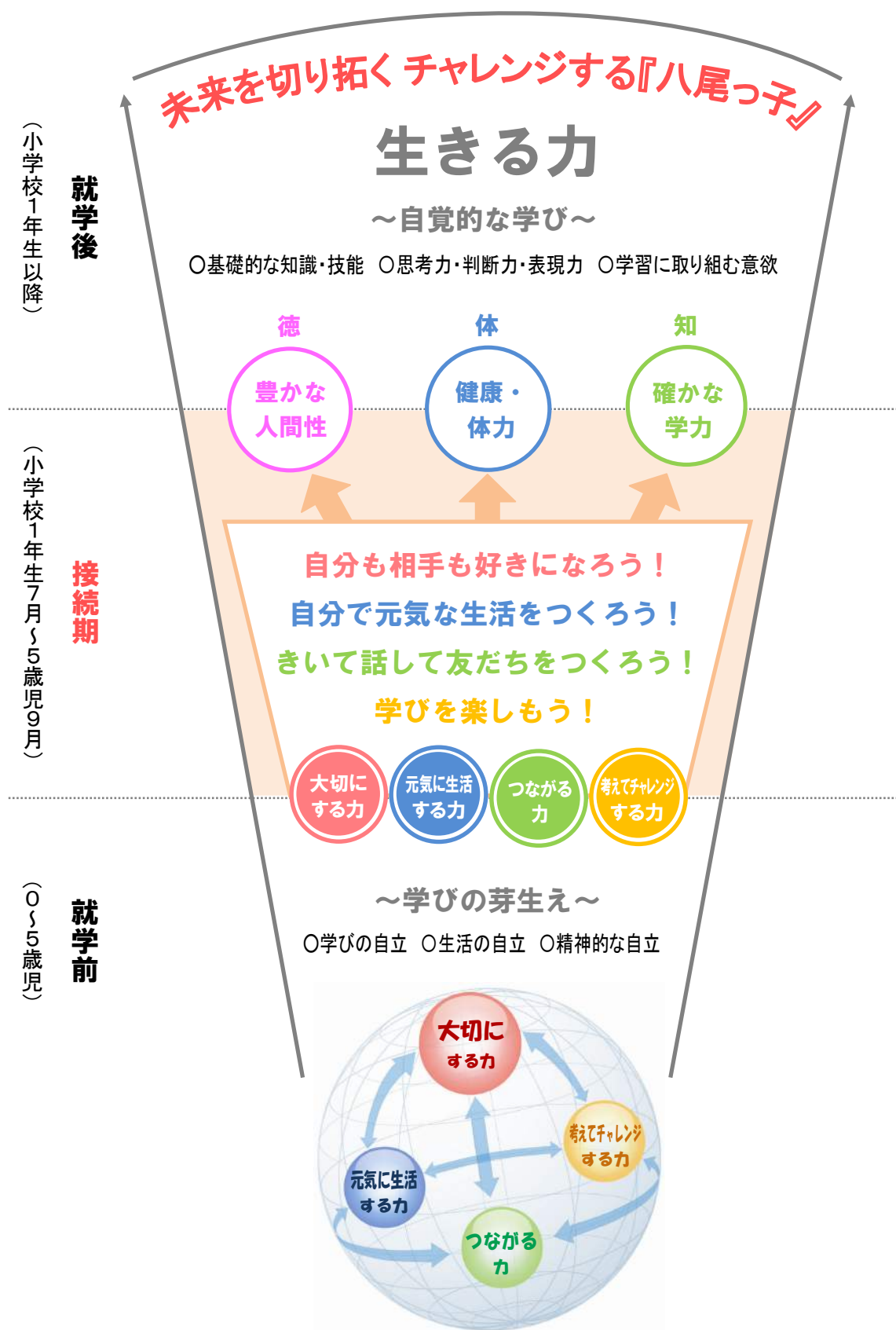
自立した生活習慣が身につき、規則正しい生活リズムの中で、時間を意識しながら元気な生活を送る。

考えてチャレンジする力

学びを楽しもう！

文字や数の読みかきの習得や学習する姿勢など、学びの基礎力を身につけるとともに、楽しみながら意欲的に取り組もうとする。

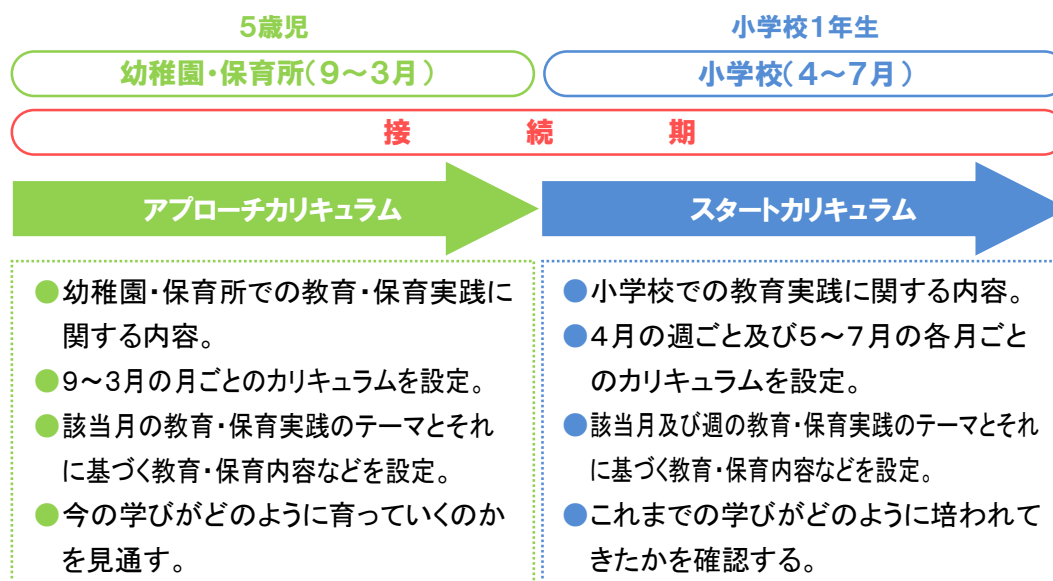
4つの育みたい力と接続期において大切にしたい視点、また小学校教育における3つの要素との関係を以下にまとめました。



5. 接続期のカリキュラム設定

●「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」

本手引きでは、幼稚園・保育所で取り組む教育・保育実践のカリキュラムを「アプローチカリキュラム」、小学校で取り組む教育実践のカリキュラムを「スタートカリキュラム」として設定しています。



●カリキュラム内容

カリキュラム内容としては、月及び週ごとに子どもに関する内容（教育・保育テーマ、ねらい、大切にしたい視点など）と保育者・教師の視点（援助・指導、環境づくりなど）を記載しています。また、月・週ごとにテーマに応じた事例も記載しています。

テーマ 子どもの姿や教育・保育内容のテーマ。	保育者の援助 テーマや大切にしたい視点に向けた援助・指導内容。
ねらい 子どもに身につけてほしい力や様子など。	環境づくり テーマや大切にしたい視点に向けた環境構成。
大切にしたい視点 接続期に大切にしたい4つの視点の内容。	接続期の工夫 円滑な接続に向けて、多様な主体との連携方策。
小学校に向けて 接続期において、小学校に向けて大切なこと、幼稚園・保育所の経験を活かせること。	事例 テーマやねらいに対する取組み事例紹介。その中で、「評価・反省」は事例紹介者本人の意見、「コメント」は他の人からの意見を記載。

第3章 アプローチカリキュラム

アプローチカリキュラムとして、5歳児9～3月の月ごとに実践する教育・保育内容などについて記載します。

以下に、アプローチカリキュラムを幼稚園・保育所などにおいて実践していくための大切にしたい視点や内容、作成視点についてまとめています。

●アプローチカリキュラムで大切にしたい視点

① これまでの経験を活かし、自信・期待をもたせる。

本手引きにおいて大切にしている自己肯定感や相手などを認め、興味・関心をもってかかわることは、小学校入学によって環境が変わる中でもこれまで身につけた力を発揮するためにとても大切なことです。

そのため、接続期においてはこれまで経験してきたことを発揮して認められ、自信や自己肯定感をもつことができる機会や場が必要になります。

また、それら自分がこれまでに経験してきたことに自信をもつことで、今後の小学校生活への楽しみ・期待をもつことにつながると考えます。

② 協同的な遊び・体験を充実する。

協同的な遊び・体験を充実させることで、クラスの一員としての自分を意識して責任感が育まれたり、一つの目的に向かって友だちと協力しあうことでの達成感を味わったりするなど、小学校入学後の集団生活における学習の土台づくりにつながります。

③ 学びを楽しむ力と学びに向かう力を育む。

接続期は、「学びの芽生え」から「自覚的な学び」につながる大切な時期です。子どもが遊び込める環境の中でも、さまざまなことに興味・関心をもったり、新しい発見をして楽しんだりする中で、知ること・わかることが楽しいと思える機会づくりが大切です。

また、最後まであきらめずに挑戦したり、友だちと折りあいをつけて協同して活動したり、人の話が終わるまで集中してきいたりする力は、「学びに向かう力」と呼ばれています。これらは、小学校で他者と一緒に学ぶためには必要な力であり、遊びや生活を通して育むことが求められています。



●アプローチカリキュラム一覧

(10歳児～5歳児8月)	(9月)	(10月)	(11月)	(12月)	(1月)	(2月)	(3月)	(小学校1年生4月～7月)
育むたい力 ～学びの芽生え～ ○学びの自立 ○生活の自立 ○情緒的な自立	自分も相手も好都合にしよう！ 自分で元気な生活をつくらう！ 歩いて遊びて友だちをつくらう！ 夢をかなそう！	これまでの経験を活かしながら、就学への期待を高めよう。	みんなで力をあわせ 友だちと協力し、やり遂げた達成感を味わう。自分たちで役割と責任をもつ。自分たちのめあてをもつ。 etc.	みんな遊びを進める 友だちと工夫し遊びを進める。友だちと協力し、やり遂げた達成感を味わう。自分たちで役割と責任をもつ。自分たちのめあてをもつ。 etc.	新しい1年を迎える 小学校生活への関心・期待。小学校生活への楽しみ。小学校生活への興味。小学校生活への憧れ。 etc.	就学への期待が高まる 小学校生活への関心・期待。小学校生活への楽しみ。小学校生活への興味。小学校生活への憧れ。 etc.	成長を感じながら生活する 小学校生活への関心・期待。小学校生活への楽しみ。小学校生活への興味。小学校生活への憧れ。 etc.	小学校生活を知り、楽しむ。 小学校生活への関心・期待。小学校生活への楽しみ。小学校生活への興味。小学校生活への憧れ。 etc.
運動会 親子チャリティリレー 運動会 運動会 運動会	運動会 親子チャリティリレー 運動会 運動会 運動会	運動会 親子チャリティリレー 運動会 運動会 運動会	運動会 親子チャリティリレー 運動会 運動会 運動会	運動会 親子チャリティリレー 運動会 運動会 運動会	運動会 親子チャリティリレー 運動会 運動会 運動会	運動会 親子チャリティリレー 運動会 運動会 運動会	運動会 親子チャリティリレー 運動会 運動会 運動会	運動会 親子チャリティリレー 運動会 運動会 運動会
ポイント 小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。	小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。	小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。	小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。	小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。	小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。	小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。	小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。	小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。 小学校生活は楽しい。
大切にしてほしい視点	大切にしてほしい視点	大切にしてほしい視点	大切にしてほしい視点	大切にしてほしい視点	大切にしてほしい視点	大切にしてほしい視点	大切にしてほしい視点	大切にしてほしい視点
学習者・教師の役割・環境づくり	学習者・教師の役割・環境づくり	学習者・教師の役割・環境づくり	学習者・教師の役割・環境づくり	学習者・教師の役割・環境づくり	学習者・教師の役割・環境づくり	学習者・教師の役割・環境づくり	学習者・教師の役割・環境づくり	学習者・教師の役割・環境づくり
家庭・地域との連携	家庭・地域との連携	家庭・地域との連携	家庭・地域との連携	家庭・地域との連携	家庭・地域との連携	家庭・地域との連携	家庭・地域との連携	家庭・地域との連携
小学校の連携	小学校の連携	小学校の連携	小学校の連携	小学校の連携	小学校の連携	小学校の連携	小学校の連携	小学校の連携

5歳児 9・10月

テーマ

みんなで力をあわせて！

友だちと考えを出しあい、体を動かすことで協同性を
培い、やり遂げた時の達成感を味わう。



ねらい

- 友だちと考えを出しあい、協力する楽しさや喜びを味わう。
- 友だちと一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。
- 役割の大切さを知り、自分の責任感や、みんなでやり遂げた時の達成感を味わう。
- 自分なりのめあてをもって活動に粘り強く取り組む。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

- お互いに認めあうことで、自分を大切にしようとする。
- 友だちの頑張っている姿を認めあったり、励ましあったりする。
- 一生懸命取り組むことの大切さに気づく。
- クラスでの取り組みやグループでの活動を通して、自分や友だちの良さを見つける。

きいて話して
友だちをつくらう！

つながる
力

- みんなで一緒に体を動かして遊び、かかわりを深める。
- 友だちや異年齢児の頑張っている姿を認め、声をかけあったり、励ましあったりする。
- 友だちと話しあいながら、目的を共有するとともに、協同性を高める。
- 運動が得意・不得意な友だちがいることを知り、一緒に楽しむために工夫する。

自分で元気な
生活をつくらう！

元気に生活
する力

- 体を動かすことを楽しみ、全身を使って遊ぶことに心地良さを感じる。
- 元気に体を動かすためには、規則正しい生活が必要なことを知る。
- 自分で自分の体がコントロールできる体力を身につける。
- ルールや約束、時間を守って遊ぶことの大切さを知る。

学びを
楽しもう！

考えてチャレンジ
する力

- 司会や準備などの役割を通して責任感や達成感を味わう。
- 苦手なことも自分なりに取り組もうとする。
- 自分で回数や時間をきめるなど、遊びの中で数字や数量に興味をもつ。

小学校に向けて

- 自分の体調の変化などを言葉で伝えられるようになる。
- 自分で必要な生活習慣がわかり、身につける。
- 床やイスに正しい姿勢で座ったり、順番を意識して並んだりする。

保育者の援助

【ポイント1】

**みんなで体を動かして
楽しめるようにする**

- 個々の頑張りを認め、喜びを共感する。
- 体を動かす楽しみが感じられるように、保育者も一緒に体を動かして遊ぶ。
- 子どもと遊びを考えながら、さまざまな運動遊びに取り組めるようにする。
- 元気に体を動かして遊ぶためには、規則正しい生活が必要であることを知らせていく。

【ポイント2】

**めあてを達成することで
自信につながるようにする**

- 一人ひとりの良さを見つけ、それが発揮できるように動きやグループを工夫する。
- 子どもの頑張る姿や教えあう姿を認め、励ましながら、かわりが深まるようにする。
- めあてに向かって取り組む姿を認め、自信につなげる。
- 役割をもつことで、主体的に活動できるようにする。

【ポイント3】

**みんなで力をあわせて遊ぶことの
楽しさ・充実感を味わえるようにする**

- 友だちと一つのことに一緒に取り組むことで、友だちとの関係を深めていく。
- 一人ではできないことも力をあわせればできることの楽しさが感じられるようにする。
- みんなで話しあい、うまくいった時の喜びが味わえるようにする。
- グループや全体で話しあう時間を大切にする。

環境づくり

運動サーキット

さまざまな運動遊具にふれられるよう、保育者が協力しあって設定していく。子どもが自分で遊びを見つけられるように、さまざまな種類の遊具を用意する。

一人ひとりのめあて探し

一人ひとりが達成できるめあてをもてるように、遊具や遊び内容を工夫する。協同した遊びの場合は、みんなが共通の目標をもてるように工夫する。

互いの頑張りが見える

遊びの中で、互いに見たり、見られたりする機会をもち、子どもそれぞれが頑張りを、励ましあい、評価しあえる環境をつくる。

接続期の工夫

家庭・地域	● 休息・睡眠を十分とること、朝食をしっかり食べることの大切さを理解してもらう。 ● 規則正しい生活（早寝・早起き・朝しっかり食べる）など、体を動かして遊ぶために、家での生活に協力を求める。 ● 掲示板や配布物で生活習慣の大切さなどを広く知らせる。
幼稚園・保育所など	● 他の幼稚園・保育所と活動内容などの共有をはかれるように、情報交換や見学などを行う。
小学校	● 小学校の運動会の子ども競技への参加を呼びかける。 ● 小学校の運動会や練習の様子を見学する。

運動会のダンスがっこいいなあー

園(所)の子どもと小学生が交代して運動会のダンスを互いに見せあう。その後感じたことを話しあう。

ねらい

小学生のダンスにあこがれの気持ちを持ち、互いの頑張っているところを気づいていくようにする。小学生でも自分の思いを言葉で伝え、話す力やきく力を養う。

子どもの姿・活動内容

保育者のかかわり

準備

- 互いに紹介をして、運動会のダンスを見せあう準備をする。
- 小学生のダンスが見やすいところに行く。

ポイント
①

- 小学生のダンスを見て、拍手したり、「すごい」と自分の気持ちを表現したりする。
- 小学生は園(所)の子どもに見せたい気持ちでダンスをする。

ポイント
②

- 小学生に見てもらおうと、力をあわせてダンスをする。
- 小学生は園(所)の子どもの頑張っている姿を見る。

ポイント
③

- 互いのダンスを見て感じたことを言葉で伝える。
- 友だちの話をきいて、同じ意見であることを話す。

- 互いのダンスをしている姿を認めあっている。
- 年齢の異なる中でも自分の思いを伝えるようになってきている。

- 小学校で友だちと一緒に力をあわせてダンスをし、互いに見せあうことを確認する。
- 保育者も園(所)の子どもと一緒に、小学生のダンスを見る。

- 子どもと一緒に共感する。
- 小学生の頑張っている姿を応援する。

- 園(所)の子どもが頑張ってダンスをしていることを認める。
- 小学生が見ていることを知らせる。

- 子どもと同じ意見を共感する。
- 自分の思いを言葉で話せるようにする。

- 小学生のダンスを良く見て、感動している姿をともに共感する。
- 自分の思いを小学生の前でも言葉で伝えるように促す。
- みんなの前で話せたことを認め、自信につなげていく。

実践

振り返り



ポイント①

- 小学生のダンスを直接見ることで、自分たちがしているダンスの表現と異なった小学生のダンスの表現に感動し、小学生へのあこがれの気持ちにつながる。
- 小学校の施設を利用することで、小学校へ入学した時の環境に親しむことができる。
- 運動会という行事のもとで見せあいをするのが、思いをともにすることにつながる。

ポイント②

- 自分たちのダンスと小学生のダンスの見せあいをする中で、よりいっそう友だちと一緒に力をあわせて取り組み、チャレンジする気持ちにつながる。
- 他の競技への取り組みにもチャレンジすることを促すことになる。

ポイント③

- 生活している園(所)と異なり、小学校の施設で自分の思いを話すようにすることで、話す力や友だちの話をきく力を身につけるようになる。
- 小学生と一緒にいることで、小学生の話し方やきく態度なども知る機会になる。

評価・反省

互いに見せあった後、感想を話す時間が少なかったように思う。互いの思いを話したりきいたりする保育者側の配慮がもう少しいる。

小学校の施設を利用することで、子どもたちが小学校に入学後、親しみをもつことができると思う。

運動会という行事の中で互いの取り組みを見せあうことで、身近にあこがれの気持ちをもつようになったと思う。

コメント

小学生のダンスを見ることで、自分たちのダンスをどうするかを考える機会となるので、小学生とかかわることは子どもたちのあこがれの気持ちをもったり、友だちと一緒に自分たちで考えていくことになると思う。

事例②

大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

きいて話して友だちをつくろう！

作品展でのグループ発表！

作品展の『縁日』で出すお店をグループで考え、自分のしたいこと、つくりたいものを発表する。話をしっかりきいて人の意見を尊重する。

ねらい

自分のしたいことや、イメージをみんなにわかるように、話をする。人の意見を理解したり、尊重する。

子どもの姿・活動内容

- 話し方のルールやきき方のルールを理解する。 **ポイント①**
- 自分のしたいお店のイメージをスケッチブックにかく。
- 材料の種類を知る。
- グループをつくる。友だちを誘う。
- グループに入ろうと自分で積極的に仲間を探す。
- グループがきまったら、つくるものや分担などを考えて自分のやりたい店をグループの仲間に説明する。
- 発表後、拍手で意見を尊重する姿が見られる。
- 実際に全員で縁日のお店をつくる。
- 分担できめられたものをつくる。困っている友だちを助けて手伝う姿が見られる。



- できたお店をみんなでグループ発表する。
- グループ内で仲間意識が高くなり、つながりが強くなっている。
- 達成感により、人の意見を尊重して、褒めあう姿がみられる。

保育者のかかわり

- 実際に保育者が例をあげて前でする。
- 人の意見を茶化さない正しいきき方を説明する。
- 縁日の様子の写真や絵本でイメージしやすいようにする。
- 自分で廃材などの材料を家からもってくる。
- 子どもたちから声がかかるまで、保育者は見守る。
- 使う材料が似ている同士で集まることなどの提案をし、自分たちで考えられるようにする。
- 考えを茶化さないようにしっかりきいているかを見守る。 **ポイント②**
- うまく説明できない時は、質問形式に変えるなど保育者が助言する。



- イメージ通りにできなくて、困っているグループは、再度集めて方法を話しあうことを提案する。
- お店をつくりながらでる子どもの言葉を細かくひろって問題解決の助言のヒントにする。

- 一人ひとりの感想をきいて、難しかったことや助けあったことなどをインタビューしてわかちあえるように話をする。 **ポイント③**
- つくった自分への自信と、話をきいて、きく楽しみを知った相手への親しみを実感できるように、振り返りを進める。

準備

実践

振り返り

ポイント①

- さまざまなことに興味・関心をもったり、自分の考えやひらめきをもてるように、部屋の中の環境などを整えておく。
- 何でもいいや、どうせできないなどの考えにならないようにする。
- いろいろな楽しみを提案して積極的に取り組めるようにする。

ポイント②

- 友だちの意見をきいたりすることで、さまざまなことが新たにひらめく。その際には、友だちの意見を尊重したり、受け入れたりする。
- 同じ考えがあっていいことを知る。真似ではなく、仲間であることがわかる。
- 意見をきくことで、物事が発展していくことを知って、ワクワクする感情になる。
- うまくいかない子どもがいることに気づき、話をきいてあげることと、助けやアドバイスを受け入れることの大切さがわかる。

ポイント③

- できあがった作品をみんなでわかちあう。
- 自信のあるところ(見てほしいところ・頑張ったところ)や大変だったことをみんなの前で話すことによって、共感したり、さまざまなことを発見できたりする。

評価・反省

作品展を通して自分の考えをもって、イキイキとやりたいことをみんなの前で発表する子どもが多かった。

子どもたちから質問が次々とあがったことがおもしろかったが、同じことをきいたり、質問をおもしろがる(遊び)傾向もみられたので注意してみていた。

小学校に向けて、人の意見をきき、理解することができるようにしていきたい。

発表すること、意見をきくことの経験がさまざまなパターン(状況)でできるようにしていきたい。

コメント

自分の考えを絵で記入しておくことで、スムーズに発表できていたと思う。今回は、グループにわかれての意見の発表だったが、全員の前でのインタビューなど、人数を増やしたりして、もっとさまざまなことをテーマに話しあいを経験していくのがいいと思う。

きく力がまだまだ身についていないと思われるので、集中する時間を増やすこと、言葉の意味を知ることができるようにしていきたい。

5歳児 11月

テーマ

みんなでつくろう！

お互いの考えや思いを認めあい、みんなで共通のイメージをもって話しあい、協力しあいながら遊ぶ。



ねらい

- 自分の思いを伝えたり、相手の考えをきいたりしながら、友だちと一緒に活動する喜びや満足感を味わう。
- 自分で考えてつくることを楽しみ、それが認められることで達成感を味わう。
- 自分や友だちがつくったものを褒めあい、喜びを感じるとともに、友だちの大切さを知る。
- 自分たちで役割をきめ、責任感をもってやり遂げ、達成感を味わう。
- みんなで共通のめあてをもって、活動に粘り強く取り組む。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

- お互いに認めあうことで、自分を大切にしようとする。
- 自分の作品や友だちの作品を褒めあい、お互いの良さを感じる。
- めあてに向かってお互いに力をあわせて工夫したり、協力したりして実現させ、満足感を味わう。

きいて話して
友だちをつくらう！

つながる
力

- 自分の考えを言葉で伝えるとともに、友だちの意見もきき入れながら遊びを楽しんだり、発展させたりする。
- 友だちとトラブルになった時は、自分たちで話しあい、解決しようとする。
- 友だちと言葉を使って話しあい、相談することでイメージを共有する。
- 役割分担をして、みんなでつくりあげる楽しさを味わう。

自分で元気な
生活をつくらう！

元気に生活
する力

- 戸外で元気に遊び、体を動かして遊ぶ楽しさを感じる。
- 友だちと一緒にルールを考えて遊ぶ楽しさを味わう。
- 見通しをもって友だちと協力しながら活動する。
- 自分が使った道具や材料を大切にし、自分で正しく片づける。
- 一つの活動に集中して取り組む。

学びを
楽しもう！

考えてチャレンジ
する力

- さまざまな道具や材料、素材にふれて遊びを楽しむ。
- 自分たちで遊び方やルールを考えて楽しむ。
- 自分たちでルールや約束を考え、相手と共有する。
- 遊びや制作活動の中で、数や文字などに興味をもつ。

小学校に向けて

- 自分で必要な生活習慣がわかり、身につける。
- 道具をみんなでゆずりあって使う。
- さまざまな活動に集中して取り組む力を身につける。
- 小学校で開催されている行事に参加し、小学生にあこがれを感じる。

保育者の援助

【ポイント1】

**みんなで
話しあいの場をもつ**

- 話しあいを通して、自分の思いを言ったり、相手の思いをきく機会をもつ。
- 役割を分担し、一人ひとりが責任感をもってやり遂げられるようにする。
- 友だちとルールをきめ、工夫して遊びを進められるように援助する。
- ルールや遊び方を考える中で、文字や数に興味や関心がもてるようにする。

【ポイント2】

**つくりあげる充実感を
味わえるようにする**

- 絵や図などで視覚的に示し、みんなで共通のめあて（イメージ）をもてるようにする。
- さまざまな素材を用意し、考えてつくる機会をもつ。
- 試行錯誤しながら、自分たちでつくりあげる充実感が味わえるようにする。

【ポイント3】

**互いのつくったものを認めあい、
達成感が味わえるようにする**

- さまざまな人と遊びを共有し、楽しさをわかちあえるようにする。
- 役割分担をして遊ぶ中で達成感が味わえるようにする。
- 互いの作品の良さを認めあえるようにする。

環境づくり

話しあえるグループづくり

子ども同士がじっくりと話しあえる場・機会をつくる。グループづくりの際には子どもそれぞれの特性をかんがみ、バランス良くグループわけができるようにする。

適した素材を準備する

子どもが創作意欲をもつように、さまざまな素材を集める。それぞれの素材の特性について子どもに教え、考えたり、試したりしながら創意工夫できるようにする。

発表・評価する場を設ける

子どもが作成したものなどを発表できる機会を設ける。また、子ども同士や保育者とその頑張りを認めあえる環境をつくる。

接続期の工夫

家庭・地域	●幼稚園・保育所での創作活動を、家庭などでも、発展させながら遊べるように意識づける。 ●参観日などを通して、保護者・異年齢との交流をする。
幼稚園・保育所など	●幼稚園・保育所の子ども同士がつくったもので一緒に遊んだりしながら、交流を深める。
小学校	●小学校で開催される行事に参加し、小学校入学へのあこがれを感じられるようにする。

事例①

大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

きいて話して友だちをつくらう！

学びを楽しもう！

お店をつくらう！

7～8人のグループをつくり、グループでしたいお店を考え、友だちと相談しながらお店の内容や遊び方、ルールなどをきめてつくりあげていく。また、できあがったお店に年少児や他園（所）の子ども、地域の高齢者の方などにも遊びにきてもらう。

ねらい

自分の考えや思いを相手にわかるように言葉で伝えたり、友だちの話をきいたりしながら、一つのものをつくりあげていく。互いの考えや思いを伝えあい、友だちとのかかわりを深め、お店をつくったり遊びのルールを考える中で、文字や数にも興味をもつ。

子どもの姿・活動内容

- どんなお店がしたいか話しあう。
- お店のグループをきめる。
- 自分で考えた内容や、友だちと話しあった内容にそって、お店をつくる。
- 友だちと一緒に作る中で、自分の思いをわかりやすく相手に伝えたり、友だちの思いをきいたりする。
- お店のルールや約束をきめる。
- クラスで遊んでみて、友だちがつくったお店について、良かったことや気づいたことについてみんなで話しあう。
- 友だちや年少児、他園（所）の子ども、地域の高齢者の方などと一緒に、お店やさんごっこを楽しむ。
- お店の店員になったり、客になったりしながら遊ぶ。



- 友だちのかかわりが広がったり、つながりが強くなったりしている。
- さまざまな遊びの場面で、友だちと相談しながら遊びのルールを自分たちで考え、遊びを発展させる姿が見られる。

保育者のかかわり

ポイント
①

- 子どもたちの中で共通のイメージがもちやすいように、図式化するなどして子どもたちの考えを示していく。
- グループぎめは、子どもたちでできるようにする。
- さまざまな素材を用意し、子どもたちが試したり、考えたりしながらつくっていけるようにする。
- トラブルが起こった時には必要に応じてかわり、原因を伝えるなど自分たちで解決できるようにする。

ポイント
②

ポイント
③

- 遊びの約束やルールをきめる中で、文字や数に興味をもてるようにしていく。
- 自分の考えをみんなの前でわかりやすく言葉で伝えられるように促す。
- 友だちの考えをきき、お店が発展できるようにする。
- 年少児や他園（所）の子ども、高齢者の方など、さまざまな人とかかわっている姿を認め、コミュニケーション力が高まるようにする。
- お客さんに喜んでもらったことが、子どもたちの達成感や充実感につながるようにする。
- 友だち関係の広がりを意識し、さらに関係が深まっていくような遊びの環境を構成していく。
- 自分たちで遊びを発展させる姿を認め、子どもたち自身で遊びを進める楽しさを味わい、問題解決ができるようにしていく。

準備

実践

振り返り

ポイント①

- 子どもたち全員がイメージをもちやすいようにするとともに、遊びの前にはそれぞれのグループで、「今日はどうなところを頑張るのか」などについても示し、子どもたち自身が自分たちできめた目標について向かっていけるようにする。
- イメージを共有することによって、子どもたちの意欲を高め、活動に取り組んでいけるようにしていく。
- 子どもたちからの新たな発想も取り入れていけるようにする。

ポイント②

- 子どもたちのトラブルでは、保育者が先行して解決するのではなく、互いの思いをしっかり伝えてから、子どもたちで問題が解決できるようにしていく。
- トラブルになっている子どもだけでなく、必要に応じて、グループやクラスでも話しあうようにし、子どもたちの中で話しあいができるように促していく。
- 自分の思いを言葉で伝えられるようにし、また友だちの思いをきくことで遊びが充実したものになることを伝えていく。

ポイント③

- 自分たちで遊びを試す中で、「何回したらおしまいしよう」と遊びのルールを考えたり、「周りからも見えるように看板をつくろう」とする子どもたちの姿をとらえたりし、数や文字に興味をもてるように促していく。
- 遊びの中で、約束やルールを守って遊ぶことの大切さに気づいたり、それを守ることによって友だちとの遊びがより楽しく、充実したものになることを伝えていく。

評価・反省

グループごとに進むスピードに違いがあり、保育者がバランス良くグループの活動にかかわれないこともあったので、時には違うグループの友だちの意見もきけるようにしていく。

連続した遊びでは、子どもたち自身がその日の活動の目標をたてられるようにすることで、イメージを共有しながら取り組むことができたのではないかと考える。

また、遊びのきまりやルールなどで数や文字への興味をもてたことで、遊びの中で自然に数の対応ができたり、数を数えたりすることができたのではないかと考える。

コメント

子どもたちが自分たちで話しあいを重ねて遊びをつくりあげていく経験は、自分たちでつくった遊びだからこそ、思い入れが強く、片づけたりものを大切にしたりする気持ちも強くなると思う。

遊びをつくっていく中で、互いの主張が食い違ったり、自分の思いが通らなかったりする経験を通して、子どもたちは協調性や思いやり、友だちとのかかわりの中での折りあいをつけていくのではないかと考える。

動物園をつくろう！

遠足で動物園に行ったという共通体験からイメージを膨らませ、動物の出てくるゲームを友だちと一緒に考えてつくる。遊びコーナーで店の役をしながらさまざまな人とかかわり、ルールを伝えたり困っている友だちにアドバイスをしたりなど言葉を用いて伝えることを楽しむ。

ねらい

これまでの生活経験や遊びの中で身につけてきたことを活かすとともに、友だちと話しあい、試行錯誤しながら遊びを発展させる。また、遊びにきた人にルールを伝えたり、年少児に優しく接するなど、コミュニケーション能力や思いやりの気持ちなども身につける。

子どもの姿・活動内容

- 遠足を振り返り、楽しかったことなどを話しあう。
- 子どもたちの発案で、クラスみんなでゲームづくりをすることにする。
- どんなゲームがしたいかを、事前に考えてくるようにする。

ポイント①

- 遊びのアイデアを出しあう。
- 友だちの話をききながら、イメージを膨らませる。
- 似たアイデアを一つにしたり、意見をつけ加えたりしながら、イメージをまとめる。
- どのようなものをつくるか話しあい、ゲームの設計図をかく。
- つくるのに必要な物を考え、準備し、つくり始める。
- 困ったり、上手くいかないことをグループで話しあい、自分たちで遊びながらゲームのルールなどを考えていく。

ポイント②

- 4つのグループで交代して遊びながら、良かったことや困ったことなどを話しあう。
- 他の人の意見をもとに、ゲームのルールを考えなおしたり、説明の仕方を工夫したりする。
- 友だちや年少児、保護者などにお客さんになってもらい、遊びの説明をしたり、遊び方のアドバイスをする。

- お客さんから動物園の感想をきく。
- 自分たちが遊んだり、お店の人になってどうだったか話しあう。

保育者のかかわり

- 子どもたちの話に共感しながら一緒に遠足を振り返る。
- 「また行きたい」という子どもの思いに共感する。
- ゲームづくりをしたいという子どもたちの思いやアイデアを他の子どもにも伝え、クラス全体で取り組めるような雰囲気づくりをする。
- 話しあいの進行をしながら、たくさんの子どもの思いをきく。
- 一人ひとりの意見を受けとめ、認めたり言葉を補ったり絵にかいて表わすなどして、イメージが共有できるようにする。
- 互いの思いや考えを伝えあい、相談しながら遊びのイメージを膨らませられるように見守る。
- 子どもたちからでてきた発想や考えを大切に受けとめ、実現できるように援助する。



- 頑張ったことや工夫したことをクラスの友だちに知らせ、認めあえる場とする。
- 場に応じた言葉を用いてかかわる姿を見守りながら、必要に応じて伝え方を一緒に考える。

ポイント③

- 自分たちのつくった遊びが認められるような場を設け、達成感や充実感が味わえるようにする。

準備

実践

振り返り

ポイント①

- 協同の遊びをする時に不可欠となる「イメージの共有」を行う。
- 自分だけで遊ぶのではなく「友だちと一緒にしたい！」という思いがあるからこそ、友だちの話に興味をもち、頭の中で創造したり、刺激を受けて自分なりに考えたり、一緒に楽しい遊びをつくり出していこうという意欲につながる。

ポイント②

- 今までの経験をもとに「こうすれば、こうなるはず。」と考えたことを試してみる。考えた通りの結果が得られたり、思った通りにいかずにはがっかりしたり。成功した理由や失敗した理由を考え、新たに試しながら何度となく試してみる。
- 思い通りにできたという成功体験が自信となり、このような経験の積み重ねが「なぜだろう？ どうしてだろう？」と自ら探求することの楽しさへとつながる。

ポイント③

- 試行錯誤を繰り返し、友だちと力をあわせてつくった遊びが認められることで、達成感や充実感を味わうことができる。
- この認められる場面を意図して設け、達成感や充実感をしっかりと味わうことが、何事に対しても意欲的に取り組もうとする態度を養い、学習の場面にも大いに活かされると考える。

評価・反省

動物園でたくさんの人に遊んでもらい、楽しかったと言ってもらえて、子どもたちは頑張ってつくってよかったと達成感を味わうことができた。

一人ひとりが自分の思いや考えを友だちに伝えながら活動できやすいように小グループ編成での活動にしたが、取り組む姿勢に個人差がみられたので、友だちと協力して取り組めるように頑張っている姿を認めたり励ましたりといった援助が必要であった。

また、イメージを実現させるために試行錯誤を繰り返すことが大切だが、何度も試してみることができる時間の保障が十分にできない部分があった。

コメント

クラスや少人数で話しあいながら活動を進めていく遊びである。それぞれが思ったことを伝える中でどのように決定していくかがポイントである。

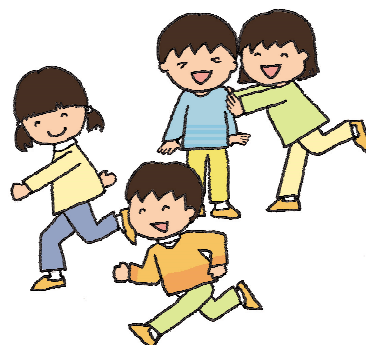
友だちの思いもききながら、こうしようと上手に提案できる子ども、自分の思いを強く押し進めようとする子ども、なかなか考えがまとまらずに活動が進まないグループなど、さまざまな様子が見られる中で、時には保育者が仲介役となりアドバイスすることで、自分の思いと友だちの意見の双方を大切にしながら話しあうということを経験し、何度も繰り返す中で徐々に上手に話しあえるようになって感じた。

5歳児 12月

テーマ

みんなで遊びを進めよう！

自分の力を発揮しながら、主体的に遊びや生活を楽しむ。



ねらい

- 友だちと協力したり工夫したりして、遊びを進める楽しさを味わう。
- 年越しや新年を迎える準備を通して、小学校生活に興味をもつ。
- 寒さに負けず、友だちと戸外で元気に遊ぶ。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

- 友だちがつくったものやできたこと、表現したことに対して、言葉や動作で褒めあう。
- 友だちと年越しや新年への楽しみをわかちあい、期待感を膨らます。
- みんなで楽しく遊びながら、友だちとのつながりを感じる。

きいて話して
友だちをつくらう！

つながる
力

- 自分たちで話しあい、相談しあいながら遊びを工夫して進める。
- 友だちが話すことを最後までしっかりきいたり、見たりする姿勢を身につける。
- 問題が起こった時や友だちとトラブルになった時は、自分たちで話しあい、解決しようとする。

自分で元気な
生活をつくらう！

元気に生活
する力

- 寒さに負けず戸外で元気に遊び、体が温まる心地良さや体を動かして遊ぶ楽しさを感じる。
- そうじの際にも、遊具や用具の正しい使い方を理解し、大切にしながら使用する。
- 室内と戸外の温度の違いを感じ、自分で衣服を脱いだり、着たりしながら調整する。
- 一日の生活の見通しをもつ。

学びを
楽しもう！

考えてチャレンジ
する力

- 自分たちで遊び方やルールを工夫し、発展させて進める充実感を味わう。
- 友だちと協力したり、工夫したりして自分たちで遊びを考える。
- 遊びや制作活動の中で、数や文字などに興味・関心をもつ。

小学校に向けて

- 自分で必要な生活習慣がわかり、身につける。
- 一日の見通しをもち、時間を意識した行動をとるようになる。
- 道具をみんなでゆずりあって使う。
- ほうきやぞうきんの正しい使い方を知る。
- 寒さに負けず元気に過ごすため、規則正しい生活を身につける。

保育者の援助

【ポイント1】

表現することを楽しませる

- 一人ひとりの頑張りや工夫を認め、意欲をもって発表できるようにする。
- みんなの前でグループで考えたことを表現し、充実感を味わえるようにする。
- 友だちの表現を見たりきいたりしようとする姿を認めていく。
- 一人ひとりの良さが発揮できるように、グループの人数やメンバーを工夫する。

【ポイント2】

戸外で元気に遊ぶ 心地良さを感ぜさせる

- 集団遊びを通して、ルールを守って遊ぶことの大切さや、みんなで遊ぶ楽しさを知らせていく。
- 自分たちで遊びを伝えあったり、教えあったりする姿を見守り、楽しさが味わえるようにする。
- トラブルが起きた時は、話しあいの機会をもつことで、話しあいによる解決ができることを知らせていく。

【ポイント3】

年末年始の行事に 興味や関心をもたせる

- 干支や年越しなど、伝統行事を知らせて年末の行事に興味や関心がもてるようにする。
- 大そうじをする中で、身の回りがきれいになる心地良さを感ぜる。

環境づくり

遊びを発展させる場づくり

友だちと一緒にイメージを広げながら遊びをつくれるように、さまざまな材料や用具を準備する。音楽や文字・数字・図形などへの興味の高まりを広げられるようにする。

体を動かす機会づくり

戸外で積極的に体を動かす機会を設け、体を動かすと温くなる心地良さに気づいていけるようにする。また、子どもが衣類の調節をできるように声かけをする。

年末行事をイメージさせる

年末行事を楽しく過ごせるよう、役割や内容を具体的に話しあう。また、子どもが期待感をもって年末を迎えられるようにイメージを広げられる遊びを行う。

接続期の工夫

家庭・地域	●年末年始ならではの経験をする時間を大切にしてもらう。 ●一人ひとりの成長を伝え、家庭と同じ思いで育てていくことを確認する。
幼稚園・保育所など	●年末の行事をみんなで楽しめるようにする。
小学校	●子どもや保護者が感じる、就学に向けての不安を保育者と教師が共有する。

事例①

大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

きいて話して友だちをつくらう！

学びを楽しもう！

積み木遊びを楽しもう

友だちとコミュニケーションをはかりながら、一緒に積み木遊びを行う。

ねらい

「自分で何かつくりたい」という欲求を満たし、友だちと一緒にいることで、友だちとの協同性を養う。

子どもの姿・活動内容

保育者のかかわり

準備

- 遊びのコーナーにある遊具などを確認し、遊ぶことのイメージを膨らませる。
- 遊びに必要な約束を知る。

ポイント①

- 遊びのコーナーで、積み木をする子どもがでてくる。
- 友だちがつくるのを見て、興味をもつ子どもが増えてくる。
- 一つの制作に2～3人で取り組むグループができてくる。
- 制作が進むにつれて、「必要な積み木を探す子ども」「積み木を積みあげる子ども」などの役割分担や分業がでてくる。
- 「積み木を探してくる」「ありがとう」などのやりとりが見られるようになる。
- 作品が仕上がり、友だちと一緒に楽しそうに眺める。
- 仕上がった作品の良かったところや作成段階で難しかったところなどを話しながら、互いの意見や考えを共感する。



- 仕上がった作品を写真に撮り、遊びに区切りをつける。
- 使った積み木をもとのあった場所に片づける。

実践

- 遊びのコーナーに積み木を用意する。
- 保育者が遊びに必要な約束を知らせる。

- 子どもたちの様子を良く観察し、遊びへの興味、友だち同士のかかわり方などを把握する。
- 制作に必要なものを随時用意していく。

ポイント②

- 遊びが展開していく過程で起きた、困難や友だち同士のトラブルに対してはその様子を見守り、必要に応じて助言をしたり仲立ちをしたりする。

ポイント③

- 仕上がった作品は丁寧に扱い、子どもたちが満足感や達成感を味わえる環境づくりや声かけをしていく。



- 子どもたちの作品は写真に撮って残したり、保護者に見てもらったりして、作品の片づけ方にも気を配る。

振り返り

ポイント①

- 遊びを始める前に、遊びの約束事を知らせておくことで、子どもが主体的に遊びを進める。
- 約束事をしっかりとときき、その理由も理解することで、ルールを意識した中での遊びを進める。
- 友だちとの約束事を守って遊ぶことで、集団遊びの中で協同性を養う。

ポイント②

- トラブルやぶつかりあいがあった時は、必要に応じて保育者も仲立ちをし、一方的な解決にならないようにする。
- 役割分担や協同作業がうまくいった時は、認めたり励ましたりする。

ポイント③

- 仕あがった作品に対しては、子どもたちが達成感や満足感を味わうことができる扱い方をする。
- 仕あがった作品に対して、子ども同士が感想を言いあい、互いの頑張りを認めあえるようにする。

評価・反省

構成遊びは、個人でも楽しめる遊びであるが、友だちとの協同作業へと展開した時、子どもたちは一人で遊ぶ時とは違うおもしろさを発見することができる。それが友だちと一つのものをつくりあげる楽しさである。この楽しさの中で、人とのつきあい方、気持ちのコントロール、自分と相手を認めあうことなどを学んでいく。

5歳児はそれができるようになる年齢でもある。

コメント

小学校への接続期の取組みとして、日常の遊びの中で経験することの中にも大切にすべきことは多い。友だちとのかかわりについては特にそのように感じる。

一人で遊ぶ構成遊びも大切であるが、今回は友だちとの関係を中心に遊びが発展した事例である。

紙すき体験！

身近な環境問題について学ぶため、ごみ処理場を見学する。また、牛乳パックからはがきをつくる体験をすることで、資源の再利用について学ぶ。

ねらい

工場見学を通して資源の再利用やエコといった環境問題を、5歳児なりに考えられるようにし、今後の日常生活において、ものを大切にする気持ちを養う。

子どもの姿・活動内容

- ごみ処理工場を見学し、家庭からでたゴミがどこでどのように処理されているのか知る。
- 家庭から集めた牛乳パックを煮詰めたものから、表面のコーティングをはがし、パルプを細かくちぎってミキサーにかけるという作業を友だちと一緒にやり、パルプ液をつくる。



- 保護者に手伝ってもらいながら、紙をすいてクリスマスカードや年賀状のもとになる台紙をつくる。
- つくった年賀状に絵や字をかき、ポストに投函する。
- 年が明けて年賀状を送った相手とのやりとりなどについてクラスの人々と話しあう。

保育者のかかわり

- どれだけたくさんのゴミが家庭からでるか分かりやすいように話す。
- 「もったいないばあさん」などの絵本を読みかせ、ものを大切にする気持ちをもてるようにする。

- 紙の原料が木であることを知らせ、環境についても興味をもてるようにする。
- 実際に子どもたちが作業をすることで、牛乳パックの中のパルプから紙ができることを実感できるようにする。

ポイント①

- 楽しい雰囲気で作業をし、リサイクルが楽しいことであるという気持ちをもてるようにする。

ポイント②

- 自分たちのつくったパルプ液から紙をすき、紙をつくるという工程を体験することで、紙がどのようにできるかということに興味をもったり、牛乳パックが紙になることのおもしろさに気づいたりする。

- 乾いたはがきをもち帰り、保護者などに住所をかいってもらったり、友だちと一緒に絵や字をかいったりしながら、自分でつくったものがはがきとして活用できる嬉しさを感じられるようにする。

ポイント③

- 「年賀状ありがとうって言ってもらってうれしかった」などと話をしながら、リサイクルしたはがきが買ったはがきと同じように使えることを確認したり、自分でつくったはがきが喜んでもらえたことの嬉しさを感じられるようにする。

準備

実践

振り返り

ポイント①

- 牛乳パックは普段から使い、つくって遊ぶなど、子どもたちにとって身近な素材であるが、違う使い方もできることを知ることができた。
- コーティングをはがしてパルプをちぎったり、ミキサーにかけてパルプ液にしたりという作業を友だちと楽しみながら、何日も繰り返し実際に体験することで、「牛乳パックの中身(パルプ)は使える。」「ゴミに捨てたらもったいない。」ということが実感できる。

ポイント②

- 木枠に網をはさんだものでパルプ液をすくい、そっと引きあげると紙の原型ができるということを経験することで、紙がどのようにできているのかを知ることができる。
- 自分たちがちぎった牛乳パックから紙をつくることで、できあがった紙に特別な思いをもつことができ、ものを大切にする気持ちにもつながる。

ポイント③

- 実際に使えるということがリサイクルをするうえで大切なことであるが、年賀状として絵や字を書いてポストに投函し、相手が喜んでくれる姿を想像して期待をもって待つことなどが、リサイクルが楽しいという思いをもつことにつながると期待する。
- もち帰ったはがきに保護者に住所をかいてもらい、保護者にもリサイクルを体感してもらうことができた。

評価・反省

紙すき体験を通して、ものの成り立ちを学べる機会となった。パルプ液を始めたからつくることで、牛乳パックからできているということを一人ひとりが実感でき、不思議なこと、すごいこととして感じたようである。この体験を通して、他のものやそのつくりに対する興味・関心が高まり、意欲的に学ぼうとすることにつながっていけば良いと思う。子どもたちだけでなく、牛乳パック集めや紙すき体験に保護者も一緒にかかわったことで、家族ぐるみでエコについて考える機会となり、紙すき体験以降、家庭でゴミを捨てる際に、「それまだ使える」「園にもって行くから捨てないで」などものを大切にする意識が高まった。

コメント

どの工程も子どもたちにとってとても楽しいものであった。

捨てることはたやすいが、牛乳パックやトレーの回収にしても洗ったり牛乳パックを開いたり、リサイクルにはひと手間かかる。

子どもたちの楽しかったという経験が、リサイクルは面倒だから捨ててしまおうではなく、意欲的にリサイクルに取り組むきっかけになったのではないかと感じた。

また、自分たちでつくったものが、お金を出して買ったはがきと同じように使えるという驚きはとても新鮮であったようである。

5歳児 1月

テーマ

新しい生活が始まるよ！

新年を迎え、小学校への関心や期待感が高まる。



ねらい

- 小学校生活に関心をもつ。
- 保育者や友だちの話を最後まできく。
- 健康な生活リズムを整える。
- お正月遊びを通して、数や文字に興味や関心をもつ。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

- 当番活動などを通して、自分が役に立っている喜びを感じる。
- 友だちの意見をきいたり、気持ちに気づくことで、相手を思いやる姿勢を身につける。
- 友だちや保育者の話を最後まできき、理解し、考えて行動しようとする。

きいて話して
友だちをつくらう！

つながる
力

- 友だちに冬休み中にあった出来事などを話しあうことで、自分の思いを伝えたり、相手の意見をきいたりする。
- 自分たちで話しあい、相談しあいながら遊びを工夫して進める。

自分で元気な
生活をつくらう！

元気に生活
する力

- 冬休みから明けて、規則正しい生活リズムにもどすとともに、日頃の生活の見通しをしっかりとつ。
- 体調や気温に応じて自分で衣服を脱いだり、着たりしながら調整する。
- 食材を育てている人や調理してくれる人に感謝の気持ちを持ち、友だちと一緒に楽しんで食事をする。
- カルタや正月遊びなどで、友だちと一緒にルールを守って遊ぶ楽しさを感じる。

学びを
楽しもう！

考えてチャレンジ
する力

- 遊びや生活の中で、数や量、図形、文字、ものの性質への興味・関心が高まる。
- 文字や数字を使って、遊びを工夫したり、発展させたりする。
- 友だちと一緒にルールをつくったり、工夫して遊ぶ。

小学校に向けて

- ひらがなに興味・関心が高まり、自分やさまざまなものの名前をかこうとする。
- 自分が経験した出来事などを、言葉や文字、数や量を使って相手に伝えようとする。
- 自分に与えられた役割について理解し、自信をもって物事に取り組む。
- 遊びや生活でのルールについて理解し、友だちと一緒に守りながら取り組む。

保育者の援助

【ポイント1】

経験したことを話したり、
きいたりする機会を多くもつ

- 安定した雰囲気の中で、ゆっくり話をきくようにする。
- ポイントを押さえてわかりやすく話すようにする。
- 経験したことを自分の言葉で話せるように、必要に応じて助言したりする。

【ポイント2】

文字や数字に興味が
もてるようにする。

- 遊びの環境を整え、文字や数字への興味や関心がもてるように工夫する。
- 数や量、図形、文字、ものの性質を使って、遊びを発展させながら楽しめるようにアドバイスしたり、一緒に遊んだりする。

【ポイント3】

健康な生活リズムを整える

- 基本的な生活習慣が定着するように、一日の見通しをもたせ、時計を意識して行動できるようにする。
- 寒さに負けず友だちと一緒に元気に戸外で体を動かす心地良さを知らせる。
- 食品の種類や体への働きを伝え、食事の大切さを理解できるようにする。

環境づくり

思い出を語りあう時間づくり

冬休みに経験したことを友だち同士や保育者と話しあいの時間をつくる。その際は、話しやすい雰囲気づくりやゆっくりと話せる時間を保障する。

文字・数字を表記する

遊具や用具などのさまざまなものの横に名称や注意点などをひらがな表記することで、文字や数を意識した環境をつくる。

生活の流れを視覚化

一日の生活の流れを、わかりやすいイラストや図形などを使って視覚化できるようにする。

接続期の工夫

家庭・地域	● 保護者と相談する機会を設けることで、就学への不安を取りのぞく。 ● 就学に伴う生活習慣の見直しなどについて、保護者と情報交換・共有を行う。
幼稚園・保育所など	● 幼稚園・保育所との交流により、さまざまな人とのかかわる機会をもつことで、初めて会う人とかかわっていく力やコミュニケーション能力を高める。
小学校	● 小学校の教師の話をきく機会をもつ。 ● 小学校の教師と小学校生活の流れについて情報共有を行い、子どもが小学校生活のイメージがもてるようにする。

事例①

すごろくづくり

4、5人のグループでテーマをきめ、すごろくづくりをする。すごろくづくりの際には、形・数・文字などさまざまな表現が楽しめるような工夫をする。

ねらい

伝承遊びを通して形・数・文字に興味・関心をもち、就学への期待を高める。友だち同士で思いを伝えあいながら、ルールをつくる楽しさを味わい、ルールを守る大切さを知る。

子どもの姿・活動内容

- カルタ・すごろくなどのさまざまな伝承遊びを友だちと一緒に楽しむことでさまざまなルールがあることを知る。
- 既製のすごろくで遊ぶ経験をし、友だちと一緒にルールを守る楽しさを感じる。

ポイント①

- グループでテーマをきめ、すごろくをつくる。
- 形・数・文字などを使いながら、自分たちのルールを考える。
- さまざまな素材や廃材を探し、工夫しながら友だちと力をあわせる。
- 数や文字がわかりにくい子どもも友だちと一緒に考え工夫して取り組んでいる姿が見られる。

ポイント②

- 自分たちがつくったすごろくの遊び方(ルール)を説明する。
- 友だちがつくったすごろくで遊んでみる。



ポイント③

- 友だちのつくったすごろくで遊んでみてどうだったかを話しあう。

- ルールを守って遊ぶ楽しさを友だちと一緒に味わっている姿が見られる。
- 友だちと思いを伝えあう楽しさを感じている。

保育者のかかわり

- 友だちと一緒にルールを守る楽しさを知らせ、わかりにくい子どもには保育者も一緒に遊びながらルールを知らせる。
- さまざまな既製のすごろくを準備し、保育者も一緒にルールを守って遊びながらイメージ力が高まるようにする。

- 子どもが遊び方を考えている姿を見守り、行き詰った時には保育者からヒントを与えることで、自分で考える楽しさを味わえるようにする。
- 自分の考えや意見を言いにくい子どももいるため、そんな子どもたちが自分の考えを言いやすくなるように、あらかじめすごろくをつくるにあたっての条件(約束)を伝えておく。

- 友だちにわかりやすく説明できるように、保育者も質問をなげかけながら相手に伝えるように援助する。
- 遊んでいる様子を見守りながら、困っている時には保育者も一緒に考える。

- 自分の思いを相手に言葉で伝えようとしている姿を見守り、励ます。
- おもしろかったところや難しかったところなどを出しあい、遊んだ感想を確認しあう。
- 互いに工夫したところや考えたところを認め、励ますことで次への意欲につなげる。

- ルールが伝わりにくい子どもも一緒に楽しめるように、必要に応じて保育者が説明したりするなどの声かけをする。
- ルールを守るから楽しいことを感じられるような言葉をかける。

準備

実践

振り返り

ポイント①

- ルールを守る楽しさをクラス全体で味わいたいと考え、あえてルールを守らなければ成立しない遊びを選択した。友だちと一緒にゲームをつくるおもしろさを経験することで、ルールを守る大切さや楽しさに気づく。
- 既製のものではなく、友だちが考えたルールだからおもしろいという気持ちになり、自らルールを守って遊ぶ楽しさを存分に味わえる。
- ルールが伝わりにくい子どもには保育者も一緒に遊びながら、ルールがわかりやすいように声かけをし、最後まで遊べるように援助する。

ポイント②

- 数や文字に興味・関心があるかないかは個人差がでてくる。そのため遊びを通して少しでも数や文字に興味・関心をもち、就学への期待につながるように援助する。
- サイコロの出た目にあわせて進む(数の学び)、止まった場所のルールを読む(文字の学び)など、遊びを通して自然に形、数、文字に興味・関心が高まる。
- 数や文字が苦手だった子どもも園(所)で楽しかった話をもち帰り、保護者と一緒にすごろくをつくってくる子どももいた。

ポイント③

- 自分たちの考えた遊びのルールを、相手にわかりやすく説明する難しさを感じていたが、その都度保育者が質問をなげかけたり、具体的な話ができるように声をかけたりするだけで、自分の言葉として相手に伝わるように話すことができていた。
- 友だちの話を最後まできこうとする態度が培われてきている。
- 自信をもって説明している姿が、就学への意欲や楽しみにつながっていく。

評価・反省

数や文字への興味・関心度は個人差があるため、事前に子どもの特性を把握し、一人ひとりに応じた援助が必要である。

数や文字が苦手な子どもでも、友だちと一緒に遊びながら数や文字にふれることで、興味・関心をもち、就学への期待が高まったように感じる。

遊びの条件を設けすぎことは、子どもたちのもっている遊びへの豊かな感性や可能性を狭める場合もあると感じた。

グループでの活動になるため、就学にあたり友だちとのコミュニケーション能力の向上につながった取組みになった。

コメント

友だちと一緒にルールを守って遊ぶから楽しいという気持ちが強くなったように感じる。

年長のこの時期は、自分の気持ちを相手にわかるように伝えたり、相手の気持ちに気づいたりする活動を大切にしている。

この遊びを通して数や文字に興味・関心をもつだけでなく、少人数で考えを伝えあう経験をすることで、自信や意欲につながり、次への活動にも意欲的に取り組むことができると思う。

事例②

自分も相手も好きになろう！

きいて話して友だちをつくろう！

学びを楽しもう！

伝言遊びをしよう

グループになり友だちに言葉を伝達していく中で、正しく言葉が伝達されるかを競う。

ねらい

グループで正しく伝えることを競うことで、言葉をしっかりと聞き、覚えることを一人ひとりが意識することで協力しあうことの大切さに気づく。

子どもの姿・活動内容

- 遊び方のルールや約束事をきき、理解する。
- グループをつくってわかる。
- グループごとに順番をきめる。
- 保育者が、一番目の子どもに言葉を伝える。
- 理解し、覚えたら次の子どもへ伝える。
- 最後まで同じように伝えていく。
- 途中でわからなくなった子どもは、前の子どもに再度きき返し覚え、次へ伝える。
- 終わった子どもも一生懸命協力しようとする。
- 最後の子どもは伝えてもらった言葉を全部のグループがそろそろまで発表しない。

ポイント②



- グループごとに、最後の子どもが伝言された言葉を発表していく。
- 正解を喜びあったり、間違いを悔しがったりする。

ポイント③

- 正解できたことで、協力しあえた喜びを感じたり、自信をもつことができる。
- 間違えた悔しい思いが、次回への意欲とつながる。

保育者のかかわり

ポイント①

- 早さを競うのではなく、正しくきいて伝えることが大事であることを話す。
- グループづくりの際は、グループの差が出ないように考え、適宜助言する。



- 全員が知っていて覚えられる、簡単な言葉から始める。
- 声の大きい子どもには、周りにきこえないように伝えることを知らせる。
- 一度で覚えられず困っている子どもがいたら、焦らず待つよう周りに促す。
- 覚えにくい子どもには、保育者が一緒にきいて伝えていく。
- 早く終わりすぐに伝えたがる子どももいるので、あらかじめ待つことを伝えておく。
- 子どもたちの発表が終わった後、保育者が正解を発表する。
- 正解したことを褒めたり、間違ったグループも頑張っていた部分を取りあげ、励ましながらか次への意欲へと促していく。

- きちんと伝わる満足感や、間違ってしまう残念な気持ち、間違いのおもしろさなどを話し、遊びのおもしろさを子どもたちと共感する。

準備

実践

振り返り

ポイント①

- 正しく伝えるだけでなく、自分の順番が終わった後や順番を待つ時間も、ゲームが終わるまで期待し楽しめることが大事である。
- みんなで勝つためには自分はどうしたらいいのか、どうしなければならないのか、協力すること、ともに喜ぶことに気づいていく。

ポイント②

- 友だちが止まったり、困っている様子があったら、みんなで助けてあげるためのさまざまな行動をとろうとする。
- 相手を責める言葉や行動ではなく、前に戻ってやり直したり、はっきり、ゆっくり言うように励ましたりなどスムーズにしていけるアイデアがでてくる。

ポイント③

- 単純に正解を喜んで勝負をきめる遊びではなく、プロセスを喜んで評価しあう。
- 友だちの失敗やこまごました友だちとのやりとりを楽しみ、普段とは違う一面に気づき、改めて友だち関係が深まり、グループ内での親密感も高まる。

評価・反省

単純な勝ち負けで喜ぶのではなく、グループごとの細かいエピソードを一つひとつ紹介しながらゲーム全体をみんなで振り返り、褒めたり励ましたりすることで、次への意欲へつなげることができた。

このゲームで得た自信や満足感を他のさまざまな活動へとつなげていけるようにしたい。

コメント

思いがけない子どものアクシデントやしぐさ・表情が見られ、その場の雰囲気になごます結果になった。

集団遊びや言語が苦手な子どもも、気持ちほぐれ、スムーズに最後まで参加できたうえ、ゲーム全体での盛りあがりにもなり、周りの子どもたちにとっても良い影響になった。

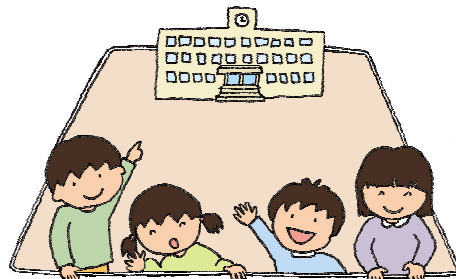
ゲームの方法としては、遊具や環境設定の工夫により、違う遊び方もできる。

5歳児 2月

テーマ

学校ってどんなところ！？

体験入学を通して、小学校への具体的な期待をもつ。



ねらい

- 小学校生活に期待をもつ。
- 給食体験を通して、学校給食に興味をもつ。
- 健康的な生活リズムを再確認しながら、身につける。
- 目標に向かって友だちと話しあい、協力したり、認めあいながら遊びを発展させる。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

- 当番活動などを通して、自分が役に立っている喜びを感じる。
- 自分が考えたことや感じたことを、相手に伝え、理解しあえるようにする。
- 小学校での給食体験を通して、小学校や小学生に対して親しみをもつ。
- 年長児としての自覚をもち、動植物の飼育・栽培を年少児に引き継ぐ。

きいて話して
友だちをつくらう！

つながる
力

- 友だちと役割を分担し、お互いに考えを話しあいながら協力して遊びを進める。
- 友だちと一緒に共通の目標に向かって工夫したり、話しあったりして実現する喜びをわかちあう。
- 初めて会った小学生に対しても、積極的に話そうとしたり、話をしっかりきこうとする。

自分で元気な
生活をつくらう！

元気に生活
する力

- 寒さに負けずに体を動かしてさまざまな運動遊びを楽しむ。
- 時間を意識し、見通しをもちながら遊んだり、主体的に生活を進めようとする。
- 体調や気温に応じて、自分で衣服を脱いだり着たりしながら調整する。
- 食材を育てている人や調理してくれる人に感謝の気持ちを持ち、友だちと一緒に楽しんで食事をする。

学びを
楽しもう！

考えてチャレンジ
する力

- 遊びや生活の中で、数や量、図形、文字、ものの性質への興味・関心が高まる。
- 文字や数字を使って、遊びを工夫したり、発展させたりする。
- 友だちと一緒に協同的な遊びや活動を通して、やり遂げた充実感を味わう。
- 友だちと一緒に音楽やリズムにあわせて踊ったり、共通の表現をしたりすることを楽しむ。

小学校に向けて

- 小学校の教室や体育館など、小学校生活の環境についてのイメージをもつ。
- 小学校の授業の様子を見ることで、就学への期待が高まる。
- 小学校の給食体験を通して、小学校給食の内容や味を知る。

保育者の援助

【ポイント1】

**友だちと思いを伝えあう
喜びを味わえるようにする**

- 人の話を最後まできく態度を身につけさせる。
- 共通の話題で話しあう中で、自分の思いを伝えたり相手の話をきいたりできるように、必要に応じて言葉かけなどの援助をする。
- 初めて会う人にも積極的にかかわっていけるように、言葉をかけ一緒に遊んだりする。

【ポイント2】

**みんなで力をあわせてやり遂げた
達成感を味わえるようにする**

- さまざまな活動にじっくりと取り組み、目標が達成したことの満足感を味わえるようにする。
- 友だちと共通の目的をもって協力し、最後までやり遂げる充実感を味わえるようにする。
- 目標に向かって一生懸命取り組む姿を受けとめ、励ましたり、共感して自信をもたせていく。

【ポイント3】

就学の期待を高める

- 小学校がどんなところなのか、期待をもてるような情報を伝えるようにする。
- 遊びや生活の中で、数や量、図形、文字を取り入れ、それらの興味・関心を高めていく。
- 生活や遊びで自信をもてない子どもには援助をし、意欲を育てていく。

環境づくり

話しあえる雰囲気づくり	イメージの共有化	就学への意識を高める環境づくり
話しあいを進めやすい雰囲気づくりをする。一人ひとりの思いをきちんと出しあえるような話しあいにする。	共通のイメージをもてるような教材・用具を用意する。共通のイメージをもつために、絵・写真やイラスト化するなどの工夫をする。	就学に対する不安や期待を受けとめ、入学を楽しみにするような雰囲気づくりをする。時間や生活の流れをわかりやすくするために、室内の掲示やレイアウトを工夫する。

接続期の工夫

家庭・地域	●早寝・早起き・朝ごはんなど、生活習慣を整えていくことを保護者に伝える。 ●体験入学での出来事などを共有、子どもと一緒に就学への期待を高めてもらう。 ●保護者説明会などを通して、保護者に就学への不安や悩みの解消に努める。
幼稚園・保育所など	●体験入学での工夫点や反省点などを幼稚園・保育所間で共有するなど、振り返る機会づくりに努める。 ●保護者説明会などを通して、保護者同士がふれあえ、情報交換や相談しあえる機会づくりに努める。 ●体験入学を通して、小学校の施設や生活の様子を知り、入学への期待が高まるようにする。
小学校	●体験入学などの交流を通して小学校生活のイメージをもたせ、期待が膨らむようにする。 ●給食体験を通して小学校給食の内容や味を知り、安心して食べられるようにする。

事例①

大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

きいて話して友だちをつくらう！

学びを楽しもう！

お話づくり・劇遊び

共通のイメージをもち、それぞれの場面でどんな表現をするかをグループにわかれて話しあい、世界でたった一つのお話をつくっている喜びを感じあう。言葉や体を使って自由に表現しあう。

ねらい

一人ひとりが自分の良さやもち味を発揮し、友だちと協力して遊びを進める。友だちと共通のイメージをもちながら、一緒に考え工夫したり、自己発揮したりしながらやり遂げた充実感を味わう。

子どもの姿・活動内容

- 絵本を見ながらイメージを膨らませ、自分たちならどんなお話にしたいかを考え、どんなものが必要かなどを考える。

- お話の世界の場面で、「なりたい」「やってみたい」と思う場で集まり、グループをつくる。

ポイント①

- それぞれの場面グループで言ってみようことや、やってみたいことを話しあう。友だちの考えを受け入れたり、自分の考えを相手に伝えるように話したりする。

- 各グループの考えた場面で実際に遊んでみる。

ポイント②

- 友だちの考えたお話の場面ではワクワクしている姿が見られる。

ポイント③

- 遊んでみてどうだったか話しあう。
(良かったところ、悪かったところなど)



- グループの友だち同士のつながりが強くなっている。
- 友だちと想いを伝えあうことを存分に楽しむ姿が見られる。

保育者のかかわり

- 共通のイメージをもってお話遊びができるように、子どもたちの興味・関心のある絵本や教材を準備し、導入する。
- 子どもたちのイメージが膨らみやすいように、さまざまな素材や材料の準備をしておく。

- お話のグループぎめは、なるべく子どもたちの自主性に任せる。

- 人数が少なくて困っているグループには保育者も一緒に入り、周りの友だちにも知らせるようにする。

- 友だちと一緒にイメージを膨らませたり、考えを伝えあう姿を見守り、行き詰った時にはヒントとなるような言葉をかける。

- 自分の気持ちを出しにくい子どもには、保育者も一緒に本人の気持ちに寄り添いながら、自分の言葉でグループの友だちに伝えられるように援助する。

- 場面にあった音響を準備するなど、雰囲気が出せるように援助する。

- 友だちの考えた場面の世界に入り込み、表現を楽しんでいる姿を見守り、認め、励まししながら、意欲へとつなげる。

- 友だちの意見も大切に、次への話しあいにつながるように言葉をかける。

- 自分たちで考え話しあいながら、世界でたった一つのお話ができている喜びを保育者も一緒に共感する。

- イメージをもちにくい子どもには、保育者も一緒にお話の世界に入り込む。

準備

実践

振り返り

ポイント①

- お話の場面でグループをつくる時には、子どもたちの自主性に任せることで、コミュニケーション能力を高めることにつながり、就学に向けて新しい友だちにも自らかかわる力が身につく。
- 人数が少ないグループができたとしても保育者が初めからかわり、解決するのではなく、自分たちがどうしたいかを考えさせ、周りの友だちに困っていることを知らせられるように援助する。
- 自分でなりたいグループが見つけない子どもには、本人の気持ちをききながら、自分の力で行動できるように支援する。

ポイント②

- 自分の思いを一生懸命相手に伝えようとする姿や、友だちの話を一生懸命きいている姿を見守り、保育者とともに共感することで自信や意欲につながっている。
- 自分の思いを押し通そうとトラブルになることもあるが、相手の考えもきき入れながら、自分の気持ちにも折りあいをつけられるようになっている姿が見られる。
- 他のグループがどんな楽しいことを考えているのか、気になる様子も見られ、自分たちも楽しい場面を考えようとはりきる姿も見られる。

ポイント③

- 共通のイメージをもちながら、それぞれの場面で考えた遊びのルールをわかりやすく相手に伝えられるか、自分の言葉で相手に伝える大切さを学ばせる。
- 友だちの良かったところや頑張っているところを気づきあったり、言葉にして伝えることで気持ちが伝わりあったり、互いの心が温かくなることを感じあう。
- 人の話を最後まできくことの大切さを考える機会となった。

評価・反省

イメージをもちにくい子どもには絵本を用意したが、それが子どものイメージの広がりを防いでもったかもしれない。

体での表現が多くなり相手に伝わりにくい場面では、保育者がその時々に応じた言葉を投げかけることでヒントとなり、言葉での表現も楽しむようになった。

園(所)生活最後のクラスで一つの目的に向かって取り組む遊びだったため、友だちの意見を尊重し、みんなで良いものをつくりあげようとする雰囲気生まれた。

見せたいという気持ちを大切にしながら、そのためにはどうしたらいいかを考えさせる機会となり、お客さんに見せるためのルールが生まれた。

コメント

お話遊びを通してクラスが一つになりたいたいという気持ちを子どもたちの行動や言葉から感じとることができた。子どもたちは満足感・達成感を味わうとともに就学への意欲にもつながったように感じる。

友だちと一緒に楽しいものをつくりたいという気持ちが、こんなにも自分の気持ちに折りあいをつけながら、相手の考えを受け入れられる自分になれるんだということを改めて感じた。また、このような経験が、就学に向けて自信となり希望をもって1年生を迎える気持ちになったと思われる。

保護者にとっても、成長したわが子の姿を見ることで、就学への不安が少しでも減ったのではないだろうか。

事例②

大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

自分で元気な生活をつくらう！

きいて話して友だちをつくらう！

学びを楽しもう！

□文字の言葉集めをしよう

1～6文字の「言葉集め」をする。サイコロを使って、でた目の数の言葉をかいて、「ことばすごろく遊び」をする。

ねらい

数や文字に興味・関心をもちながら、それらを用いて友だちと遊ぶ楽しさを味わう。友だちとかかわりながら、遊びを発展させる。

子どもの姿・活動内容

保育者のかかわり

準備

- 自分の名前は、何文字かを知る。
- 3文字の言葉を考える。
- 指を使って「□文字」の言葉を集める。
- 「スリッパ」「ばった」「ジュース」のように促音や拗音、長音などをかくと、「スリパ」「ばた」「ジュス」になることがある。
- 同じ言葉でも違う意味のものがあることに気づく。(例:「くも＝雲、蜘蛛」、「はな＝花、鼻」など)
- 具体的ににかくことで、後ろから読めば違う言葉になることに気づく。(例:「いか」⇄「かい」、「かお」⇄「おか」など)

ポイント②



- かけない文字がある時は、「ひらがなスタンプ」を使う。
- 友だちと一緒にサイコロを使って「ことばすごろく」をする。
- ひとりでは遊べない遊びなので、友だちを誘いあって遊んでいる。
- 6文字以上の言葉を見つけた時には、本人も驚きながら喜ぶ姿があり、遊びの中の学びを楽しむことができた。

実践

- 多く出ると予想される「3文字」の言葉集めから取り組む。
- かき込める用紙を準備する。
- 2文字→4文字→1文字→5文字→6文字の順に「言葉集め」をする。
- クラス全体で活動した後は、思いついた時にかき込めるような環境を整える。
- 促音や拗音、長音などで間違えている時は、正しく伝える。
- 子どもたちの気づきに共感し、周りの友だちにも伝えられる場をつくる。
- 子どもたちの自主的な発見に任せ、ヒントなどは出さないようにする。後の5・6文字を発見した時の感動が大きくなる。

ポイント①



ポイント③

- 「ことばすごろく」の用紙を準備する。
- ルールを伝え、子どもたち自身で「ことばすごろく」の遊びを進めていけるようにする。
- 5・6文字になると、なかなか出てこない時があった。そこで、ヒントを出したり教室の環境で探せるようにしてみたりするなど、自分たちで言葉を集められる(見つけられる)ように援助する。

振り返り

ポイント①

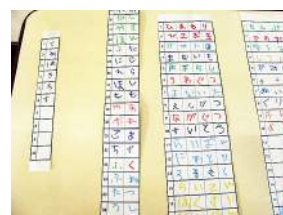
- クラス全体の遊びとして終わらせるのではなく、子ども一人ひとりが思いついた時に
かき込めるようにすることで、自主的・意欲的な言葉集めにつながる。
- クラス全体の共有物とすることで、子どもたちの競いあいや数を多く出すという共通
した目標に向かわせる。

ポイント②

- 「はんたいホラネ!？」を歌う、「さかさのこもりくん」シリーズを読む、「反対ことばカ
ード」で遊ぶことで、知らなかった反対言葉を知ったり、さまざまな言葉遊びを通し
て、言葉の楽しさやおもしろさを伝えたりする。
- この活動を活かして、子どもたちが見つけた反対言葉などを劇遊びの中でも取り入
れ、遊びをさらに発展させる。

ポイント③

- 写真のような大きさだと、1対1や少人数での活動に有効だった。初級版として枠が
少なめのものと中級版として枠を少し多くしたものを用意しておき、途中であきらめ
ないように工夫した。
- 大きい模造紙で用紙をつくと、グループ対抗にして
4～5人の友だちと考えながら遊ぶこともできる。その
際は、大きなサイコロを使う。
- ただ集めるだけの活動に終わるのではなく、「すごろく
遊び」として発展させることで、より楽しみ、考える(学
ぶ)ことにもつながった。



評価・反省

数に対しても「90個も集められたな!」
と視覚的にわかるようにすることで、達成
感も味わうことができた。

遊びを通して、言葉の習得や意味の理
解など、学びにつながる取組みでもあると
感じた。

コメント

クラス全体で遊んだことが、その後の子
どもの自主的な遊びにつながったことが
良かった。

子どもに前年度のクラスでの数などを
伝えるなどすれば、子どもたちにとって
わかりやすい目標ができ、新たな楽しみ
や頑張りにつながると思う。

5歳児 3月

テーマ

もうすぐ1年生！

就学に向けての期待や不安をもちながらも、一人ひとりが自信をもって入学を楽しみにする。



ねらい

- 就学への期待が高まり、生活や遊びに意欲的に取り組む。
- 就学に向けて、集団生活に必要なきまりを守る。
- 生活に見通しをもって行動し、健康的な生活を進んでしようとする。
- 自分の思いを言葉で表現する。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

- 当番活動や年少児のお世話をすることを通して、自分が役に立っている喜びを感じる。
- 生活をともにしてきた友だちや年下の友だち、身近な人々と心を通わせ、成長した喜びを味わい、感謝の気持ちをもつ。
- 周りの人に感謝をしながら、自分の成長を感じたり、自信をもったりする。
- 友だちを思いやり、互いに認め合いながら生活する。

きいて話して
友だちをつくらう！

つながる
力

- グループや友だち同士で話しあいながら、遊びや活動を進める。
- 相手の気持ちを考えながら話をしたり、お互いの気持ちに折り合いをつけながら遊びを進める。
- 小学校生活のイメージを友だちに話したり、きいたりして期待感を高める。
- 小学校入学への期待をもちながら、友だちと一緒に充実した園生活を過ごす。

自分で元気な
生活をつくらう！

元気に生活
する力

- 自分がこれまでに経験してきたことに対する自信をもち、自分の力で行動しようとする。
- 小学校生活をイメージし、時間を意識しながら見通しをもって、生活をする。
- 体調や気温に応じて、自分で衣服を脱いだり着たりしながら調整する。
- 食材を育てている人や調理してくれる人に感謝の気持ちをもち、友だちと一緒に楽しんで食事をする。

学びを
楽しもう！

考えてチャレンジ
する力

- 遊びや生活の中で、数や量、図形、文字、ものの性質への興味・関心が高まる。
- 文字や数字を使って、遊びを工夫したり、発展させたりする。
- 小学校で学ぶ新たな言葉や文字、数を使った学習に対して、楽しみと期待をもつ。
- 自分なりのめあてをもって活動に取り組み、最後までやり遂げた達成感を味わい、自信をもつ。

小学校に向けて

- 「学校ごっこ」をして遊び、小学校生活のイメージをもつ。
- 小学校までの通学路を知り、理解してスムーズに登園(所)できるようになる。

保育者の援助

【ポイント1】

**自分や友だちの成長を
認めあえる機会をもつ**

- 自分の力を十分に発揮し、互いの良さに気づき協力しあいながら遊びや生活を進め、充実感を味わえるようにする。
- 自分がこれまでに経験したことを振り返り、就学に向けて自信をもたせる。

【ポイント2】

**感謝の気持ちを周りの人へ
伝えあえるようにする**

- 自分がこれまでにかかわってきた人への感謝の気持ちをもたせる。
- 子どもの話したい、表現したい、伝えたいという気持ちを受けとめ、言葉で相手に伝える楽しさを知らせる。

【ポイント3】

**就学に期待をもちながら生活に
見通しをもって行動できるようにする**

- 時間を意識した生活を進め、就学に向けて気持ちを高めさせる。
- 就学がイメージできるように、小学校生活での授業環境や年間行事などを伝えとともに、就学への期待感を高める。

環境づくり

成長記録	お別れ会でのふれあい	時間を意識できる環境づくり
成長の記録を通して体だけでなく、心も大きくなった喜びを感じられるようにする。	お別れ会を通して、園生活での自分たちの成長を感じさせる。園生活の最後の行事として、就学への意識を高められるようにする。	見通しをもって、自分たちで生活を進めていけるように、時計・カレンダー・予定表を用意する。

接続期の工夫

家庭・地域	●就学への不安が少なくなるように、幼稚園・保育所での子どもの成長を伝える。 ●家庭でも自分のことは自分でできるように進めてもらう。 ●早寝・早起き・朝ごはんなど、生活習慣を整える大切さを保護者に伝える。 ●徒歩通学の練習を家庭でするように促す。
幼稚園・保育所など	●子ども同士の交流活動などを通して、就学した際にも新たな友だちをつくっていけるようにする。 ●就学に向けての期待や不安を十分に受けとめ、一人ひとりが自信をもって入学を楽しみに待つようにする。
小学校	●就学する小学校へ引き継ぎを行う。 ●保育者と教師が子どもの特徴を共有できるように、情報交換などを行う機会づくりに努める。 ●教育相談日などを設け、保護者の育児教育の不安を受けとめ、小学校入学への期待につなげるようにする。

事例①

大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

自分で元気な生活をつくろう！

学びを楽しもう！

小学生体験

朝の会の「おやすみ調べ」で、小学校で使う号令「起立」「礼」「着席」を使い、就学を意識し、活動の中に楽しみながら取り入れる。また、クラスの子どもたちへ連絡事項を伝える。

ねらい

小学校での号令（起立、礼、着席など）を事前に体験し、小学生になっても自信をもって取り組めるようになる。また、きいてきた「お知らせ」をみんなの前で正確に伝えられるようになる。

子どもの姿・活動内容

保育者のかかわり

準備

- 小学校への体験入学などの機会を通して、小学校での号令の種類や内容について理解する。

ポイント①

- イスに座って朝の会をする。
- 「起立」「礼」「着席」の合図で、朝のあいさつをする。

ポイント②



実践

- 当番がおやすみ調べをし、職員室におやすみ調べカードをもっていく。
- 入室時に「失礼します」と言って入り、職員室の教師にクラスの出席状況を伝える。
- 係の教師からその日の「お知らせ」をきいて教室に戻る。
- 教室に戻り、クラスの子どもたちに「お知らせ」を伝える。

ポイント③

- 次の日の当番を伝え、「おやすみ調べ当番」を終了する。

- 事前に年長児の担任で、取り入れる時期や方法を確認して行うようにする。
- 朝の会を小学校のように、イスを並べた教室のような環境をつくる。
- イスに正しい姿勢で座ることを伝え、子どもたちに小学校の号令として意識させながら取り組めるようにする。
- 「起立」「礼」「着席」という言葉の意味をあらかじめ伝え、楽しんで行えるようにする。
- 子どもたちの様子を見ながら、「かっこいいね」「すごいね」と言葉をかけ、小学校への期待が膨らむようにする。
- その日に、子どもたちに伝えたいことを「お知らせ」という形で、全体に伝えるようにする。（例：廊下を走らないようにする、あいさつをしっかりとするなど）
- きいてきた「お知らせ」を、クラスの友だちに正しく伝えられるようにし、みんなの前でもしっかりと話できた時は、褒めて励ますようにする。



- 一人ずつ順番に行うので、あらかじめ前日に次の当番の人の名前を発表し、当番にあたった人は、自覚をもって取り組めるようにする。

振り返り

ポイント①

- 小学校では、一人ずつの机とイスがあり、そこに座って勉強したり給食を食べたりすることを伝え、日々の生活の中にもイスと机を使った活動を多く取り入れるようにする。
- 正しい姿勢で座ることが、学習意欲につながることから、子どもたちが日頃から正しい姿勢で座れるように言葉をかけ、保護者にも機会をとらえて正しい姿勢を意識してもらうように伝えた。

ポイント②

- 「ねえ、ねえ、知ってる？ 小学校には、カッコいい言葉があるよ。それはね・・・」と楽しみになるような言葉をかけることで、子どもたちがより集中して話をきく姿がみられた。
- 次の日からも子どもたちの方から「小学校の言葉でやって」という意見もきかれ、あこがれの気持ちや期待感が膨らんでいる様子も見られた。

ポイント③

- 保育者からきいた「お知らせ」を伝える際に、緊張や恥ずかしさから発表することが難しい子どももいたが、ゆっくりと周りの友だちが話し出すまで待つ姿勢があり、人の話をきく姿勢にもつながっているように感じられた。
- 頑張って言えたことで、自信になったり、周りの友だちからも認められたりする機会づくりにもつながった。

評価・反省

小学校の言葉を使ってからは、家庭でも保護者に自慢して話したり、自分たちの遊びの中でも使ったりしていることから、小学校へつながる言葉・行動だと感じた。

また、小学校での号令など、小学校で使う言葉へのあこがれが、就学への期待の膨らみにもつながっていると考えられる。

このような取組みも含めて、まだまだ小学校へ向けて情報発信したり提供を受けたりする必要があると思う。

コメント

小学校で使う言葉の中には、子どもたちにとって初めてきく言葉がある。そのことを保育者や教師も共通理解していないと子どもが戸惑うことになると思うため、日々の保育の中や授業の中で興味や関心がもてるように取り入れないといけないと感じている。

それには、保育者自身の心構えが大切になってくると思うので、これからも連携しながら段差をなくしていかないといけないと感じている。

事例②

大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

自分で元気な生活をつくろう！

きいて話して友だちをつくろう！

ドッジボール交流とトイレ体験

2グループにわかれて年長児対1年生でドッジボールを行う。2回戦目、1年生は左手で投げで試合を行うなどをし、対等に遊びを展開させる。トイレの使用では、女兒は扉を閉めて排泄を行う練習をする。

ねらい

小学生とコミュニケーションをとり、優しくされることを知り、就学に向けての安心感や期待を高める。トイレに慣れるなど、スムーズに小学校生活を送ることができるようになる。

子どもの姿・活動内容

保育者のかかわり

ポイント
①

- ドッジボールのルールについての話をきき、理解する。
- 小学校でスムーズに行動できるよう、上靴の脱ぎ履きの取組みをする。

<ドッジボール>

- 元気良くあいさつを交わし、お互いを意識する。
- ルールを守り楽しんで積極的に参加し、就学に期待をもつ。

ポイント
②



<上靴>

- 学校内の移動の中で、スムーズに上靴の脱ぎ履きを行う。

ポイント
③

<排泄>

- スリッパに履きかえる、排泄を行う、手を洗うといった流れが身につき、ひとりで行える。
- 女兒(男児は便の際)扉を閉めて排泄を行う。

- 小学生との交流でお互いをより知ることができ、就学への期待がさらに高まる。
- 感想をきく中で、他児の気持ちも知る。

- ルールをなるべく園(所)側にあわせ、混乱なくドッジボールを行えるようにする。
- 立ったままでの靴の脱ぎ履きの意識づけを行う。

- 顔をあわせ、笑顔であいさつを交わす時間をつくり、安心感をもって参加することができるようにする。
- 全員が楽しんで参加できるように、柔らかいボールを使用する。
- きめることがある場合は、子どもの自主性に任せて進める。

- 実際に1年生がモデルとなってもらい、見て真似て覚えさせる。
- 上靴の脱ぎ履きができない子どもには、1年生が手助けをしてあげるように促す。

- 3月までの小学校体験で繰り返し取り組んでできているため、声かけや見守りを減らし、ひとりで行えるように進める。
- 外で見守り、いつでも手助けができるよう、また個人的に配慮が必要な場合は配慮する。
- 子どもたちが自分の思いを言葉に出して伝えられるような雰囲気づくりや言葉がけを行う。
- 感想をきき、満足度を把握するとともに、共感する。

準備

実践

振り返り

ポイント①

- スムーズに遊びに取りかかれるように園側にルールをあわせることは多々あるが、小学校のルールも取り入れ、小学生としての力や応用力を身につけることも大切にする。
- 小学生がルールを忘れるなど、場合によっては園(所)の子どもが小学生にルールを教えてあげたりする。

ポイント②

- 積極的に参加することで自信へとつなげ、交流会を楽しむことで楽しい小学校生活に期待をもてるようにする。
- 楽しさの中にもルールを守る大切さがあることを知らせる。

ポイント③

- 小学校入学の際、排泄面で不安となる子どもが多くなるため、体験を通じ、就学までに小学校のトイレでの排泄をひとりで行えるようになり、不安を少しでも取りのぞき、スムーズに学校生活を送れるよう回数を重ねる。
- 小学校で体験する新たな生活習慣を知り、慣れるようにする。

評価・反省

コミュニケーションをはかることに関して、ドッジボール交流は取り組みやすく、笑顔で参加する子どもたちの姿が多く見られた。

園(所)の子ども対小学生の試合だけではなく、園(所)の子どもと小学生の混合のグループでの試合の場面をつくると、よりコミュニケーションがはかれ、関係を深めることができたのではないと思う。

コメント

全員が知っているドッジボールだからこそ、すぐに取り組むことができ、子ども同士のコミュニケーションがはかりやすく、積極的に取り組むことができたと思う。このような交流を増やすことが重要である。

トイレ体験は回数を重ねることでトイレへの不安や使い方にも慣れることから、小学校を訪れるごとにトイレ体験をさせていただいていることは有効である。

第4章 スタートカリキュラム

スタートカリキュラムとして、小学校1年生4月の週ごと、5～7月の月ごとに実践する教育内容などについて記載します。

以下に、スタートカリキュラムを小学校などにおいて実践していくための大切にしたい視点や内容、作成視点についてまとめています。

●スタートカリキュラムで大切にしたい視点

① 幼稚園・保育所での経験を活かす。

小学校入学当初においては、子どもがこれまで経験してきた遊びや生活環境を参考にし、取り入れることで、子どもの戸惑いの解消やこれまで身につけた力の発揮につながります。

② 合科的・関連的な指導を進める。

就学前の子どもはこれまでに、生活や遊びを通して、さまざまなことを学んできています。

体験を通じた学びが中心である生活科では、就学前に体験してきた内容を活かしつつ、生活科を入口として各教科学習につなげていくことが大切です。



③ 授業時数や内容を工夫する。

合科的・関連的な指導を進めるにあたっては、授業の単位時間を15分モジュールで区切ったり、場合によっては伸ばしたりしながら柔軟な時間割を進めることが効果的です。

例えば、生活科の「春をみつけよう」の課外授業において、45分で内容を詰めて進めるよりは、60分に伸ばして時間にゆとりがある中で、国語や算数などの教科学習とつながら進めていくなどです。

また、小学校入学により子どもが感じる戸惑いをやわらげるためにも、例えば1時間目は学校生活を楽しめる授業にするなどの、子どもが学校・教科学習になじめるような授業内容の工夫も効果的です。

●スタートカリキュラム一覧

[illegible]

●スタートカリキュラム（週案）に取り入れたい視点

小学校教育では時間割に基づいた授業が始まり、教師が作成する週案にそって子どもたちは計画的に学習を進めます。

そこで、ここではスタートカリキュラム一覧に示した内容を週案として落とし込み、体系的にスタートカリキュラムを実践・活用していくために取り入れたい視点を記載しています。

【週案に取り入れたい視点 ～3つの活動形態～】

小学校1年生4月の週案では、幼稚園・保育所での遊びを中心とした学びから教科学習へ、徐々に活動形態を移行させていく必要があります。

その中で、入学直後において特に大切にしたい視点としては、子どもが小学校を好きになる、毎日行きたくなる気持ちをもつことだと考えます。

小学校での生活や学習に楽しみを感じ、それをきっかけとして生活科を中核とした合科的・関連的な学習や教科を中心とした学習に対しても意欲的に取り組んでいくことで、自覚的な学びにつながっていくと考えます。

たのしみ タイム

～学校が好きになる、行きたくなる～

ふれあい交流や遊びを取り入れた学習などにより、学校生活を知って楽しみにし、学校も教師も友だちも好きになるための時間。

わくわく タイム

～学びに向かい、学びを楽しむ～

生活科を中核とした合科的・関連的な学習を進め、学びの芽生えを活かしながら、学習への興味・関心を高める時間。

ちゃれんじ タイム

～学びを深め、意欲的に学ぶ～

教科ごとの学習に取り組み、学びを深め、意欲的に学習していく力を身につける時間。

徐々に、
学習へ移行する

■活動形態の移行イメージ

	4月		5月		6月		7月	
	第1～2週	第3～4週	第1～2週	第3～4週	第1～2週	第3～4週	第1～2週	第3～4週
1時間目	たのしみ タイム							
2時間目								
3時間目			わくわく タイム					
4時間目								

● 3つの活動形態の取組み例

元気にあいさつ

関連教科

国語

学活

子どもの姿・活動内容

- ゲームを通じて楽しくあいさつする。
- クイズをしながら、いろいろなあいさつを発表しあう。
「おはよう」
「いただきます」 など
- ゲームでつくった2人組であいさつする。
- 元気よくあいさつすることを楽しむ。
- 学校でも、家庭でもしっかりとあいさつするようにする。



教師のかかわり

- 子どもの生活知識を活かして活動につなげる。
「朝起きてするあいさつは？」
「ご飯を食べる時は？」 など
- ゲームをきっかけに楽しくあいさつできるようにする。
- 教師が積極的に元気なあいさつを示す。
- あいさつをしっかりとできることが、礼儀正しいということや、あいさつした方もされた方も気持ち良くなることを伝える。

初めての学級

関連教科

国語

学活

子どもの姿・活動内容

- 自分の席を探して座り、あいさつをする。「おはようございます。」
- 教師の話をきく。教師の真似をして「〇〇小学校」「〇年〇組」「〇〇〇〇先生」と言う。
- 名前を呼ばれたら元気に返事をする。
- 教師の話を静かにきいて待つ。
- 保護者の人にそばに来ていただき、一緒に配布物の確認をする。
- なぞなぞ大会をする。
- 絵本の読みきかせをきく。
- 次に学校にくる日のことを確認する。
- 帰りのあいさつをする。
「さようなら」



教師のかかわり

- 自分の名前のシールが貼ってある机を探して、座るよう声かけをする。
- 子どもへ入学のお祝いと、一人ひとりに出会えた喜びを伝える。
- 目を見て、笑顔で名前を呼び、返事の後には一人ひとりを褒めてあげる。
- 静かに待つように声かけをし、保護者へ学級方針などを話す。
- 学年だよりを見ながら、配布物を一つずつ確認する。
- クイズ大会では答えがわかったら、静かに手をあげるよう約束する。これからも学校では読みきかせなどをすることを伝え、登校の楽しみをつくる。
- 元気にあいさつをするよう声かけをする。保護者には、個人的に話がある人は残ってもらうよう声かけをする。

ならびっこ

関連教科

生活 体育 音楽

子どもの姿・活動内容

- 教師の前に並ぶ。
- 教師が移動し、立ち止まったところにスタートの合図で並ぶ。
- 壁にタッチして元の位置に並ぶ。
- 歩き回り、合図で一斉に並ぶ。
- 音楽をかけ、その間ダンスを踊ったり、動き回り、合図で一斉に並ぶ。

教師のかかわり

- 子どもが楽しんでできるように、ゲーム感覚で行う。
- さまざまな並び方ができるように、合図を変えて工夫する。
- 事故が起こらないよう注意する。

先生探検

関連教科

生活 国語 図工 学活

子どもの姿・活動内容

- 学校探検で全教室を知ったところで、先生探検のインタビューをする教師と内容をきめる。
- 教室の入り方、インタビューの仕方を練習する。
- 先生探検にいく。(休み時間)
- インタビューの内容をもとに、原稿に書く。(絵とインタビュー内容)
- クラスで発表練習をする。
- 学年で発表し、交流する。



教師のかかわり

- 3つの質問のうち、2つは固定しておき、もう1つをグループで自由に考えさせる。
- 「失礼します。1年〇組の□□です。△△先生にインタビューしに来ました。」と型をきめ、実際に教室でグループごとに練習する。
- まだひらがなが学習途中なので、書けない文字は、きき取った内容を教師が下がきし、子どもになぞらせる。
- 声の大きさやはきはき話すことを伝え、クラスでの練習を通して発表に自信をもたせる。
- 学年で交流することで、全職員のことを知る機会をもつ。

ひらがなをおぼえよう

関連教科

国語

図工

子どもの姿・活動内容

- 好きなひらがなを粘土でつくる。
※ひらがな勉強の終わりには、紙粘土で好きなひらがなを一文字つくってペンダントにする。
- 粘土でつくって、見つけたことや、気づいたことについて発表しあう。
- ワークシートに選んだひらがなを練習する。
- 言葉集めビンゴをする。
- 選んだひらがなのつく言葉をたくさん見つけて発表する。
- 集めた言葉の中からいくつか選んでビンゴカードに記入する。



教師のかかわり

- 子どもが好きな粘土を使うことで興味・関心をわかせる。
- ひらがなの特徴を良く見て、つくらせる。
「まるくするところ」「はねるところ」「点を打つ位置」など。
- みんなに自分の意見を発表し、認めもらえることで、発表することの喜びを感じさせる。
- えんぴつのもち方、姿勢をみんなで確認して、常に意識させる。
- できるだけ、子どもたちの中から出てきた意見を黒板に書いていく。
- 書けないひらがなが出てきた時には、その字は「・」で表すようにする。
- ビンゴになった子どもにはシールをわたす。

●3つの活動形態の実践に向けて

週案を考える際には、各授業がどの教科（生活、国語、算数、体育、音楽、図工、道徳、学活）として取り組むのかを時数を踏まえながら考えます。

その中で、3つの活動形態（たのしみタイム、わくわくタイム、ちゃれんじタイム）においては、時には複合的に取り入れながら設定し、実践していくものとしてとらえられます。

接続期において、まずは3つの活動形態をどのように位置づけ、移行させていくかをイメージし、それにそって各教科を設定していくことが大切です。

また、縦のつながり（学びに取り組む）と横のつながり（学びを広げる・深める）をもたせながら各教科を設定していくことも大切です。

	4月	5月	6月	7月	
1時間目			【横のつながり】 学びにつながりをもたせ、学びを広げ深める。		
2時間目					
3時間目	【縦のつながり】 学校生活を楽しみながら、学びに取り組む。				
4時間目					

小学校1年生 4月第1週

テーマ

初めまして、小学校！

学校の様子や生活の仕方を知り、期待をもって楽しむ。また、小学校入学により新しく出会った教師や友だちとともに元気に生活する。



ねらい

- 小学校の生活環境になじみ、安心して楽しく生活する。
- 朝の準備の仕方を知り、自分で取り組もうとする。
- 交通のルールを守り、安全に登下校する。
- 教師や友だちの名前を知り、あいさつをしたり、言葉をかわしたりする。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

- 教師や友だちについて知り、親しみをもつ。
- 今までの経験をもとに、新しいことにも興味・関心をもつ。
- 小学校での新しい生活に、楽しみや期待をもち、さまざまな人やものにかかわろうとする。

きいて話して
友だちをつくらう！

つながる
力

- 新しい友だちがいっぱいいることを知る。
- 同じクラスの子もたちと積極的に話し、友だちになろうとする。
- 教師が話す時には、きく姿勢を保ち、話の内容をしっかりと理解する。
- 自分の思いや考えを、はっきりと相手に伝えるように自分の言葉で伝える。

自分で元気な
生活をつくらう！

元気に生活
する力

- 小学校での生活習慣やきまりを理解し、楽しい学校生活をスタートさせる。
- 小学校生活に必要なものを知り、使い方を身につける。
- 小学校での一日の流れを理解し、チャイムを知る。
- 集団生活の中で、周りの状況を理解しながら、自分で考えて行動する。
- 教師の話のきいて、みんなで一緒に行動する。

学びを
楽しもう！

考えてチャレンジ
する力

- 学校生活に必要なさまざまなことを知り、前向きな姿勢で取り組む。
- 学校生活で新たに学ぶことや、初めて知ることに対して、喜びを感じ、楽しんで取り組もうとする。
- 学校生活で出会う言葉や文字、数や数量に対して好奇心をもち、理解しようとする。

幼稚園・保育所での経験を活かす

- 基本的な生活習慣を身につける。
- 一日の流れを知り、時計を見ながら見通しをもって生活する。
- ふれあい遊びや集団遊びを通して、かかわりを深める。
- 自分が感じたことや体験したことを言葉で相手に伝える。

教師の指導

【ポイント1】

小学校の楽しさを伝える

- 授業や生活の中で、遊びの要素を取り入れながら活動し、緊張感を和らげながら楽しめるようにする。
- 授業や遊び、生活の中で、子どもができたことを認め、自信をもたせる。

【ポイント2】

基本的な生活習慣や 基本姿勢を身につけさせる

- 学校での基本的な生活習慣を丁寧に伝え、確実に身につけさせる。
- 元気にあいさつや返事ができるように繰り返し指導する。
- 自分勝手な行動を見逃さず、注意・指導する。

【ポイント3】

これまでの経験を活かし、 自信をもって取り組ませる

- 幼稚園・保育所で行っていた遊びを取り入れ、環境が変わる中でも自信をもって生活できるきっかけをつくる。
- 授業や生活の中で、幼稚園や保育所で行ってきたことを思い出させたりしながら、自分ができることとして自信をもたせる。

環境づくり

クラスに子どもを迎える準備

クラスの壁面を飾って楽しい雰囲気づくりをしたり、在校生が歓迎する機会を設けるなど、楽しい学校生活のスタートがきれるようにする。

掲示物を使ってわかりやすく

朝の準備を絵や文字であらわしたり、声のものをういたりして、視覚的に示しながら指導する。

親しんできた遊具や用具を使って

幼稚園・保育所で使ってきた遊具や道具を用意し、遊んできたことなどを取り入れる。

接続期の工夫

家庭・地域	●学級通信を通して子どもの様子を知らせたり、行事やもち物などを知らせたりし、子どもたちがスムーズに学校生活を送れるようにする。 ●地域ボランティアの人と連携をはかり、登下校の子どもの安全を確保する。
幼稚園・保育所など	●幼稚園・保育所での一人ひとりの様子や家庭環境などを情報交換する。
小学校	●小学校全体で1年生を迎え、見守る体制づくりをする。

事例①

大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

きいて話して友だちをつくらう！

3つの活動形態

わくわく
タイム

学校を探検しよう

クラスごとに校内をめぐる、職員室、校長室、保健室、ふれあいルーム、支援学級の場所とどのような教室なのかを知る。支援学級では、それぞれの教師からも話をしてもらう。

ねらい

小学校入学後、すぐに利用する可能性の高い教室・部屋を知る。また、支援学級の教師の話や見学により、さまざまな友だちがいることを知る。

子どもの姿・活動内容

- どの教室・部屋へ探検しに行くのかの説明をきき、それぞれがイメージを膨らませる。
- 授業中の廊下の歩き方のルール(口をふくめて、二人組で手をつないで)を守り、移動する。
- 職員室、校長室、保健室、ふれあいルームなど、各教室・部屋を見学する。
- 学校には、自分の教室以外にも、さまざまな目的でつくられた部屋があることを知る。



- 支援学級の見学、教師の話をきく。
- 支援学級の教師から、教室の紹介、通っている子どもについて、どんな学習をしているのかを聞いてもらう。
- どのような教室に行ったかを振り返る。

教師のかかわり

- 探検する場所や時間の予定を簡単に説明し、見通しをもたせる。
- それぞれの教室・部屋の概要を説明し、期待をもたせる。
- 授業中の廊下の歩き方について教え、意識しながら移動させる。
- それぞれの教室・部屋の目的や役割について説明し、自分が今後利用する教室・部屋を知らせる。
- 授業中のため、静かにするよう注意する。
- 支援学級の子どもが、頑張って学習している姿に注目するよう声かけをする。

ポイント
①

ポイント
②

ポイント
③

準備

実践

振り返り

ポイント①

- 子どもが新しく見るものに対するイメージを膨らませたり、想像したりすることが、期待感を高めることにつながり、積極的に楽しんで参加することにつながる。
- 「どんな部屋だと思う？」など、子どもとイメージのやりとりをすることで、自分の考えや意見を言葉で表現したり、想像力を高めることにもつながる。

ポイント②

- 支援学級について、教師から子どもが集中しやすくなるための教室の工夫や、子どもが行っている学習について紹介してもらうことで、配慮や支援が必要な子どもや支援教育について理解を深める。
- 見学する1年生にとってはもちろん、支援学級の子どもにとっても活躍の場であるので大切にしたい機会である。

ポイント③

- 自分のペースで頑張っている子どもを見て、頑張りを認めあえる心を育てることが大切である。
- さまざまな友だちがいることを知り、自分との違いを感じながらも、同じ学校の友だちとしてかかわっていくようにする。

評価・反省

小学校の広い校舎に驚きと楽しみを感じ、これからの小学校生活への期待が膨らんでいた。

1年生は、その後も休み時間に支援学級に遊びにいったり、支援学級の子どもに会った時に声をかけたりと、交流がひろがっていると感じられた。

3学級が、1時間で行おうとしたので、少し時間が足りず、急いで見学した教室もあった。

コメント

さまざまな友だちがいることを知ることは、違いを認めあい、互いに支えあうための第一歩になると考える。

入学当初から、支援学級の子どもについて知ることによって人権教育の啓発を進めていけると思う。

事例②

給食を知ろう

栄養教諭から給食や給食マナーについての話をきき、給食がどんなものか知る。また、給食をつくる際の大きな調理器具を見せてもらい、給食に対する期待をもつ。

ねらい

給食開始に向けて、給食や食について理解するとともに、今後の給食に対する見通しをもてるようになる。

大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

自分で元気な生活をつくろう！

きいて話して友だちをつくろう！

3つの活動形態

わくわく
タイム

子どもの姿・活動内容

- 給食が始まる時期や時間などについて知る。
- 給食は栄養士や調理員がつくってくれることを知る。

ポイント
①

- 栄養教諭から給食や食についての話をきき、興味・関心が高まる。
- 調理の過程で使用する大きな調理器具を見て、給食に対する期待が高まる。



- 給食の準備や後片づけの仕方を知る(エプロンの着方、たたみ方、食器を戻す場所や形態など)。
- 給食がつくられる過程を知り、食材のありがたみや調理してくれる人への感謝の気持ちをもつ。
- 食生活教材「しょくせいかつをかんがえよう」を読み、食材の名前や調理される過程について学習する。

- 栄養教諭にお礼を言い、給食に対する期待を高める。

教師のかかわり

- 栄養教諭と打ちあわせをして、子どもに指導する日時をきめる。
- カレンダーを見せながら、給食が始まる時期を伝える。

ポイント
②

- 新しくかかわる人であることを紹介し、あいさつをする。
- しゃもじと子どもを背比べさせるなど、調理器具の大きさを実感させる。

ポイント
③

- スライドショーを用いて、給食の準備～食べる～片づけまでのマナーを伝える。
- O×クイズなど、子どもの興味・関心が高まるように工夫する。

- 読みながら給食に対する期待を高められるよう、声かけをする。

- 給食が始まれば、栄養教諭や6年生を始め、たくさんの人にお手伝いをしてもらいながら楽しく食べられることを伝える。

準備

実践

振り返り

ポイント①

- 栄養教諭という専門的な人から教えてもらうことで、子どもたちも興味・関心が高まっているように感じる。
- 食に関する意識が高まり、給食や家庭での食事が健やかな体をつくるために必要なことであるということを理解させる。

ポイント②

- 担任を始め、さまざまな教師と出会う1週目である。名前と仕事を知り、「先生探検」などの行事にもつなげていけるように声かけをする。
- 栄養士を始め、調理員の存在を知ること、多くの人自分たちを支えてくれていることに気づかせ、感謝の気持ちや安心感をもてるようにする。

ポイント③

- スライドショーなどを用いて、具体的に給食の流れや約束事を視覚的にわかりやすく説明することで、子どもが楽しみながら理解していけるようにする。
- 一定時間集中して話がきけるように、子どもたちの様子を見ながら必要に応じて指導する。

評価・反省

給食については、幼稚園・保育所と出身園(所)によって知っていることの差がある。実際に調理器具など具体物を見ることで、「おっきいなあ!」と大歓声があがり、給食に対して興味・関心が膨らんだ。

実際の給食では、多くの教師と6年生に助けてもらいながら楽しんで食べることができた。始めは牛乳が一口しか飲めなかった子どもも、飲める量が増えるごとにクラスの友だちに拍手で認めてもらい、5月に入る頃には1本飲めるようになった。

コメント

給食のプロである栄養士と連携をはかり、子どもにアプローチすることで給食に対する不安を減らし、期待を膨らませることにつながると考える。

給食や食の大切さを伝えるために、スライドショーや調理機器を見せるなど、子どもが楽しみながら理解していく過程を大切にしていきたい。

小学校1年生 4月第2週

テーマ

いよいよ勉強！自分で生活！

授業に向かう意識や態度を身につけ楽しく学習する。また、幼稚園や保育所との違いに気づき、小学校での学習に対する好奇心が高まる。



ねらい

- 学校での生活の仕方を知り、自分のことは自分でしようとする。
- 授業中は、自分の席に座り、教師や友だちの話をしっかりと聞く。
- 学習の流れを知り、学習への意欲をもつ。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

- 自分の気持ちや考えを大切に、クラスの友だちに知ってもらおうとする。
- クラスの友だちの良いところを見つけ、親しみをもつ。
- クラスの友だちに关心をもち、話しかけるなどしてかかわりを広げようとする。

きいて話して
友だちをつくらう！

つながる
力

- 自己紹介を通して、自分のことを言葉で伝え、相手の話をしっかりきき、知ろうとする。
- クラスの友だちと遊びや生活をともにする中でかかわりを広げる。
- 授業を受ける時は、教師や友だちの話をしっかりきく。

自分で元気な
生活をつくらう！

元気に生活
する力

- チャイムを合図とした時間の区切りがあることを知り、時間を意識して行動する。
- 授業準備(教科書、ノート、筆記用具などを机のうえに出す。休み時間にトイレに行く)をする。
- 休み時間と授業時間の切り替えができ、集中して授業を受ける。

学びを
楽しもう！

教えてチャレンジ
する力

- 教材や道具に親しみ、積極的に学習に取り組む。
- 正しいえんぴつのもち方や文字のかき方、正しい発声の仕方を身につける。
- 簡単なひらがなや数字遊びを通して楽しく学ぶ。

幼稚園・保育所での経験を活かす

- 朝の準備など、身の回りのことを自分でする。
- 自己紹介をしたり、さまざまな場面で自分の考えや思いを言葉で相手に伝えたりする。
- しりとりなどの文字遊びや、友だちとのつながり遊びを活かす。

教師の指導

【ポイント1】

学校での生活の仕方を教える

- 運動場・保健室・職員室・体育館・図書室など生活に必要な場所を教える。
- さまざまな場所の使い方やそこでのルールを伝える。
- チャイムを合図とした時間の区切りを知らせ、休み時間は元気に体を動かして過ごせるようにする。

【ポイント2】

学習規律を教える

- イスの座り方やえんぴつのもち方などを繰り返し丁寧に指導する。
- 「～です」「～ます」を使った発表の仕方を教える。
- 運筆や音読などの学習を行い、学ぶ意識を高める。

【ポイント3】

新しい友だちをつくれるようにする

- クラスで自己紹介をし、友だちを知るきっかけをつくる。
- 体育や生活の時間に、集団遊びを取り入れ、クラスの友だちとのつながりをつくる。
- 下校時に同じ地区の友だちの顔や名前を覚えるように声をかける。

環境づくり

子ども・教師とのかかわり

長い休み時間には、担任は子どもと一緒に運動場に出たり、教師間連携を密にし、教室以外で過ごす子どもたちの安全を確保する。

図や文字を掲示する

イスの座り方やえんぴつのもち方、受け答えの仕方などを図や文字を用いて教室に掲示し、常に意識できるようにする。

友だちを知るきっかけづくり

自己紹介カードや、名刺交換遊びなどを通し、友だちとかわったり、掲示したりして、お互いを知るきっかけにする。

接続期の工夫

家庭・地域	●学校で教えていること(えんぴつのもち方など)を保護者にも伝え、家庭と一緒に身につけさせていく。
幼稚園・保育所など	●幼稚園や保育所で取り組んできた遊びを通した学びの内容について共有し、小学校での教育課程に活かしていく。 ●幼稚園・保育所の保育者と連携し、子どもそれぞれの特徴を理解する。
小学校	●教師間で子どもの様子に対する情報交換を行い、子どもが小学校生活に慣れるように指導内容の改善・工夫を行う。

事例①

大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

学びを楽しもう！

3つの活動形態

たのしみ
タイム

対面式であいさつ

始業式・離任式に参加していない1年生が、初めて上級生と会う機会として、異年齢の子どもとふれあう。6年生と手をつないで入場し、1年生があいさつをする。また、簡単なゲームを通して異年齢の交流を深める。

ねらい

学年全員で声をそろえ、大きな声であいさつができるようにする。ゲームのルールを理解し、異年齢と一緒に楽しく遊ぶ。また、ふれあいを通して、上級生との学校生活に楽しみや期待感をもち、学校の一員となった自覚をもつ。

子どもの姿・活動内容

- 対面式の意味を知り、理解する。
- 並び方やあいさつの言葉を知る。

- クラス旗を目印に、他の子どもと一緒に並んで歩く練習をする。
- 大きな声を出し、クラス全体で声をあわせる練習をする。



- 合同生活の時間を使って、並び方・あいさつの練習をする。
- ジャンケン列車のルールを理解する。
- 上級生とのジャンケン列車ゲームを楽しむ。
- 朝礼の並び方を知る。

- 拍手で迎えられ、楽しくゲームをすることで上級生に親しみをもつ。
- 大きな声であいさつできたことに自信をもつ。
- 次回の朝礼の並び方がわかる。

教師のかかわり

- 上級生と始めましてのあいさつをすることを伝える。
- 背の順がきまっていないので、名前の順で並ばせる。

ポイント
①

- 隣の人と肩をそろえて歩くことを意識させる。
- 立候補が多い始めと終わりのあいさつは、ジャンケンできめる。
- 学年で実際に並ぶ練習をし、ゲームのルールを理解させる。
- ジャンケンの勝敗にこだわる子どもには、勝つ時も負ける時もあることを伝える。

ポイント
②

- 6年生と手をつないで入場させる。
- 他学年と積極的にジャンケンできるよう声かけをする。
- クラス旗を目印に朝礼の隊形に並ばせる。

- 子どもたちに対面式の感想をきき、大きな声であいさつできた達成感を共有する。
- 手をつないだ6年生が今日から給食の手伝いに来てくれることを伝える。

ポイント
③

準備

実践

振り返り

ポイント①

- 始業式から1週間で、名前順や地区別順、下校順などたくさんの並び方を覚えた1年生である。対面式では、並び順で混乱がないようにあえて名前順で並ばせている。
- 並び方が難しい子どもには、早く並べた子どもが声かけをするなど、助けあう姿がみられるようになった。

ポイント②

- 練習でジャンケン列車を実施した時、ジャンケンに負けたことが悔しくて動かなくなってしまい、後ろに並ぶことができない子どもがいた。ジャンケンには勝つ時もあれば負ける時もあることを伝え、ルールを守って遊ぶことができたなら、またジャンケン列車をすることを約束すると、順番に並ぶようになった。
- 学年や対面式、保護者との交流会で何度かジャンケン列車に取り組むうちに、徐々にその子どもも勝敗にこだわらず、遊べるようになった。

ポイント③

- 上級生と楽しく過ごす時間をもつことで、登校班以外の上級生と意図的にかかわるきっかけとなった。
- 今回遊んだ上級生とまたふれあう機会があることを伝えることで、今後の楽しみや期待をもたせるとともに、上級生や学校生活への親しみを感じさせることにつながった。

評価・反省

対面式で、大きな声であいさつができ、練習の成果を出す機会としても良かった。

始業式から1週間での対面式だったので、あいさつの言葉は教師からの発信だった。1年生にどんな言葉を言いたいかについて、きく時間を設けられると良かった。

6年生と手をつないで入場し、他の学年からも拍手で迎えてもらうことで、学校の一員となる自覚をもつことができた。

コメント

1年生の中には緊張している子どももいたが、6年生が声かけを行ったり、優しく先導してくれたおかげで、全体的に楽しく対面式を迎えることができたと思う。

最上級生との交流は、小学校生活での自分の成長の見通しをもたせるためにも有効な取り組みだと思う。上級生にとっても、これまでの学校生活で養った力を発揮できる機会にもなると思う。

事例②

大切にしたい視点

3つの活動形態

自分も相手も好きになろう！

たのしみ
タイム

自分で元気な生活をつくろう！

きいて話して友だちをつくろう！

2年生とのふれあい交流

1年生と2年生がグループをつくり、校内のさまざまな場所をめぐりながらふれあい交流を行う。2年生は、1年生を案内したり、どのような場所か紹介したりする。

ねらい

1年生は、広い校内を探検し、教室の場所や何をするところかを知り、2年生は、1年生にわかりやすく教室の役割を説明したり、案内したりする異年齢の交流で、グループでの活動の中で、協力することの大切さ・楽しさを感じる。

子どもの姿・活動内容

教師のかかわり

準備

- 1年生は、グループをつくる。2年生は、各教室の説明を考えたり、1年生にわたすメダルをつくったりする。
- 2年生は、案内役、教室・場所で教室の説明やクイズを出す役にわかれる。始めと終わりの会の司会進行などもきめる。
- 一つの教室に全員集まり、お互いにあいさつをする。
- 校内をまわる時の注意点をきく。
- グループの顔あわせをして、1年生は2年生からメダルをもらう。

ポイント
②

- グループごとに探検する中で、グループメンバー同士で次の目的地などを共有しながら、まとまって移動する。
- 授業中のクラスもあるため、静かに移動する。

実践

- 各教室・場所で2年生の説明をきき、さまざまな教室・場所の役割などを知りながら、小学校生活への興味・関心を高めている。
- クイズに答えながら楽しんで探検をする。

- 終わりの会をする。
- 2年生の代表が終わりの言葉を言い、1年生は全員でお礼を言う。

ポイント
①

- 1年生には、グループの説明をし、みんなで協力して探検することを伝える。
- 2年生には、昨年に自分たちがしてもらったことを思い出させ、1年生に楽しんでもらえるように考えさせる。上級生の自覚をもたせ、自分たちで考えて活動させる。
- 2年生に司会進行してもらうことで、1年生に上級生へのあこがれをもたせるとともに、2年生にとっても成長の機会にする。
- スムーズに顔あわせができるよう、声かけをする。
- 1年生同士や2年生と協力してまわっているか観察・声かけをする。



ポイント
③

- 1年生が2年生の説明をしっかりときくように、必要に応じて声かけをする。
- 教室・場所の説明においても、できるだけ子ども同士でのやりとりを見守る。必要に応じて助言を行う。

- これからの学校生活を互いに協力していけるようまとめさせる。

振り返り

ポイント①

- 2年生は昨年、自分たちが案内してもらっていることを良く覚えている。次は自分たちがお兄さん、お姉さんとなって案内できることをとても楽しみにしている。2年生にとっても上級生としての自覚をもち、また、成長した自分を感じられる大切な機会である。
- 1年生は、2年生の姿を見て、自分たちの1年後の目標とさせて、これからの学校生活に期待をもたせたい。

ポイント②

- 探検でまわる場所を、その都度確認しながら行動し、グループ内での目的を共有することで、協同性を養えるようにする。
- 1年生と2年生が楽しくふれあうことで、1年生が小学校生活へ馴染んでいけるようにする。

ポイント③

- 校内をまわることで、1年生は各場所の位置や役割を知り、学校に慣れさせる。ポイントをまわることだけに子どもが夢中にならないように、各場所でのクイズを出させたり、声かけをしたりする。

評価・反省

1年生にも2年生にも、自分たちで協力しあえる良い活動になった。

少し時間が少なかったように感じたので、場所を減らしたり、もう少し2年生に回り方を考えさせるべきだった。

2年生にとっては、上級生らしく進めていけたので、自己肯定感を高めることにつながっていたと思う。

1年生は、このあと休み時間に校舎内を自分たちで探検するなどしていた。

コメント

1年生も2年生もとても楽しんで活動していた。

子どもたちだけで行動する活動は、ほぼ初めてだったので、自分たちで考え、話しあい、さまざまな子どもとふれあえる機会となっているようだった。

小学校1年生 4月第3週

テーマ

係の仕事、始まるよ！ ～勉強も頑張ろう～

給食やそうじ、朝の会などの際に、当番としての役割を理解し、自分から行動する。また、基本的な学習規律を身につける。



ねらい

- 友だちと協力してさまざまな活動に取り組む。
- 一人ひとりが自分の役割を理解し、責任をもって自ら行動する。
- 学習環境を整えて、スムーズに勉強できるようにする。
- みんなで楽しく給食を食べることができる。
- そうじの仕方を知り、きれいになった心地良さをを感じる。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

- 自分の名前を相手に知ってもらい、相手の名前も覚えることで親しみを深める。
- クラス遊びを通して、友だちとのかわりを広げる。
- 自分の素敵なおところを見つけて、相手に伝えようとする。
- 友だちの良いところを見つけて、かわりを深めようとする。

きいて話して
友だちをつくらう！

つながる
力

- 自分が体験したことや思ったことを自分の言葉で伝える。
- 教師や友だちが話している時は、正しい姿勢で、しっかりと聞く。
- 友だちに話をきいてもらえる安心感を覚え、親しみをもちて行動する。
- 給食の準備やそうじなどで、友だちと声をかけあったりしながらスムーズにできるようにする。

自分で元気に
生活をつくらう！

元気に生活
する力

- 身の回りのことや係活動などで、準備や後片づけなどを自分で考えて行動する。
- 給食やそうじなどにおいて、きめられたことを理解し、守りながら楽しく取り組む。
- 食材や、それを育てている人、調理している人に感謝の気持ちを持ち、好き嫌いをせず食べる。

学びを
楽しもう！

考えてチャレンジ
する力

- これまでの生活や遊びでの経験を小学校での学習につなげたり、活かしながら積極的に学ぼうとする。
- 学習する姿勢を身につけ、正しい姿勢で授業を受ける。
- 声を出すことによって、正しい言葉づかいや文字を覚える。
- これまでの生活や遊びの経験を、学習活動に取り入れる。

幼稚園・保育所での経験を活かす

- 朝の身支度を始め、基本的な生活習慣が身につく。
- 道具や身近なものを使って数を数えたり、えんぴつを使って文字や数字をかいたりして遊ぶ。
- 自分が経験したことを、友だちの前で話す。
- 絵本を読むことを通して、文字や言葉にふれる。
- 正しい箸の使い方を確認し、楽しんで給食を食べる。

教師の指導

【ポイント1】

学習規律を身につけさせる

- 授業を受けるための正しい姿勢や、教師や友だちとの受け答えの仕方を身につけさせる。
- ノートやふでばこなどの教材の置き方・使い方を知らせる。
- チャイムを意識して行動できるように指導する。

【ポイント2】

給食指導を通して、 給食に興味をもたせる

- 安心して給食を食べられるように個々に配慮する。
- 箸、食器の正しい使い方を知らせる。
- きめられた時間内に食べられるよう見通しをもたせる。
- 食べられる量を配膳して、残さず食べられるように指導する。
- 給食当番の仕事を責任をもって取り組むように指導する。

【ポイント3】

自分の役割を意識させ、 協力関係をつくらせる

- 当番活動や班活動においては互いに協力しながら取り組むように声かけをする。
- ほうきやちりとり、ぞうきんなどのそうじ用具の使い方やそうじの仕方を指導する。

環境づくり

学習規律の共有・統一	楽しく給食できる環境づくり	当番表の活用
学校内で異なる授業においても、学習規律を共有・統一することで、子どもへの定着をはかる。	机をくつつけたりしながら子ども同士で楽しく食べられるように工夫する。食材や献立を掲示し、食や栄養に関する興味・関心を高める。	一人ひとりが自分の役割を理解し、責任をもって取り組めるように当番表を工夫し、活用させる。また、その日のうちに、そうじについて振り返りをし、反省・改善点を考えさせる。

接続期の工夫

家庭・地域	● 授業参観や学級懇談会を通して、保護者と授業内容を共有するとともに、それぞれの子どもの姿を知ってもらい、家庭と連携した教育につなげる。 ● 登下校の際には、地域住民と連携しながら子どもの安全の確保につとめる。
幼稚園・保育所など	● 幼稚園・保育所の保育者も授業参観に参加してもらい、就学前教育・保育と小学校教育の違いや、共通することについて理解をはかる。
小学校	● 学年会議などで生活上の約束やルール（給食、そうじなど）を統一する。 ● 他の小学校での取り組みなどを情報共有し、参考になる取り組みなどを自校でも実施する。

事例①

大切にしたい視点

3つの活動形態

自分も相手も好きになろう！

自分で元気な生活をつくろう！

きいて話して友だちをつくろう！

たのしみ
タイム

全校集会への参加

全校集会に参加し、歓迎のあいさつやプレゼントをもらい、お礼のあいさつをする。6年生と一緒に集会の隊形に整列し、校長先生やその他の教師からの話をきく。

ねらい

定期的な学校行事の流れを把握し、整列やあいさつなどの基本的なルールやきまりを理解し、楽しんで参加する。

子どもの姿・活動内容

教師のかかわり

準備

- 全校集会の内容や流れをきき、全体の見通しをもつ。
- あいさつや返事の練習をして、本番でも大きな声を出せるようにする。
- 背の順に並び、会場に移動する隊形に整列する。
- 移動中は隊形を崩さずに、順番を守りながら静かに移動する。
- 校長先生やその他の教師からの歓迎のあいさつをきく。
- 6年生から首飾りのプレゼントをもらう。

- 教師の合図でお礼のあいさつができるように、全員に注目させる。
- 一人ひとりに目を配り、配慮が必要な子どもにはその都度指導する。

ポイント
①

- 背の順に一度並んでから、バラバラに散らばり、集合場所を変えて集まる練習を何度もさせる。（先頭の向きを変えたり、時間を計ったりしてさまざまなパターンで整列させる。）

実践



ポイント
②

- 全員でお礼のあいさつをし、歓迎してくれた人たちへの感謝の気持ちを伝える。
- 集会に臨む隊形に整列し、教師などの話や連絡事項をきく。

- 慣れていない場所や行事でも、日頃指導しているような、人の話をきく姿勢や態度がとれているかチェックする。
- 1年生全員が、プレゼントをもらえたかどうか確認する。

- 他学年と同様に整列できるように、前後左右の間隔を取るよう声をかけをする。
- 運動場では、砂で遊んでしまう子どもも多いので、話をきく姿勢を確認させる。

ポイント
③

- クラスに戻って、全校集会の感想を話しあったりしながら、子ども同士や教師と交流する。

- 子どもたちに、感想を自由に話しあわせる。
- 校長先生の話など、子どもの話の理解度を把握し、集会での注意点を全員で確認する。

振り返り

ポイント①

- 体育の授業や休み時間を利用して、その都度、背の順を確認するようにする。
- ゲームを取り入れ、素早く並べるように、遊び感覚で取り組むと、さらに意欲的になる。
- 並ぶ場所を覚えにくい子どもには横や前後の子どもを確認させる。子ども同士、お互いに声かけできる雰囲気づくりを大切にする。

ポイント②

- 小学校に入学し、さまざまな人から歓迎されることで、今後の学校生活への期待や楽しみをもてるようにする。
- 感謝の気持ちをもつことの大切さを理解させるとともに、その気持ちを伝えることの大切さも知らせ、行動によって身につけさせる。

ポイント③

- 1年生の、この時期はまだ語彙数も少なく上手く自分の意見を発表できない子どもが多いが、「たくさん、自分の話をきいてほしい」という願望は強い。そこで、まずは隣の席の子どもと意見交流し、その後全体の前で発表する機会を設ける。
- 発表できない子どもも、他の子どもの発表をきくことで自分の意見と同じと感じたり、新たな発見につながったりできるので意見交流の機会はなるべく多く設けたい。

評価・反省

整列の練習などは、パターンを変えたりしながら反復練習することで徐々に身についていくものである。練習の中でも、子どもたちの主体的な行動を大切にしながら見守り、必要に応じて助言をすることが重要である。

全校集会は、6年生以外にも他の学年の子どもや教師など、さまざまな人を知ることができ、子どもにとっても新しい刺激になったと思われる。

コメント

みんなの前に立つ時、顔がこわばっていた1年生が、6年生からプレゼントを首にかけてもらうととても嬉しそうにしていた。

入学してすぐに「学校は楽しい」という経験をたくさん積むことで、今後の学校生活を円滑に過ごす手助けになると思われる。

事例②

大切にしたい視点

3つの活動形態

自分も相手も好きになろう！

学びを楽しもう！

わくわく
タイム

こいのぼり制作

画用紙にこいのぼりのウロコの形を印刷したものに、子どもがパスを使って塗る、はさみを使って切る、のりを使って貼り、子どもたちが協力しあってこいのぼり制作を行う。

ねらい

教師の指示をききながら、学習するための基本的な態度・能力を養う。就学前に獲得していると考えられる、塗る・切る・貼るという作業を通して、制作意欲を培う。

子どもの姿・活動内容

教師のかかわり

準備

- 準備物を確認する。(ウロコの台紙、パス、はさみ、のり)
- 何色を塗りたいか考えたりしながら、制作するこいのぼりのイメージを膨らませる。

- 各自が考えた色を台紙に塗る。
- 他の子どもたちが塗っている色を見たり、教師の助言をききながら、自分の塗り方も工夫したりする。

ポイント
②

- 正しくはさみを使いながら、台紙を切り、こいのぼりのウロコを作成していく。
- はさみを使用する際には、他のことに気がまぎれないようにし、切ることに集中する。
- 切ったウロコ型の紙を、こいのぼりをかいた模造紙に貼る。
- 貼る際には、みんなで制作していることを意識し、友だちに貼る順番を譲ったりする。

実践



- 全員で一つの作品をつくりあげた達成感や満足感を味わう。

- 暖色、寒色、補色、対照色について理解できる範囲でアドバイスする。
- しま模様や水玉模様など、柄をつけても良いことを伝える。

ポイント
①

- 隙間がなく、丁寧に塗れるよう指導する。
- 机間指導をし、子どもの学習状況を把握し、適宜指導を行う。

- 線にそって正確に切れるように指導する。
- はさみの正しい使い方や危険防止のための約束を確認する。

- 貼った時に、ウロコからのりがはみ出ないようにするために適量を考えさせる。
- さまざまな道具や材料を使用する際の正しい使い方や使用量について、理解できるように適宜指導する。

ポイント
③

- 子どもたちに作品を完成させた感想を言ったり、良い点を言ったりしながら、達成感や満足感を味わえるようにする。

振り返り

ポイント①

- 好き勝手に塗らせるのではなく、本事例の目的に即し、力を入れて濃くしっかりと塗る、隙間がなく塗る、色が混ざらないように塗る、はみ出ないように塗るなどの具体的なポイントを指示する。
- どのように塗るのかを指導者が実際にやってみせる。
- 指示をきき、理解できているかを確認するために、板書を声に出して読んだり、個別にあてて発表させたりして確認する。

ポイント②

- はさみの使い方や、安全に使用するための約束を確認する。
- 線にそって切る時に、手の向きをそのままに紙の向きを変えるなどの技術的な指導を行う。

ポイント③

- 始めに道具や材料の適切な使用について伝えるとともに、教師が見本となって見せることで、子どもにイメージさせることが大切である。
- 子ども同士で教えあったりする姿を見守り、必要に応じて助言をする。

評価・反省

まだまだ全体指導では指導が入りきらない子どもも見られたので、より個別に指導が入るように工夫する必要がある。

塗る、切る、貼るという行為は個人による差が顕著に見られ、個別に援助が必要な子どもも見られる。

塗る学習をする前に練習の時間を設けても良いかもしれない。

就学前に身につけている内容があるので、自信をもっていきいきと取り組める子どもも見られた。

コメント

子どもの就学前に身につけている力を把握するには、このような制作活動は適していると考えられる。

全体指示をきく力を伸ばす取り組みは、教科を問わずよりいっそう取り組む必要があると改めて感じた。

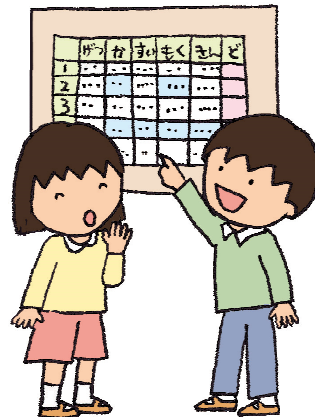
こいのぼりができあがった時に、子どもたちはとても喜び満足していたようだった。

小学校1年生 4月第4週

テーマ

いよいよ時間割通り始まるよ！ ～宿題も頑張ります～

時間割に基づく学習活動を理解し、さまざまな学びに対する好奇心や意欲をもって、友だちと一緒に楽しみながら取り組む。学校生活のルールを知り、身につける。



ねらい

- 時間割を理解し、時間を意識しながら行動する。
- 学習活動の流れをイメージするとともに、話したりきいたりする姿勢を身につける。
- 学習に対する好奇心や意欲をもって取り組み、学びを楽しむ。
- 集団生活を送るうえでのきまりを知る。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

- 自分の意見や考えをもつとともに、相手の意見を尊重する。
- 友だちと一緒にいることに楽しみを感じ、かかわりを広げようとする。
- 自分がこれまで経験してきたことを活かしたり、自分の得意なものを新たに見つけたりする。
- 生活科を中心とした学習活動の中で、自然を観察し、生命の大切さを実感する。

きいて話して
友だちをつくろう！

つながる
力

- 周りの状況に応じて、相手に伝わるように声の大きさを調整する。
- クラスの友だちと楽しく遊ぶためのルールを話しあったり、相談したりしながら自分たちで考えて遊ぶ。
- 学校の友だちと学校外においても遊べるようになる。
- 相手の意見を尊重しながら協同性をもって、学習活動や遊びを楽しむ。

自分で元気に
生活をつくろう！

元気に生活
する力

- 授業のルール（手をあげて発表する、「ハイ」と返事をする、イスに正しく座るなど）を身につける。
- 学校生活のルール（チャイム時には着席など）を身につける。
- 授業時間と休み時間のけじめをつけ、休み時間は友だちと一緒に楽しんで遊ぶ。
- 給食の準備や後片づけに慣れる。
- 全校集会などで、立ったまま話をきく姿勢を身につけ、並び順を理解する。

学びを
楽しもう！

考えてチャレンジ
する力

- ノートや下敷きなどの学習用具の正しい使い方を身につける。
- 連絡帳やノートを活用して、文字や言葉を正しくかき写すことを身につける。
- 取り組むことがきめられた時間内は、そのことに集中して取り組む。
- 読書や図書の時間にさまざまな本にふれ、読書の楽しさを感じる。
- 宿題を通して、学習することの楽しさを感じながら、家庭学習の習慣を身につける。

幼稚園・保育所での経験を活かす

- 時計を意識し、一日の見通しを立てて行動する。
- 言葉遊びを通して、読みかきに興味・関心をもつ。
- 図鑑や絵本を活用したり、実際に戸外で探したりして虫や植物への興味・関心をもつ。

教師の指導

【ポイント1】

楽しく宿題に取り組ませる

- 宿題を頑張ったことを認め、褒めたり、励ましたりしながら学習意欲を高めるとともに、自己学習に対する自信をつける。
- ぬり絵やイラストを活用するなど、子どもが宿題を楽しんで取り組めるような工夫をする。
- 宿題の内容や提出期限などをしっかりと伝え、子どもが自ら考え、取り組んでいけるようにする。

【ポイント2】

協同的な学習活動を経験させる

- さまざまな学習活動を友だちと一緒に頑張れるように、グループ学習や協同して学ぶ場を設定する。
- 学習の中での発見や課題を解決した喜びを友だちと共有できるようにする。

【ポイント3】

学校生活のルールを 定着させる

- 時間割にそって、次の授業内容を意識しながら、自ら進んで授業準備ができるようにする。
- 授業時間と休み時間の区切りを定着させ、チャイムを意識した行動ができるようにする。
- 視覚教材を用いて、流れを提示することで、スムーズに行動できるようにする。

環境づくり

提出物コーナー	学びを楽しむ機会づくり	時間割・ルールの掲示
宿題など、学習活動における提出物を提出するコーナーを設け、自分で管理する習慣を身につけさせる。	生活科を中心とした学習活動の中で、言葉や数、ものの性質などさまざまな視点からの学習を進める。	一日や一週間の見通しをもった学校生活を送れるように、授業内容なども記載した時間割を掲示する。授業中や休み時間などのルールを掲示する。

接続期の工夫

家庭・地域	●家庭訪問を通して、家庭での生活態度や配慮が必要なことなどについて把握する。 ●宿題をする習慣を身につけるように、保護者にも呼びかける。
幼稚園・保育所など	●保育者と小学校での授業中の子どもの様子などを情報交換し、時間割に応じた生活や授業中の態度など、就学前に身につけさせたいことを共有する。
小学校	●生活科を中心とした、合科的・関連的指導の仕方を話しあう。 ●授業の進め方や内容を統一する。

事例①

大切にしたい視点

3つの活動形態

自分も相手も好きになろう！

きいて話して友だちをつくらう！

学びを楽しもう！

わくわく
タイム

好きなものを知らせよう

自分の好きなものを絵にかいて、クラスの友だちにその内容を紹介する発表を行う。

ねらい

大勢の前で発表するための、声の大きさ、話し方、スピードなどを実際に体験しながら学習する。生活科として合科的・関連的な学習を進める中で、学ぶ力を養う。

子どもの姿・活動内容

教師のかかわり

準備

- 用意された用紙に、自分の好きなものをかく。
- 言葉や数字、図形などを用いて、自分の考えを表現する。

ポイント
①

- 発表のやり方や、声の大きさの使いわけを学習する。
- 相手に伝えることを整理し、自分の言葉などでどのように伝えるかを考える。
- 全員で発表の練習をする。
- 友だちと一緒に大きな声を出しながら発表練習することを楽しむ。



実践

- 一人ひとりが発表する。
- 他の人が発表している内容や様子、教師から助言されているのを見たり、きいたりしながら自分の発表をさらに良いものにするようにする。

- 全体練習や個人発表を終えた感想を話そう。
- 友だちや教師などの前で発表できたことに対する達成感や満足感を味わうとともに、人前で話す自信をつける。

- 好きなものだけでなく、好きなことでも良いことを伝え、自分の考えを自由に表現させる。

- 自分の考えを伝える大切さを教える。
- 言葉だけでなく、体を使ったりしながら表現できることを伝える。

ポイント
②

- 大きな声で発表できるように、リズムを入れたり、リレーをしたり、子どもが楽しんで練習できるようにする。
- 友だちの声に埋もれないように、大きな声を出すことを促す。

- 発表している人の顔を見ることや、発表している時に他の人と話さないなど、人の話をきく姿勢や態度について指導する。
- 発表した子どもの良かったところや直した方が良いところをみんなの前で伝え、他の子どもにも理解させる。

ポイント
③

- お互いをより知ることができたか、積極的に学習に取り組めたかなどを確認する。

振り返り

ポイント①

- 場面や状況にあわせた声の大きさや、正しい発表のやり方を一つひとつ具体的に教えていく。
- 教師が見本となり、子どもにイメージをもたせる。

ポイント②

- 苦手な子どもでも自信をもって言えるように、「わたし(ぼく)は、〇〇が好きです。」というように発言内容を固定化する。そのうえで、クラス全員に届く声が出せるよう練習する。
- 全員で声をそろえたり、男女にわけたり、グループでわけたり、リレーのように順番にあてたりしながら、楽しんで練習できるようにする。

ポイント③

- 自分に対して言われていることだけを気に留めたり、関心をもったりするだけでなく、他の人の状況を見たり、きいたりしながら自分の場合におきかえて考えられる力を育むことにつなげる。

評価・反省

クラスみんなで一体感をもって練習できたことが、子どもたちのやる気や楽しさを生み出し、充実した学習内容になったと思う。

発表の内容が国語や算数の発言のように1問1答の形ではないので、戸惑っている子どももいたが、自由に表現させたことが意欲的な取組みにつながっている場面も見られた。

コメント

この時期には、かき方、きき方、話し方を身につけて定着させていかなければならない重要な時期にあたるため、生活科の学習の中でも話し方やきき方について学ぶ機会があることは大切である。

それ以降には、合科的・関連的に国語や数学、図工、音楽など、さまざまな教科の学習を含めながら学習を進めていくことが必要になる。

初めてのグループ活動

グループごとで、各教室にひらがなでかかれたキーワードを探し、それらをすべてそろえて一つの文章を見つける。また、ポイント地点で立っている教師から出されるクイズに答え、正解するとシールをもらい、自信を身につける。

ねらい

学校生活に少し慣れてきたところで、友だちのことを知り、力をあわせて課題をやり遂げる楽しさを経験させることで、子どもたち同士の交流を深める。また、それぞれが役割をもつことで、その役割をやり遂げることやグループで活動する姿勢や力を身につける。

準備

子どもの姿・活動内容

- ゲームのルールや方法について話をきき、理解する。
- グループ活動ということを理解し、友だちと協力しながら進める意識を高める。

ポイント
①

- グループ内で話しあいをし、探索するルートをきめたり、係(グループ長、副グループ長、記録係、地図係、保健係)などをきめる。
- グループのルールとして守りたいこと、気をつけたいことを話しあう。

ポイント
②

- 混雑を避けるため、グループごとに時間差をつくり、スタートする。
- 廊下は走らない、はぐれたら教師のいるポイントへ行くなどの約束を確認する。

- 地図係が校舎配置図をもち、記録係が各教室のキーワードをメモするなど、役割分担を行いながらゲームを進める。
- グループ長が先導して、ルールを守りながら学校を探索する。

- 教室に戻り、集めたキーワードをつないでどんな文になったか確認しあう。
- 感想を発表しあう。

教師のかかわり

- 子どもたちがさまざまな教師と出会えるように、事前に協力してもらえるように声をかける。

- なるべく子どもたち同士で話しあいを進めさせる。
- うまく話しあいができないグループは、教師が助言しながら進めさせる。

- ルールやきまりは、みんなでゲームを楽しむために必要なことを理解させる。
- グループで行動しながらゲームを進めることを再確認させる。



- 子どもたちが来ることになっているポイントに立ち、様子を見守るようにする。
- 子どもたちがみんなで協力して、目的の教室までたどりつけているかチェックしながら見回りをする。

ポイント
③

- これまでの活動を振り返らせ、グループの中で感想を交流しあう。

実践

振り返り

ポイント①

- ゲームの目標はキーワードを集め、一つの文章を見つけることだが、この活動の本来の趣旨や目的が、グループ活動を通じた交流やそれぞれが役割をもち、それを達成することなどを子どもたちとともに共有することも大切にする。

ポイント②

- グループの話しあい活動では、司会役をきめて、やり方をまず全体の前で説明をする。そして、子どもたちに真似をさせることで話しあいの仕方を学ばせる。
- うなずきながら話をきくなど、きく姿勢がうまくできている子どもを、みんなの前で紹介してたくさん褒めることで他の子どもの意識も高めたい。
- 係分担やグループのルールを自分たちできめさせることで、責任感が生まれ、どの子どもも活躍できる場面が増えて、意欲的に活動に取り組めるようになる。

ポイント③

- 活動を振り返らせることで、楽しかっただけではなく、ルールの大切さを考えさせる。そして、学校生活ではルールを守ったうえでの楽しさがあることを学ばせる。
- 勉強の時だけでなく、遊びの中でもルールを守ってみんなと楽しく遊ぶことは大切であることを確認する。そうすることで、新たな友だちの良いところなども発見できて、友だちとの協調性や思いやりにもつながる。

評価・反省

時間が足りず回りきれないグループがあった。時間配分を考慮する必要がある。

キーワードを集めながら、学校探検をすることや教師から学校に関するクイズが出されるという方法は、子どもたちにとってとても有効であった。

ひらがなが、まだ読めない子どももいたが、グループで行動することで、子どもたち同士で協力したり声をかけあったりする姿が見られ、どの子どもも楽しんで参加することができた。

コメント

小学校1年生の子どもたちだけでの初めてのグループ活動であったため、うまくグループで協力しあえるか不安だったが、上手に声かけをしあう姿が多く見られた。

この活動をきっかけに友だちが増えたり、さらに仲良くなったりする子どもも多く、時期的なタイミングもあっていたと思われる。

春の遠足にもつながる集団行動の勉強になったと思う。

小学校1年生 5月

テーマ

学校は楽しい！ 友だちの輪を広げよう



ねらい

- 学校生活や授業の流れを理解し、自分で行動できるようになる。
- 教科書の音読やノートを取り方など、教科学習の取り組み方がわかる。
- 担任とのかかわりを深め、周りの教師を知る。
- クラスの子どもたちを認識し、友だちとしてのかかわりを広げる。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

音読やスピーチを通して、みんなの前で発表しようとする意欲をもつ。異学年や教師とのかかわりを通して、校内にあるさまざまなものや場所、学校生活を支えている人などを知る。

きいて話して
友だちをつくろう！

つながる
力

席替えや外遊びを通して、クラスの子どもたちとふれあい、友だちとの関係を築いていく。

自分で元気な
生活をつくろう！

元気に生活
する力

学校生活のルールを身につける。一日の学校生活の流れを見通す。

学びを
楽しもう！

考えてチャレンジ
する力

教科書を使って、教科学習に取り組む。黒板の字をノートにかき、文字・数字をかく楽しさを感じる。

教師の指導

- チャイムや時計を意識して行動できるように促す。
- 音読やノートの取り方を、繰り返し指導する。
- 子ども同士の間関係が広がるよう促す。

環境づくり

- 時間割表を提示し、5月から時間割通りに進める。
- マス黒板など視覚的にわかりやすい掲示物を多用する。
- 授業時間だけでなく、休み時間も人間関係が広がるよう、みんなで遊びを取り入れる。

小学校1年生 6月

テーマ

学びを深めよう！ 水泳学習も始まるよ



ねらい

- 言葉や文字、数字をかくことに対する興味・意欲が高まる。
- 集団生活のルールや態度を身につける。
- 水泳学習のルールや準備を理解する。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

自分の考えや思いをみんなの
前に出て伝えようとする。

きいて話して
友だちをつくらう！

つながる
力

教師の話や指示をしっかりとときき、
遊びを通して友だちとの関係を深
める。

自分で元気な
生活をつくらう！

元気に生活
する力

学年全体で指示をきいて自分で
行動できる。事前準備(着替え・
ルール・準備物)の仕方を学ぶ。

学びを
楽しもう！

考えてチャレンジ
する力

言葉集めを通して、多くの語句にふ
れたり、短い文をつくったりできる。
足し算・引き算を学習し、計算への
興味・関心をもつ。

教師の指導

- 子どもの興味・関心が高まるように、教材を工夫する。
- 生活や学習の流れの見通しを感じて、行動できるように指導する。
- 宿題や提出物、学習用具などの忘れ物が多い子どもの保護者と連絡をとり、安心して生活す
るために忘れ物をしないよう協力を依頼する。

環境づくり

- 間違いやつまずきを活かす指導を心がけ、子どもの気持ちに寄り添いながら学習や活動を展
開する。

小学校1年生 7月

テーマ

学びを振り返ろう！ 楽しい夏休みまでもう少し



ねらい

- 1学期の学習をまとめて振り返る。
- 自ら健康や安全に気をつけて生活することを意識する。

大切にしたい視点

自分も相手も
好きになろう！

大切に
する力

初めての通知表をもらい、自身の
努力や成長を実感する。

きいて話して
友だちをつくらう！

つながる
力

友だちと約束し、遊ぶ。学校外でも
友だちとの関係を広げる。

自分で元気な
生活をつくらう！

元気に生活
する力

夏休みの過ごし方を理解し、楽
しく安全に過ごすようにする。

学びを
楽しもう！

教えてチャレンジ
する力

1学期の学習が定着する。絵日記
のかき方を学び、自分の思いを文
章にする。

教師の指導

- これまでの学習内容のまとめを通して、学習の定着を促す。
- 習ったひらがなを使って、自分の思いを表現する楽しさを感じさせる。

環境づくり

- 1学期の学習を振り返るシートを活用して、子ども自身が成長を実感できる機会をもつ。
- 人間関係の広がりやさまざまな行事を通して学んだことなどを、互いにわちあえる場を設ける。

時間を意識する



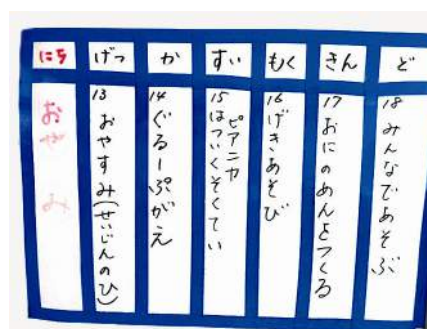
一日の予定



行事を知る



1週間のスケジュール



ひらがな表



言葉遊びゲーム



お手紙ごっこポスト・スタンプ



ひも結び練習



※幼稚園・保育所や小学校で取り組まれている環境づくりを掲載しています。

小学校1年生 4月の週案モデル

第1週のテーマ：初めまして、小学校！						
	2日(火)	8日(月)	9日(火)	10日(水)	11日(木)	12日(金)
1時間目	入学式 ・入学式に参加する。 ・歓迎の言葉をきく。	使い方を知ろう ・下足、トイレ、連絡袋などの使い方を覚える。	元気にあいさつ ・あいさつや返事の仕方、出欠の取り方などを覚える。	楽しく歌おう ・幼稚園や保育所で歌った歌でリズム体操などを行う。	対面式練習 ・次週に行われる対面式の趣旨などを知る。 ・並び方やあいさつの仕方を覚える。	運動場で遊ぼう ・ドッジボールや鬼ごっこなど、運動場で体を動かす。
	行事1	生活1/2 学活1/2	国語1/2 学活1/2	体育1/2 音楽1/2	国語1/2 学活1/2	体育1
2時間目	初めての学級 ・学校、教師の名前、自分の座席などを覚える。	下校準備・指導 ・同じ通学路の子ども同士で自己紹介をする。	使い方を知ろう ・机やイス、引き出し、ロッカーなどの使い方を覚える。	好きな遊び ・幼稚園や保育所で行っていた遊びを行う。例：じゃんけん大会など。	好きな遊び ・小学校にあるさまざまな遊具の使い方を理解し、遊ぶ。	教材の使い方 ・教科書やノート of 使い方を教わる。 ・えんぴつを使いながら、ひらがなをかく練習する。
	国語1/2 学活1/2	国語1/2 学活1/2	生活1/2 学活1/2	体育1/2 音楽1/2	体育1	国語1
3時間目			下校準備・指導 ・同じ通学路の子ども同士で自己紹介をする。	自己紹介をしよう ・自分の名前と好きなものやことを、クラスの前で紹介する。	学校を探検しよう ・教師や友だちと一緒に、さまざまな教室や部屋を見回る。 ・各教室や部屋の目的や使用方法について知る。	給食を知ろう ・栄養士から給食や食に関する話をきく。 ・給食をつくるための調理器具を見たりふれたりする。
			国語1/2 学活1/2	生活1/2 国語1/2		
4時間目				名刺をつくろう ・自分の名前を紙にかく。	・出会った教師や職員の人に、名刺を渡して自己紹介する。	・来週から始まる給食の献立や食材などについて教えてもらう。
				国語1/2	生活1/2 国語1/2 学活1/2	生活3/2
				下校準備・指導 ・安全な下校の仕方について理解する。	下校準備・指導 ・安全な下校の仕方について理解する。	下校準備・指導 ・安全な下校の仕方について理解する。
				国語1/4 学活1/4	国語1/4 学活1/4	国語1/4 学活1/4
時数	生活：3 1/2 国語：5 3/4 算数：0 体育：3 音楽：1 図工：0 道徳：0 学活：4 3/4 行事：1					

再掲：3つの活動形態

たのしみタイム
(学校が好きになる、行きたくなる)

ふれあい交流や遊びを取り入れた学習などにより、学校生活を知って楽しみにし、学校も教師も友だちも好きになるための時間。

わくわくタイム
(学びに向かい、学びを楽しむ)

生活科を中核とした合科的・関連的な学習を進め、学びの芽生えを活かしながら、学習への興味・関心を高める時間。

ちゃれんじタイム
(学びを深め、意欲的に学ぶ)

教科ごとの学習に取り組み、学びを深め、意欲的に学習していく力を身につける時間。

第2週のテーマ： いよいよ勉強！自分で生活！					
	15日(月)	16日(火)	17日(水)	18日(木)	19日(金)
1時間目	対面式であいさつ ・6年生に誘導されながら、みんなの前であいさつをし、プレゼントをもらう。 ・他の学年の子ともふれあい活動を行う。	似顔絵をかこう ・鏡を見ながら、自分の顔をえんぴつやクレヨンを使ってかく。 ・友だちと見せあったりしながら楽しむ。	2年生とのふれあい交流 ・2年生とグループをつくり、簡単なゲームで交流を深める。	読みきかせ ・幼稚園・保育所で読んだ絵本や小学校にある新しい絵本を見たり、読んだりする。	体育館で遊ぼう ・体育館でリズムにあわせて体を動かす。 ・クラスを2つのグループにわけて、ドッジボールを行う。
	国語1/2 学活1/2	国語1/2 図工1/2	生活1/2 学活1/2	国語1	体育1/2 音楽1/2
2時間目	検診 ・内科検診などを受診する。 ・体や健康についての話をきく。	春をみつけよう ・運動場や近くの公園に出かけ、春の花や草木を観察(名前を知る、数を数える)する。 ・発見したものを友だちと一緒に見せあう。	検診 ・視力・聴力検診を受診する。 ・体や健康についての話をきく。	かけっこ ・背の順や席の順などでかけっこをしたり、おにごっこする。	学校の外を探検しよう ・学校の外にはどんな建物や自然があるのか探検する。 ・学校の周りを一周しながら、散策する。
	国語1/2 学活1/2		国語1/2 学活1/2	生活1/2 体育1/2	生活1
3時間目	学校を探検しよう ・教師や友だちと一緒に、先週探検した場所以外の教室・部屋を見回す。		ならびっこ ・背の順や席の順など、さまざまなパターンの並び方をゲーム形式で行う。	ひらがなを覚えよう ・ひらがな順を発声したり、かいたりして覚える。	ひらがなを覚えよう ・ひらがな順を発声したり、かいたりして覚える。
	生活1		生活1/2 体育1/2	国語1	
4時間目	給食準備 ・6年生が給食の準備をする。 ・1年生は6年生が準備している様子を見て、何をするのかを理解する。	春をかいてみよう ・「春をみつけよう」で発見した花などを生活カードにかく。	ひらがなを覚えよう ・ひらがな順を発声したり、かいたりして覚える。	1～10の数 ・1～10までの数を唱えたり、かいたりして覚える。	
		国語1/4 図工1/4	国語1/2	算数1/2	国語3/2
		給食準備 ・6年生を見て、給食の準備を理解する。	給食準備 ・6年生を見て、給食の準備を理解する。	給食準備 ・6年生を見て、給食の準備を理解する。	給食準備 ・6年生を見て、給食の準備を理解する。
	生活1	生活1/2	生活1/2	生活1/2	生活1/2
楽しい給食					
5時間目	そうじの仕方 ・そうじ道具の種類や置き場所、仕方を教わる。	ねんど遊び ・道具の使い方を教わる。 ・ねんどを使って自由に制作活動を行う。	1～10の数 ・1～10までの数を唱えたり、かいたりして覚える。 ・周りにある1～10までの物を探してみ。	リズム遊び ・幼稚園・保育所で経験したリズム遊びや小学校で新しく知ったリズム遊びを行う。	1～10の数 ・1～10までの数を唱えたり、かいたりして覚える。 ・周りにある1～10までの物を探してみ。
	国語1/2 学活1/2	図工1	算数1	音楽1/2 学活1/2	算数1
時数	生活:7 1/2 国語:7 1/4 算数:3 体育:1 1/2 音楽:1 図工:1 3/4 道徳:0 学活:3 行事:0				

	第3週のテーマ： 係の仕事、始まるよ！～勉強も頑張ろう～				
	22 日(月)	23 日(火)	24 日(水)	25 日(木)	26 日(金)
1 時間目	全校集会への参加 ・全校集会に参加する。	歌でなかよし ・小学校で新しく教わった歌をクラスの友だちと一緒に歌う。 ・輪唱などのゲームを交えながら楽しく歌ったり、体でリズムをとったりする。	エイテル体操 ・エイテル体操(八尾市の体操)を教えもらい、みんなで楽しく踊る。	おんどく ・国語の教科書をみんなで音読する。 ・部分わけしながら、担当をきめて音読したりする。	おんどく ・国語の教科書をみんなで音読する。 ・部分わけしながら、担当をきめて音読したりする。
	学活 1/2				
	運動場で遊ぼう ・ボール遊びや鬼ごっこなど、体を動かして遊ぶ。				
	体育 1/2	体育 1/2 音楽 1/2	体育 1/2 音楽 1/2	国語 1	国語 1
2 時間目	おんどく ・国語の教科書をみんなで音読する。 ・部分わけしながら、担当をきめて音読したりする。	おんどく ・国語の教科書をみんなで音読する。 ・部分わけしながら、担当をきめて音読したりする。	おんどく ・国語の教科書をみんなで音読する。 ・部分わけしながら、担当をきめて音読したりする。	ひらがなを覚えよう ・ひらがな順を発声したり、かいたりして覚える。	ひらがなを覚えよう ・ひらがな順を発声したり、かいたりして覚える。
	国語 1	国語 1	国語 1	国語 1	国語 1
3 時間目	ひらがなを覚えよう ・ひらがな順を発声したり、かいたりして覚える。	図書館で本を見よう ・図書館に行き、自分の好きな本を探し、見たり、読んだりする。 ・それぞれが好きな本を借りる。	1～10の数 ・1～10 までの数を唱えたり、かいたりして覚える。	こいのぼり制作 ・画用紙に色を塗ったり、はさみで切ったりしながら、こいのぼり制作の素材をつくる。 ・つくった素材をクラスみんなで貼りつけながら、一つのこいのぼりを制作する。	1～10の数 ・1～10 までの数を唱えたり、かいたりして覚える。
	国語 1		算数 1		算数 1
4 時間目	給食準備 ・1年生だけで給食の準備を行う。 ・グループをわけて、そのうち1グループが給食の準備を行う。		宿題頑張ろう ・宿題の目的や内容、提出物・期限などを理解する。		さまざまな動き ・体を曲げたり伸ばしたりしながら、さまざまな動きをする。
		生活 1/2 国語 1/2 算数 1/2	生活 1/4 学活 1/4	生活 1/2 国語 1/2 図工 1/2	生活 1/4 体育 1/4
		給食準備 ・給食当番が給食の準備をする。	給食準備 ・給食当番が給食の準備をする。	給食準備 ・給食当番が給食の準備をする。	給食準備 ・給食当番が給食の準備をする。
	生活 1	生活 1/2	生活 1/2	生活 1/2	生活 1/2
楽しい給食					
下校	家庭訪問				
	行事 1				
時数	生活:4 1/2 国語:9 算数:2 1/2 体育:1 3/4 音楽:1 図工:1/2 道徳:0 学活:3/4 行事:5				

第4週のテーマ： いよいよ時間割通り始まるよ！～宿題も頑張ります～						
		29 日(月)	30 日(火)	5月1日(水)	5月2日(木)	5月3日(金)
1 時間目	昭和の日		ならびっこ・かけっこ ・背の順や席の順など、さまざまなパターンの並び方をゲーム形式で行う。 ・並んだ順でかけっこする。	好きなものを知らせよう ・自分の好きな絵などで、画用紙にかく。 ・かいたものを友だちの前で発表をする。 ・クラスの友だちと見せあいっこしながら、感想を話しあう。	さまざまな動き ・友だちとペアになり、体を曲げたり伸ばしたりしながら、さまざまな動きをする。	憲法記念日
			生活1/2 学活1/2	生活1/2 国語1/2	生活1/2 体育1/2	
2 時間目			おんどく ・国語の教科書をみんなで音読する。 ・部分わけしながら、担当をきめて音読したりする。	図書館で本を見よう ・図書館に行き、自分の好きな本を探し、見たり、読んだりする。 ・それぞれが好きな本を借りる。	おんどく ・国語の教科書をみんなで音読する。 ・部分わけしながら、担当をきめて音読したりする。	
国語1			生活1/2 国語1/2	国語1		
3 時間目			ひらがなを覚えよう ・ひらがな順を発声したり、かいたりして覚える。	ひらがなを覚えよう ・ひらがな順を発声したり、かいたりして覚える。	初めてのグループ活動 ・グループごとに、各教室にひらがなでかかれたキーワードを集めて、一つの文章をつくる。	
国語1			国語1	国語1		
4 時間目			いくつか ・教師が見せたものの個数などを数字でかいたりする。	いくつか ・教師が見せたものの個数などを数字でかいたりする。	いくつか ・教師が見せたものの個数などを数字でかいたりする。	
算数1/2			算数1/2	算数1/2		
給食準備 ・給食当番が給食の準備をする。			給食準備 ・給食当番が給食の準備をする。	給食準備 ・給食当番が給食の準備をする。		
生活1/2			生活1/2	生活1/2		
楽しい給食						
5 時間目			あさがおを育てよう ・校庭で、あさがおの種を植える。 ・あさがおの育つ過程や花の構造について教わる。	ココロのことは ・道徳の教材などを使いながら、思いやりの気持ちや言葉の大切さについて教わる。	歌でなかよし ・小学校で新しく教わった歌をクラスの友だちと一緒に歌う。 ・輪唱などのゲームを交えながら楽しく歌ったり、体でリズムをとったりする。	
生活1			国語1/2 道徳1/2	学活1/2 音楽1/2		
時数	生活:4 1/2 国語:6 1/2 算数:1 1/2 体育:1/2 音楽:1/2 図工:0 道徳:1/2 学活:1 行事:0					

第5章 配慮や支援が必要な子どもの就学支援

● 幼稚園・保育所、小学校、家庭、地域の連携と役割

教育・保育現場においては、「コミュニケーションをとるのが難しい」「トラブルが多い」「パニックを起こすことが多い」などの子どもに対して、一人ひとりにあった配慮や支援をすることが必要です。

特に、接続期において、幼稚園・保育所で保育者が子どもの特性をしっかりととらえ、小学校の教師と連携をはかりながら小学校へ引き継いでいくことが大切です。

また、家庭や地域の関係機関・団体とも連携しながら、一貫性をもちながら一体的に支援や対応をしていくことが大切です。

■ 幼稚園・保育所、小学校、家庭、地域の関係機関・団体との役割



一人ひとりにあった配慮や支援を、
さまざまな立場で共有し、対応する。

幼稚園・保育所

- 子どもの気になる様子や行動を具体的に整理する(苦手なことを記録するなど)。
- 個別指導計画などを作成し、一人ひとりにあった対応や支援を検討する。
- 幼稚園・保育所内で配慮や支援が必要な子どもの様子や行動について話しあう機会や研修機会を設ける。
- 必要に応じて専門機関と連携をはかったり、専門家への相談や助言を受けたりする。
- 保護者と子どもの就学について話しあえる機会をもつ。

小学校

- 幼稚園・保育所の子どもの様子を見学することで、就学後の配慮や支援の在り方を検討する。
- 小学校体験入学などで、小学校生活や環境にふれられる機会を充実する。
- 幼稚園・保育所の保育者と就学する子どもの情報交換を行い、円滑な接続ができるようにする。
- 入学前に、保護者と成育歴などを共有し、その後の指導の参考にする。

家庭、地域の関係機関・団体

- 保護者は、成育歴や家庭での子どもの様子などを必要範囲内で保育者や教師に伝える。
- 保護者は、子どもの様子や行動に対する気になる点などについて共通理解・認識を深める。
- 関係機関・団体は、さまざまな情報提供・相談支援について積極的に発信する。
- 関係機関・団体は、必要に応じて専門家による相談支援や研修などを実施する。

● 配慮や支援が必要な子どもの特性と対応

配慮や支援が必要な子どもの特性や対応策を以下にまとめました。なお、子どものそれらの特性は「就学前教育・保育実践の手引き」に即した内容としています。

ここで記載するのは一例であり、各幼稚園・保育所、小学校でそれぞれの子ども一人ひとりの特性をしっかりと理解・認識することが大切です。

なお、八尾市内の関係機関や取組みについては、「就学前教育・保育実践の手引き」に記載しており、必要に応じて情報提供や相談、連携をはかることが大切です。

■ 配慮や支援が必要な子どもの特性や考えられる対応策の例

行動面で気になる子ども	子どもの特性	・一つのことに集中しすぎて、次のことに移れない。 ・興味が持続せず、次から次へ移ってしまう。 ・落ち着きがなく、パニックになることが多い。 ・偏食や適量以上に食べてしまう。
	配慮・支援	・続けたい気持ちを尊重し、無理のない範囲で他の遊びなどを取り入れ、興味の幅を広げる。 ・やりたい遊びなどを一つにきめて、次に移る時は片づけるルールを設ける。 ・静かな場所や落ちつける時間を設け、わかりやすくゆっくりとした声かけを行う。 ・極端な偏食がある場合は、味覚異常を疑い、無理な食事指導は行わない。それ以外（見た目など）では、調理を工夫したり、適切な食事量について指導したりする。
日常動作で気になる子ども	子どもの特性	・動きがぎこちなく、簡単な体操やリズム運動の模倣ができない。 ・片づけができなかったり、簡単な工作（切ったり・貼ったり）が著しく困難である。 ・同年代の子どもに比べて、著しく日常動作（走ったり・跳んだり）が遅い。
	配慮・支援	・全身を使うさまざまな遊びなどを通して、体を動かすイメージをもたせたり、機会を増やす。 ・身体知覚を高める遊びを取り入れる。 ・写真や図を使って片づける場所などをわかりやすく示したり、個別に指導したりする。
対人関係で気になる子ども	子どもの特性	・乱暴、友だちとのけんかななどのトラブルが多い。 ・遊びのルールを理解しつつも、守りながら行動できない。 ・集団生活・遊びに著しくなじむことができない。 ・自分勝手な言動が多い。
	配慮・支援	・危険な場合は制止し、子どもの安全を確保する。子どもの言い分をしっかりと聞き、必要に応じて仲立ちをする。 ・場面に応じてルールを提示したり、再確認する。場合によっては、写真や図を用いてわかりやすく工夫する。 ・子どもそれぞれがもつ良いところなどを、他の子どもたちと認めあったりできる機会を設ける。 ・話したい気持ちや行いたい気持ちを受けとめつつも、集団生活や遊びのルールや他の子どもへの思いやりの気持ちをもつことの大切さを伝えていく。
言葉が気になる子ども	子どもの特性	・発音が不明瞭、構音要領が未習得である。 ・きいた通り言い返したり（エコーリア）、大人の言う簡単なことが理解できない。 ・自分の名前が読めない・かけない。 ・文字が著しく乱雑である。 ・学習の定着が著しく遅い。
	配慮・支援	・わかりやすい言葉でゆっくり繰り返して話しかける。 ・言葉の意味が理解できているか確認しながら会話を進めていく。 ・習熟度を把握し、反復練習を繰り返し行い、文字や言葉の習得を進める。 ・規則正しい生活習慣を身につけ、物事への集中力を高めていく。 ・できたことを認め学習に対する意欲を高める。 ・ものを描いたりすることで、えんぴつの運び方を体験させる（運筆練習をする）。

※「就学前教育・保育実践の手引き」における『配慮や支援が必要な子どもの教育・保育』の内容に対して、接続期の内容を一部追記しています。

●保護者・保育者・教師の連携に向けて

配慮や支援が必要な子どもに対しては、保護者・保育者・教師がその子どもの特性を把握・共有し、長期的な課題、短期的な課題についてそれぞれの立場で考え、一貫性のある対応策を検討していくことが求められます。

それら取組みを進めていくにあたっては、必要に応じて一人ひとりの教育・保育ニーズに即した個別の指導計画を作成し、充実させていくことが必要です。

その中で、八尾市では幼稚園・保育所、小学校を対象とした「個別の指導計画」の作成のための手引きを作成しています。

ここでは、それら手引きを参考としつつも、特に接続期を意識した指導計画のイメージを掲載しており、他の手引きと同様に参考として活用されればと考えます。

■接続期を意識した指導計画の大切にしたい視点

- ① どの幼稚園・保育所、小学校においても、子どもの状況や課題が共通の観点で理解される。
- ② 保護者の意向を把握し、反映する。
- ③ 子どもの良さやできることなども大切に示す。
- ④ 接続期として、小学校に引き継ぎたいこと、幼稚園・保育所から受け継いだことを示す。

■接続期を意識した指導計画のイメージ

【幼稚園・保育所版】				【小学校版】			
なまえ	男・女	学級	歳児学級	なまえ	男・女	学年・クラス	学年 クラス
作成年月日	年 月 日	作成者		作成年月日	年 月 日	作成者	
子どもの特性				子どもの特性			
長期の目標				長期の目標			
短期の目標				短期の目標			
気になる特性	子どもの状況	配慮・支援	評価・課題	気になる特性	子どもの状況	配慮・支援	評価・課題
行動面				学習面			
日常動作				日常生活			
対人関係				その他			
言葉							
その他							
小学校に引き継ぎたいこと				幼稚園・保育所から受け継ぎたいこと			
保護者の意向				保護者の意向			

第6章 幼稚園・保育所、小学校の連携(交流)

子ども同士



大切にしたい視点

自分も相手も好きになろう！

学びを楽しもう！

一日体験入学

5年生と一緒に学校探検で施設見学したり、1年生の授業風景を見学したりする。また、5年生と給食交流を行う。

幼稚園・保育所のねらい

小学校に見学に行くことで小学校への不安や戸惑いを少しでも軽減し、希望と見通しをもって就学できるようにする。

小学校のねらい

自分の学校に自信をもって紹介し、園(所)の子どもに思いやりの気持ちをもつとともにコミュニケーション能力を高める。

主な準備ごと・当日の流れなど

準備	小学校と一日体験入学の時期を打ちあわせる。 保護者に案内するとともに、子どもの食べ物アレルギーの把握を行う。 事前に5歳児の名簿を渡しておく(就学する子どもを把握するため)。
10:00	学校説明(担当教師より)。 グループわけをし、5年生と自己紹介をしあったり、学校探検カードをもらったりする。
10:20	20分休みを利用して、5年生と一緒に校庭で遊ぶ。
10:40	1年生の授業見学を行う。
11:35	5年生と学校探検に行く(校長室、職員室、音楽室、図書室、体育館など)。 ⇒各拠点に担当の教師が配置され、探検カードにシールを貼ってくれる。
12:10	5年生と給食交流を行う。 ⇒配膳は5年生がしてくれる。苦手な食材は始めから少なめにしてもらう。
13:05	帰る準備をし、帰園する。 ⇒5年生に感謝の気持ちを伝える。



発達・学びのポイント

- 友だちと一緒に学校体験をすることで、就学へのイメージを膨らませ安心と期待がもてた。
- 5年生が優しく声をかけたり、トイレに連れて行ってくれたりすることにより、少しずつ5年生に信頼感をもっている子どもの姿があった。
- 1年生の授業を見たり、机に向かって本を読んだりできたことで、就学への意欲が高まり、その後の園生活で学校ごととして数や文字の学びへとつながった。

反省・評価など

- 授業見学では、途中子どもも参加できるクイズ形式にしてくれたり、一緒に教科書を見せてもらったりすることができ、興味をもって集中して授業を見学できた。
- 学校探検では、小学校の教師も一緒になって参加したことで、教師に対するイメージももてたように感じた。
- 給食体験では、少し食べにくい食材があったため、食べるのに苦戦している姿が見られた。みんなが食べやすい日を園(所)側が選択できて良いと思う。

5年生との交流(七夕飾りづくり)

5年生と一緒に七夕飾りをつくり、ふれあい交流を行う。

幼稚園・保育所のねらい

さまざまな人とかわることで、愛される喜びや信頼感をもつ。5年生との交流を通して、1年生になる喜びと期待を感じる。

小学校のねらい

園(所)の子どもとの交流を通し、自らの成長を感じる。

主な準備ごと・当日の流れなど

準 備	保育者と教師の顔あわせを行い、子どもの実態を踏まえ、互いのねらいを明確にしながら、交流内容について具体的に話しあう。 準備物・日時・場所の確認をする(次年度以降の資料として残す)。 事前に参加者の名簿を渡し、5年生との仲良しペアを決定してもらっておく。
9:10	園(所)の門の前に5年生が迎えにきてくれる。 ⇒園(所)の子ども1人に対し、5年生2人～4人の仲良しペアをつくる。
9:15	小学校で一緒に七夕の飾り(かいがら、ちょうちん、ロケット、くすだまなど)をつくる。願いごとを一緒にかく。 ⇒5年生が園(所)の子どもの願いごとをきいてかいてくれる姿や、えんぴつでうすくかいてからなぞれるようにしてくれている姿が見られた。
9:45	片づけをし、5年生と一緒につくったものをもって園(所)の園庭へ移動する。
10:00	つくった飾りをつける。
10:15	リズム『おりひめ・ひこぼし』でふれあって遊ぶ。 楽しかったことなど、感じたことを伝えあう。
10:20	解散。



発達・学びのポイント

- 初めてかわるお兄さん・お姉さんに緊張した様子が見られたが、優しくしてもらったことで、笑顔がたくさん見られるようになり、「また一緒に遊びたい」という小学校への期待にもつながった。
- 言葉の数は少なかったかもしれないが、おんぶやだっこなど、全身で甘えている姿が印象的だった。
- 教師からも「普段は見られない5年生の姿が見られてよかった」との感想があった。

反省・評価など

- 打ちあわせを綿密に行い、今年の子どもの実態にあわせたねらいをもち、伝えあうことで、互いにねらいの達成に向けて取り組むことができた交流となった。
- 最後にふれあいリズム遊びを取り入れたことで、恥ずかしい気持ちもなくなり、みんなでスキンシップを楽しめた。
- 資料として残すことが次回につながる。
- 休み時間に一緒に遊ぶなど、自然なかかわりもできたらよかった。

一緒に遊ぼう！

小学校の 20 分休憩時に、園庭で小学生と園（所）の子どもと一緒に遊ぶ。

幼稚園・保育所のねらい

短い時間でも小学生と交流することにより、小学生への親しみや小学校生活への期待を高める。

小学校のねらい

園（所）の子どもに対して思いやりの気持ちを持ち、遊びを教えるなどを通して、コミュニケーション能力を高める。

主な準備ごと・当日の流れなど

準 備	5年生の担任と保育者で、事前の日程や内容などの打ちあわせをする。 20 分休憩を利用して園（所）の子どもと5年生の各クラスが交流できるようにする。 園（所）の子どもには、事前にどの組の5年生と一緒に遊ぶかを知らせる。
5年生を迎える	20 分休憩時に5年生の1クラスが園（所）にくる。 園（所）の子どもは5年生を迎える。
あいさつをする	5年生の1クラスと年長児の1クラスが向かいあってあいさつをする。
一緒に遊ぶ	園庭の砂場、遊具、竹馬、サッカーボール、フープ、縄跳び、鬼ごっこなどで一緒に遊ぶ。時間は短いですが、5年生と園（所）の子どもがよりかかわれるように事前に環境を用意する。
あいさつをする	20 分休憩が終わるので、向かいあって「楽しかったね」「ありがとう」など、言葉を交わしてあいさつをする。
5年生を送る	一緒に手をつないで小学校の下足場まで送る。 下足場でそれぞれが最後のあいさつをして、わかれる。
園内で振り返る	クラスで5年生と一緒に遊んで楽しかったことを話しあう。

20 分間の短い休憩時間も交流できる機会としてとらえた。



発達・学びのポイント

- 事前に知らせたことで、5年生と遊ぶことに期待をもってかかわることができた。
- 一緒に遊ぶ中で優しさを感じたり、思いを伝えたりして、親しんでかかわっていた。

反省・評価など

- 以前にも一緒に遊んだが、個人差もあり自分の好きな遊びに没頭している子どももいたので、教師も一緒に遊びながら5年生とかかわるきっかけをたくさんつくり、支援していく。

公開授業・保育への参加

地域交流会として、幼稚園・保育所、小学校の保育者や教師が公開授業・保育見学を行い、教育・保育内容を共有する。また、課題別分科会で意見交換することで、今後の幼保小が連携した教育・保育実践のあり方について検討する。

ねらい

地域で育てるという意識を保育者・教師がもつことで、子どもたちの育ちが見える。また、保育者・教師同士が意見交換する場を大切にするすることで、共通理解ができ、幼保小でのつながりができる。

準備

- 「校区交流会」担当者が集まり、その年度の交流の持ち方（公開授業・保育の担当校園、分科会内容）や実施日について話しあう。
- 公開授業・公開保育の感想や、子どもたちの実態を話しあう「分科会」を立ちあげる。
- 事前に指導案を作成し、全員に配布する。



公開授業・保育

- あらかじめ目を通していた「指導案」をもって、授業の様子を見学してまわる。

ゆっくりとした時間が取れない中での交流会になってしまいがちなので、全教職員があらかじめ意識をもって参加することが大切になる。

分科会

- 分科会には、幼稚園・保育所、小学校がわかれて参加するようにする。
- 「生活指導」「特別支援教育」「進路指導」「事務」の分科会に参加する。
- 司会・記録もそれぞれの校種間の担当で分担する。

それぞれの発達段階での成長や就学までにつけておきたい力を双方向から意見交換することで、新しく気づく部分や活動内容をアピールできる部分があり、大切なつながりの場になっている。

まとめ

- 参加者から分科会の意見と感想文を集め、冊子にしてまとめる。
- それぞれ話しあわれたことを、共通理解できるようにする。

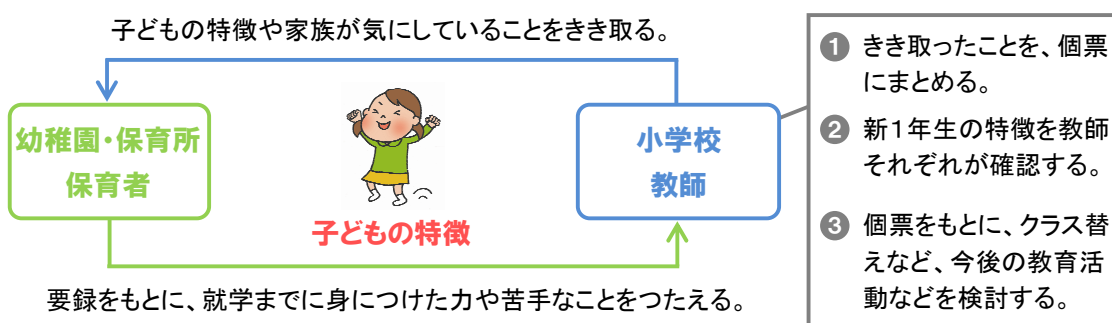
やったことで満足するのではなく、共有した意見を、その後の子どもたちへのかかわりに活かすことが大切になってくる。

入学する子どもの引き継ぎ

入学前の新1年生の実態把握や配慮を要する子どもについての意見交流を行い、クラス編成時などの参考にする。また、1学期終了時には、保育者が小学校へ行き、1学期終了時点での子どもの様子を見る。

ねらい

小学校の教師が、入学前の新1年生についてあらかじめ把握することで、入学後に一人ひとりの特性に応じた適切な指導につなげる。入学前の引き継ぎ時と1学期終了時での子どもの様子をかんがみ、長いスパンで子どもの成長を見守る。



配慮や支援が必要な子どもは、

教室の環境づくりが大切であり、保育者と情報交換を密にして一緒に考えてもらいながら、子どもにあった支援を行うことが大切。

個人情報の取り扱いになるため、

慎重に行う必要がある。入学してから経過を見て、また保育者に見学をしてもらいながら意見を交流することも大切。

入学後にも、子どもの様子を共有することが大切です！

入学する時の子どもの引き継ぎ以外にも、その子どもが小学校入学後にどのように成長しているかや何が課題として残っているかを保育者と教師で共有することで、互いの教育・保育実践を見直すきっかけになります。

保育者の感想

園(所)では緊張のしすぎで当番の時に泣いていた子どもが、日直や係活動に取り組んでいることなど、子どもの成長を知れたことが良かった。

教師の感想

保育者が小学校への入学前に、給食のことや45分座っていること、ひらがな学習について、とても心配していることがわかった。

第7章 保護者支援(連携)・保護者啓発

●保護者支援(連携)・保護者啓発の重要性

平成24年度に実施した「就学前教育・保育実践の手引き」の作成にかかるアンケート調査では、小学校入学に際して、不安や心配がある保護者が8割以上という結果になっています。また、その内容については、「登下校」と「友だちとの関係」が約8割となっています。その他、「勉強」「授業への集中度」「自分の意見の発表・発言」などに関しても不安や心配を感じている保護者が多く、人間関係や学習面、安全面などさまざまな事柄に不安や心配を感じていることがうかがえます。



小学校入学により、子どもの生活環境や教育課程などが大きく変化する中で、特に接続期において、幼稚園・保育所では就学に向けた不安や心配、小学校では新しい学校での生活に対する不安や心配など、それぞれの立場で子どもや保護者の状況を把握・共有していくことが求められます。そして、それら多岐にわたる保護者の不安や心配の解消に向けたさまざまな取り組みを進めていくことで、子どもと保護者の双方にとって円滑な接続をはかっていくことが必要です。

●保護者支援(連携)・保護者啓発に向けて

保護者支援(連携)・保護者啓発に向けて、幼稚園・保育所、小学校において大切にしたい視点を以下にまとめました。



●具体的な取り組み例

保護者支援（連携）・保護者啓発について、八尾市の幼稚園・保育所、小学校で行われている事例を交えながら具体的な取り組み例を以下にまとめました。

なお、幼稚園・保育所と小学校で具体的内容をわけていますが、内容によってはどちらでも活用できるものもあります。

1 子どもの様子や教育・保育内容の共有

幼稚園・保育所

- 「クラスだより」などで、日頃の子どもの様子や活動した内容などを伝え安心してもらう。
- 小学校の教師から保護者向けに、小学校での生活に関する手紙を定期的に送付してもらう。
- 幼稚園・保育所と小学校がビデオレターを送りあい、就学への期待感を高めたりする。
- 小学校の情報をわかりやすく伝え、安心して就学に期待がもてるようにする。
- 小学校生活に関する情報誌・ハンドブックなどを作成、配布する。
- 子どもの成長や良いところを伝えて、子育て・教育の思いを共有する。
- 配慮や支援が必要な子どもについては、指導計画の作成・共有や、関係機関の情報提供などを行い、一人ひとりにあった対応に努める。
- 就学説明会を行い、就学に向けた情報提供を行う。
- 連絡事項を連絡帳にもかくとともに、子どもにも伝え、子どもを通して保護者にきいてもらう。
- 小学校との引き継ぎのポイントを話しあい、子どもが円滑に小学校生活をスタートできる内容にしていく。
- 保育参観に小学校の教師に見学にきてもらう。



特に接続期においては、園（所）内での活動がどのように小学校につながるかを伝えることが大切です。

例：時計を見て行動する
→授業に間に合う



子どもたちは、園（所）・学校と保護者をつなぐ一役を担っています。子どものつながる力を高めることにもつながります。

小学校

- 不安や悩みを電話や文章（連絡帳など）で伝えてもらうようにする。
- 連絡帳に気になること、わからないことを書いてもらう。
- 保護者の給食体験を行い、保護者にも給食の内容や様子について知ってもらう。
- 学習に遅れそうな子どもの保護者には連絡をして、家庭での宿題の仕方や苦手なことを伝えたりしながら協力してもらう。
- 「学級だより」などで、クラスの様子を伝える（時間割、学習内容を細かく記載する）。
- 入学後の実態アンケートを行う。

② ふれあい・話しあいの場づくり

幼稚園・保育所

- 個人懇談会やグループ懇談会で、子どもの様子を共有したり、保護者の不安を把握する。
- 懇談会などで保護者同士がゆっくり話をし、悩みなどを話せる機会をもつ。
- 話をする機会を設け、信頼関係を深めていく。
- 小学校の教師に小学校生活などの話をしに来てもらう。



保護者の不安や悩み、教育・保育ニーズは一人ひとり異なっていることを意識し、保護者によりそっていくことが大切です。

小学校

- 家庭訪問でゆっくりと話をできる時間を多くとる。
- 地域懇談会や小学校で、幼稚園・保育所、小学校、中学校、高校が集まって情報交換をする。
- 学級懇談会で教師とだけでなく、他の保護者間で話す機会をつくり、先輩保護者からアドバイスをしてもらう。
- 保護者同士が交流できる、話せる機会を設ける。



保育者・教師だけでなく、保護者同士のふれあいや話しあいにより、不安や心配が解消されることもあります。

③ 子どもと一緒に楽しむ、育つ

幼稚園・保育所

- 子どもの一日の話をきいてあげる時間をもってもらおう。
- 時間割や準備の確認を一緒にしてもらおう。
- 宿題などを一緒にみてもらおう。
- 時間や文字など意識するような声かけをしてもらい生活を進めてもらおう。
- 基本的生活習慣を確認し、家庭とともに定着していくようにする。
- 自分の荷物は自分でもって登降園（所）できたり、登園（所）時間を自分で守って行動できるようにしてもらおう。
- 就学に向けて、幼稚園・保育所と家庭で頑張っていきたいことを伝える。

小学校

- 学校へ行く準備を毎日一緒にする。
- 保健だよりで健康について意識してもらおう。
- 忘れ物がないかの最終チェックは保護者がするように啓発する。
- 自分のことは自分でする習慣がつくように啓発する。
- 学校教育や家庭学習に積極的にかかわってもらえるようにする。
- 1学期のうちに「宿題をきちんとやる」「次の日の準備をして忘れ物をしない」ことがあたりまえにできるように声かけをする。



学校生活の準備を一緒にするなど、家庭で子どもと過ごす時間を多くとることで、子どもと一緒に学校生活への期待や楽しさを感じることが大切です。また、家庭での子どもの生活を正しくすることは、保護者の成長にもつながります。

資料編

1. 接続期における教育・保育実践の手引き作成経過

本手引きの作成にあたって開催した「八尾市教育・保育実践の手引き検討会議」及び「八尾市教育・保育実践の手引き検討会議作業部会」での主な議題を以下にまとめました。

年 月 日	会 議 名	議 題
平成 25 年	5月29日(水) 第1回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議	●手引き作成の趣旨 ●今後のスケジュール ●手引き内容イメージ ●検討会議及び作業部会
	5月29日(水) 第1回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議 作業部会	●手引き作成の趣旨 ●今後のスケジュール ●グループワーク ・接続期の現状と課題 ・接続期に大切にしたい視点
	6月28日(金) 第2回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議 作業部会	●グループワーク ・「接続期において大切にしたい視点」の確認 ・アプローチ・スタートカリキュラムの内容の検討（時期別のテーマとねらいなどの検討）
	8月6日(火) 第3回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議 作業部会	●グループワーク ・アプローチ・スタートカリキュラムの内容の検討（時期別のテーマとねらいなどの検討）
	8月29日(木) 第4回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議 作業部会	●グループワーク ・アプローチ・スタートカリキュラムの内容の検討（時期別のテーマとねらい、保育者の援助、教師の指導、環境づくりなどの検討）
	8月29日(木) 第1回 小学校教師ワーキング会議	●グループワーク ・5～7月のスタートカリキュラム内容 ・4月週案の検討
	10月2日(水) 第5回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議 作業部会	●グループワーク ・アプローチ・スタートカリキュラムの内容の検討（時期別のテーマとねらい、保育者の援助、教師の指導、環境づくりなどの検討）
	10月11日(金) 第2回 小学校教師ワーキング会議	●グループワーク ・5～7月のスタートカリキュラム内容 ・4月週案の検討
	11月20日(水) 第6回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議 作業部会	●グループワーク ・育みたい4つの力(小学生版)内容の検討 ・保護者支援(連携)・保護者啓発内容の検討
	12月20日(金) 第2回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議	●作業部会での協議経過 ●手引き(案)の全体確認
平成 26 年	1月17日(金) 第7回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議 作業部会	●手引き(案)の全体確認・修正
	2月4日(火) 第8回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議 作業部会	●手引き(案)の全体確認・修正
	2月28日(金) 第3回 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議	●作業部会での協議経過 ●手引き(案)の最終確認

2. 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議設置要綱

（設置目的）

第1条 幼稚園、保育所及び小学校における子どもの発達や学びの連続性を踏まえた教育・保育の実践の手引きを作成するため、八尾市教育・保育実践の手引き検討会議（以下「検討会議」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条 検討会議の所掌事務は、次のとおりとする。

- （1） 八尾市教育・保育実践の手引きの検討、決定及び推進に関すること。
- （2） その他、上記に関連すること。

（組織）

第3条 検討会議は、委員 10 人以内をもって組織する。

2 委員は、別表 1 に挙げる職にある者のうちから、教育委員会が委嘱し、又は任命する。

（会長及び副会長）

第4条 検討会議に会長及び副会長を置く。

- 2 会長は学識経験者とし、副会長はこども政策課長及び教育政策課長とする。
- 3 会長は、検討会議を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

（会議）

第5条 検討会議は、会長が招集し、主宰する。

2 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を検討会議に出席させることができる。

（作業部会）

第6条 検討会議に作業部会を設置することができる。

- 2 作業部会は、検討会議の会長及び委員 22 名以内をもって組織する。
- 3 委員は、市立小学校、市立幼稚園、市立保育所、私立保育園（所）長及び私立幼稚園の教職員のうちから、教育委員会が委嘱し、又は任命する。
- 4 作業部会の所掌事務は、次のとおりとする。
 - （1） 八尾市教育・保育実践の手引き案の策定に関すること。
 - （2） 八尾市教育・保育実践の手引きの検証、推進に関すること。
 - （3） その他、上記に関連すること。

（任期）

第7条 検討会議委員及び作業部会委員の任期は、委嘱又は任命した日より平成 26 年 3 月 31 日までとする。

（謝礼）

第8条 委員の謝礼の額は、会議に出席した日1日につき会長 21,000 円、私立保育園（所）長及び私立幼稚園長 2,000 円とする。

（庶務）

第9条 検討会議の庶務は、教育政策課において行う。

（委任）

第10条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日より施行する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日より施行する。

3. 八尾市教育・保育実践の手引き検討会議及び作業部会委員名簿

■八尾市教育・保育実践の手引き検討会議委員名簿

※平成 25 年度行政機構順、敬称略

氏 名	所 属 等	備 考
掘越 紀香	奈良教育大学 教育学部 准教授	会長
辻村 和寛	こども未来部こども政策課長	副会長
吉岡 雅之	教育委員会事務局理事教育政策課長事務取扱	副会長
當座 宏章	こども未来部次長兼保育課長	
柿本 みき	八尾市立堤保育所長	
本鍋田 浩司	学校教育部指導課長	
大窪 住子	八尾市立大正幼稚園長	
藤井 一枝	八尾市立中高安小学校長	
浅黄 純子	社会福祉法人若竹保育園園長	
竹川 英子	学校法人竹淵幼稚園園長	

■八尾市教育・保育実践の手引き検討会議 作業部会委員名簿

※平成 25 年度行政機構順、敬称略

氏 名	所 属 等	備 考
掘越 紀香	奈良教育大学 教育学部 准教授	検討会議会長
大西 加代子	八尾市立西郡保育所 所長補佐	
佐々本 清恵	八尾市立荘内保育所 所長補佐	
伊藤 加代子	八尾市立山本南保育所 所長補佐	
北野 淳子	八尾市立弓削保育所 所長補佐	
平山 知永子	八尾市立末広保育所 所長補佐	
岡内 郷子	八尾市立南高安幼稚園 主任	
網島 文香	八尾市立北山本幼稚園 主任	
堀谷 充代	八尾市立南山本幼稚園 主任	
天野 千晶	八尾市立志紀幼稚園 主任	
上田 愛	八尾市立高美幼稚園 主任	
高谷 和美	八尾市立龍華幼稚園 主任	
重尾 知美	八尾市立東山本幼稚園 主任	
古川 千晶	八尾市立安中小学校 教諭	
平野 かおり	八尾市立東山本小学校 教諭	
滝 幸彦	八尾市立刑部小学校 教諭	
瀬田 雅世	八尾市立高安西小学校 教諭	
山本 智美	八尾市立曙川東小学校 教諭	
中平 愛	八尾市立亀井小学校 教諭	
角谷 恵子	こども未来部保育課 保育所運営係長	

※イラスト作成(表紙、時期別の教育・保育内容など): 荘内保育所 岡部和代さん



接続期における 教育・保育実践の手引き

平成26年3月 発行(H25-142)

【発行】八尾市

八尾市教育委員会

〒581-0003 大阪府八尾市本町1丁目1-1

【TEL】072-991-3881(代表)

【ホームページ】<http://www.city.yao.osaka.jp/>